



SIMPLIA/PF-EXSPEC  
V05L04  
オンラインマニュアル

第1.1版

## はじめに

SIMPLIA/PF-EXSPEC(SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/ Program design Facility of EXtended program SPECification output tool 以下EXSPECと呼ぶ)は、YPS仕様書、取り込まれているコピー句、YPSインクルード仕様書の解析情報及びコメント記述からの情報をもとに、モジュール設計書及び設計支援ドキュメントを出力するツールです。

## 登録商標について

本オンラインマニュアルで使われている登録商標及び商標は、以下のとおりです。Microsoft、Windows、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

## 略記について

本オンラインマニュアルでは、各製品を次のように略記しています。

「Windows(R) 8」または、  
「Windows(R) 8 Pro」、  
「Windows(R) 8 Enterprise」、

「Windows 8」

「Windows(R) 7 Home Premium」または、  
「Windows(R) 7 Professional」、  
「Windows(R) 7 Enterprise」、  
「Windows(R) 7 Ultimate」

「Windows 7」

<p>「Windows Vista(R) Home Basic」または、  「Windows Vista(R) Home Premium」、  「Windows Vista(R) Business」、  「Windows Vista(R) Enterprise」、  「Windows Vista(R) Ultimate」</p>		<p>「Windows Vista」</p>
<p>「Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition operating system」または、  「Microsoft(R) Windows(R) XP Professional operating system」</p>		<p>「Windows XP」</p>
<p>「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter」または、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation」</p>		<p>「Windows Server 2012」</p>
<p>「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation」または、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter」</p>		<p>「Windows Server 2008」または、  「Windows Server 2008 R2」</p>
<p>「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation」または、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter」、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)」</p>		<p>「Windows Server 2008」</p>
<p>「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition」または、  「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition」</p>		<p>「Windows Server 2003」または、  「Windows Server 2003 R2」</p>

「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition」または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition」		「Windows Server 2003」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition」または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition」		「Windows Server 2003 x64 Edition」
「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition」または、 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition」、		「Windows Server 2003 x64 Edition」または、 「Windows Server 2003 R2 x64 Edition」
上記の製品すべてを指す場合		「Windows」

### 背景

従来、モジュールのロジック、構造をドキュメント出力するツールは存在しましたが、それだけではモジュール設計書としては不十分でした。YPS仕様書、コピー句、YPSインクルード仕様書から情報を抽出し、モジュール設計書としてのドキュメント作成を支援するため、当ツールを開発しました。

### 開発目的

EXSPECは、YPS仕様書から各種ドキュメントを出力することにより、次の効果をねらっています。

- ・ドキュメント作成及び修正作業の省力化
- ・ドキュメントの標準化
- ・YPS仕様書から情報を抽出することによって、ドキュメントと既存ソフトウェアプログラムが一致し、ドキュメントの品質が向上
- ・保守情報の正確な伝達
- ・ドキュメントのファイル化

EXSPECは、以下の特長により、効果的な開発・保守サポートを実現しています。

## 1. ドキュメントの自動出力

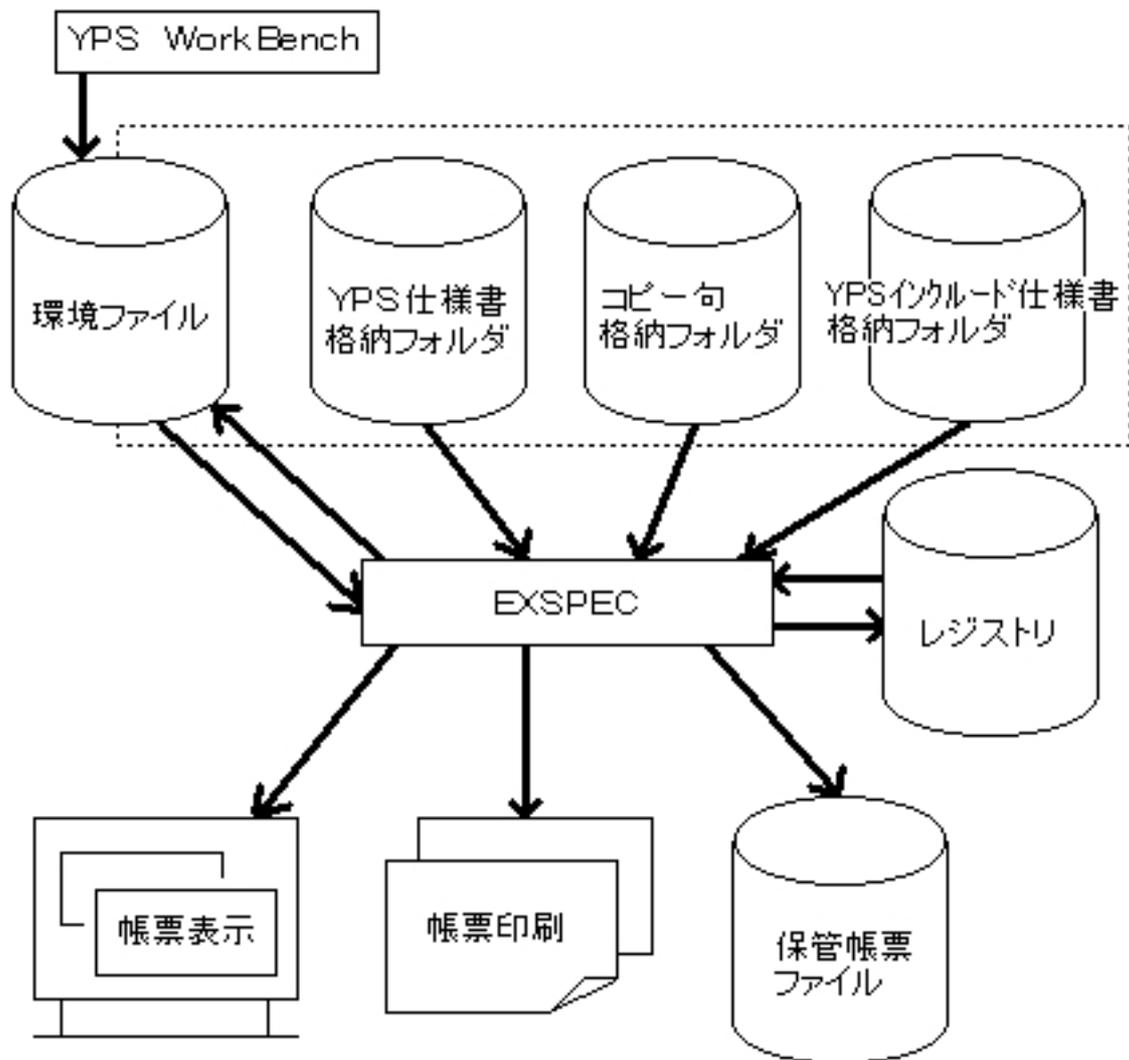
EXSPECは、YPS仕様書を読み、以下のドキュメントを自動出力します。このため、従来のようにドキュメント作成作業に特別な工数を必要とせず、また、ドキュメントの標準化を図ることができます。

- ・モジュール設計書表紙  
指定されたYPS仕様書からシステム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名をコメント情報より抽出することにより、モジュール設計書の表紙を作成します。
- ・変更履歴一覧表  
指定されたYPS仕様書からコメントとして記述されている変更履歴情報より、版数変更日付、変更者、変更内容を一覧形式にした設計書を作成します。
- ・モジュール概要・モジュール概要(補助シート)  
指定されたYPS仕様書から環境部で定義されている外部媒体の関係をブロックダイヤグラムによりビジュアル化し、また、データ部・手続き部で定義されているファイル情報、画面帳票情報、サブルーチン情報、コピー句・YPSインクルード仕様書情報などから内部及び外部のインタフェース項目を一覧形式にした設計書を作成します。
- ・セクション構造図  
指定されたYPS仕様書からユーザが定義した節(セクション)のモジュール上の呼出し関係を図形化した構造図を作成します。
- ・呼出し条件一覧  
指定されたYPS仕様書からユーザが定義した節(セクション)の呼出条件を一覧形式にした設計書を作成します。
- ・セクション機能概要  
指定されたYPS仕様書からユーザが定義した節(セクション)内に記述されている段階的詳細処理及び、要約図記号内のコメントなどから設計書を作成します。
- ・YPS仕様書  
指定されたYPS仕様書の内容をYAC形式で作成します。

## 2. 資源の一元管理

YPS仕様書をドキュメントで一元管理することができます。

EXSPECの機能体系を以下に示します。



..... : 環境ファイルは、YPS開発資源の格納フォルダを管理しています。

## 帳票表示機能

作成された帳票は、プリンタに印刷せずに画面上に表示することができます。

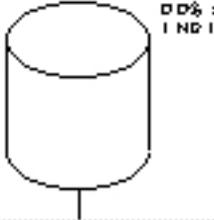
表示された帳票は、容易に大きさを変更することができ、また、見たい帳票のページを指定することもできます。



The screenshot shows a window titled "SIMPLIA/PP-EXSPEC:a.dce" with a menu bar (ファイル(F), 表示(V), 環境(K), ヘルプ(H)) and a toolbar. The main content area displays a report summary titled "モジュール概要".

モジュール概要			作成日	作成者
			1996.12.21	10
システム名	サブシステム名	プログラム名		
全角英字で12文字以内。	全角英字で12文字以内。	全角英字で12文字以内。		
ID	ID	ID		
全角で8文字以内	全角で8文字以内	全角で8文字以内		
組名	組名	組名	横作形式	作成言語
全角英字で11桁に30文字以内で記述します。30文字を超える場合、空白に置き換えますが、これは、キーボードの「既定組名」と区別するため「」は記述してはいけません。			全角英字で10文字以内	YPS/COBOL

<ブロックダイアグラム>



DD% : INDI

ヘルプを表示するには[F1]キーを押してください。

# 帳票印刷機能

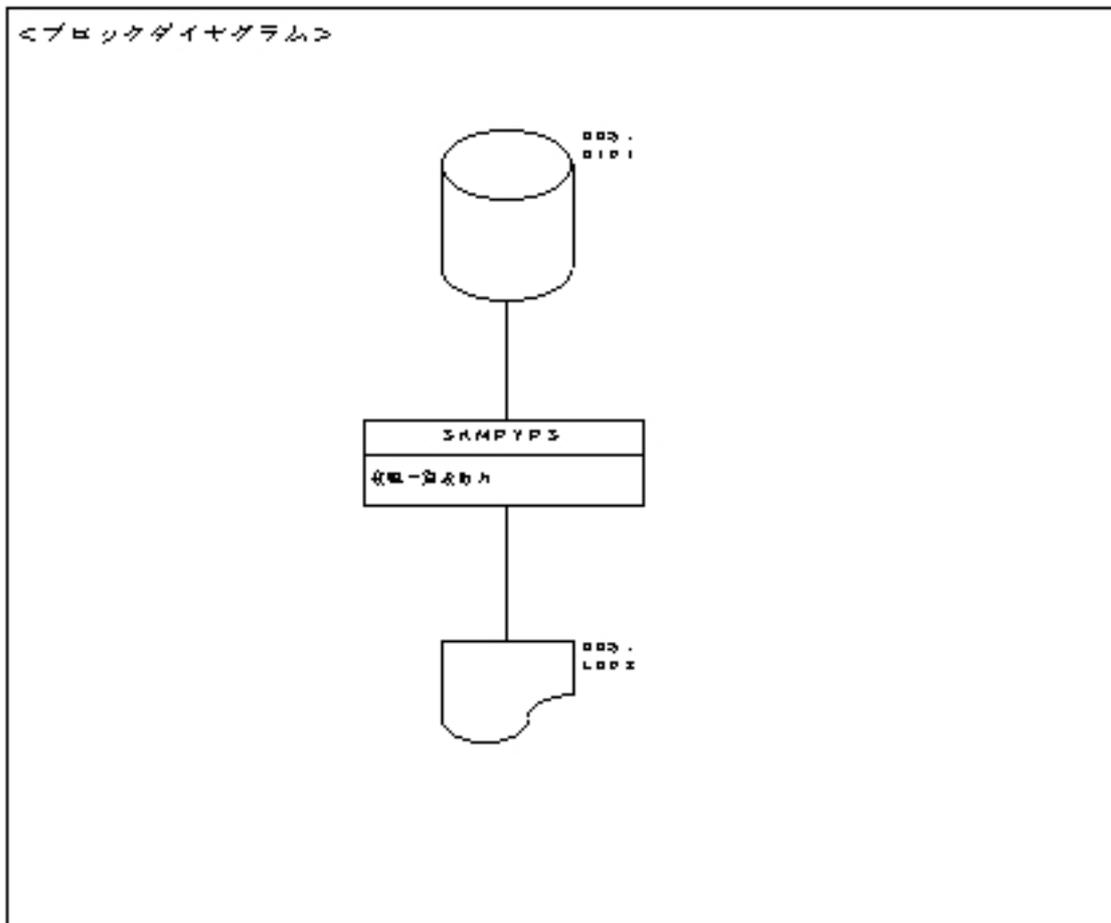
作成された帳票を、あらかじめ指定されたプリンタに印刷することができます。印刷時に帳票の部数と帳票が複数ページある場合は、その印刷開始ページと終了ページを指定することができます。また、帳票表示機能を使って、印刷したい帳票を確認した後でも、その帳票を印刷することができます。

EXSPECは、全帳票をA4サイズで印刷するので、コンパクトにドキュメントを保管できます。

モジュール概要				仕様 #	仕様内容	部 数	ページ
				1991.06.21	18:11:34	478 頁	3

システム名		サブシステム名		ジョブ名		プログラム名	
A帳票等回		一回表件数		収帳一回表件数		収帳一回表出力	
ID	KANREI	ID	HYD	ID	ZKIKD-L	ID	SAMPYPS

帳票	収帳マスアファイル一回表出力形式。	帳票種類	ペーパー	紙面サイズ	紙張
等		帳票形式	YPS/COBOL	ナブスキー等	



ID	ファイル名	アタヒス名	入出力 形式	形式	部数	形式	レポート名	プログラム名	'L'→YPS 'J'→JPL→'収帳'	
1	収帳マスアファイル	DID1	IN	原	DMSD	PS	16	320	3204	SAMPYPS1
2	収帳一回表出力ファイル	L002	OUT	原	LIST	PS	PSA	200	2000	

ID	仕様 #	仕様名	説 明 書
01	1991.03.20	訂正	ページノットアップの仕様を記載。
02	1991.01.23	創設	一回表のレイアウトの記載。
10	1991.09.01	再編	帳票ID、'ZD1-00001'の仕様を訂正。

種	登録年月	登録名	登録内容
D 1	1991.03.20	登録 3	ページソフトに付いた特許登録。
D 2	1991.01.23	登録 4	一頁及び二頁ソフトの特許。
I 0	1991.09.01	特許 100	特許 No. 1-201-00001 の特許登録内容。

All Rights Reserved, Copyright (C) 株式会社 7-11

## 保管帳票機能

作成された帳票は、ファイルに格納することができます。格納された帳票は、再度、YPS開発資源から定義情報を抽出せずに帳票表示機能及び帳票印刷機能を使って内容を確認することができます。ただし、YPS仕様書については保管帳票機能を使用できません。また、コマンドラインで使用した場合は、全ての帳票について保管帳票機能は使用できません。

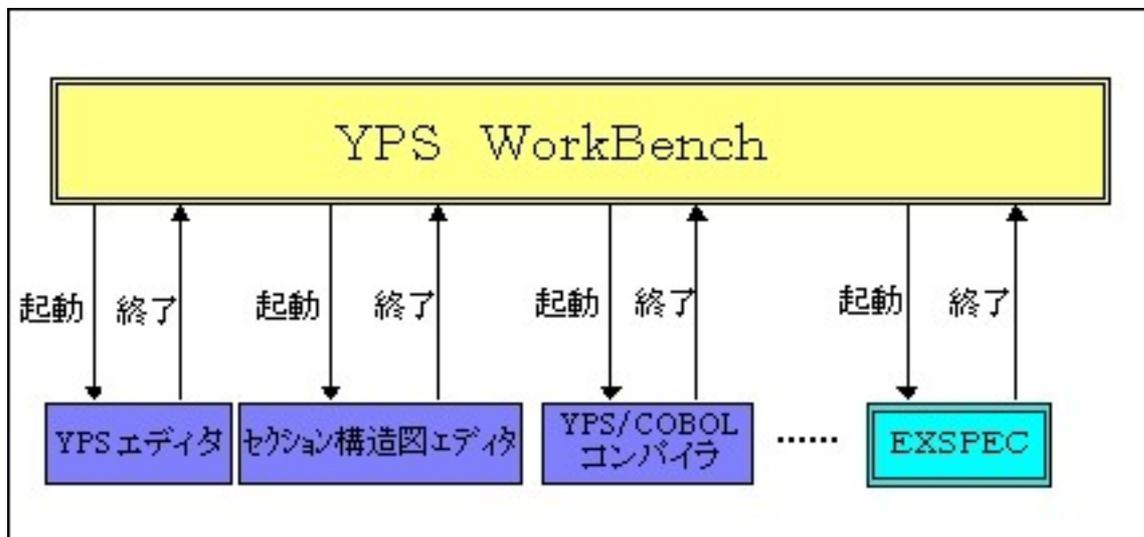
保管された帳票のファイル（以下、保管帳票ファイル）は、動作環境で指定されたフォルダ上に利用者が指定したファイル名に拡張子「KFF」を付加して格納されます。また、保管帳票ファイルが格納されるフォルダには、ドキュメント情報を格納する「\_\_meta」フォルダが、隠しフォルダとして作成されます。

帳票データは、保管帳票ファイルと「\_\_meta」フォルダに保存されます。

## YPS WorkBench連携機能

EXSPECは、Y P S のプログラム開発にまつわる環境の統合化と管理を実現した開発支援ツール「YPS WorkBench」（以下、Y P S W B ）より起動することができます。

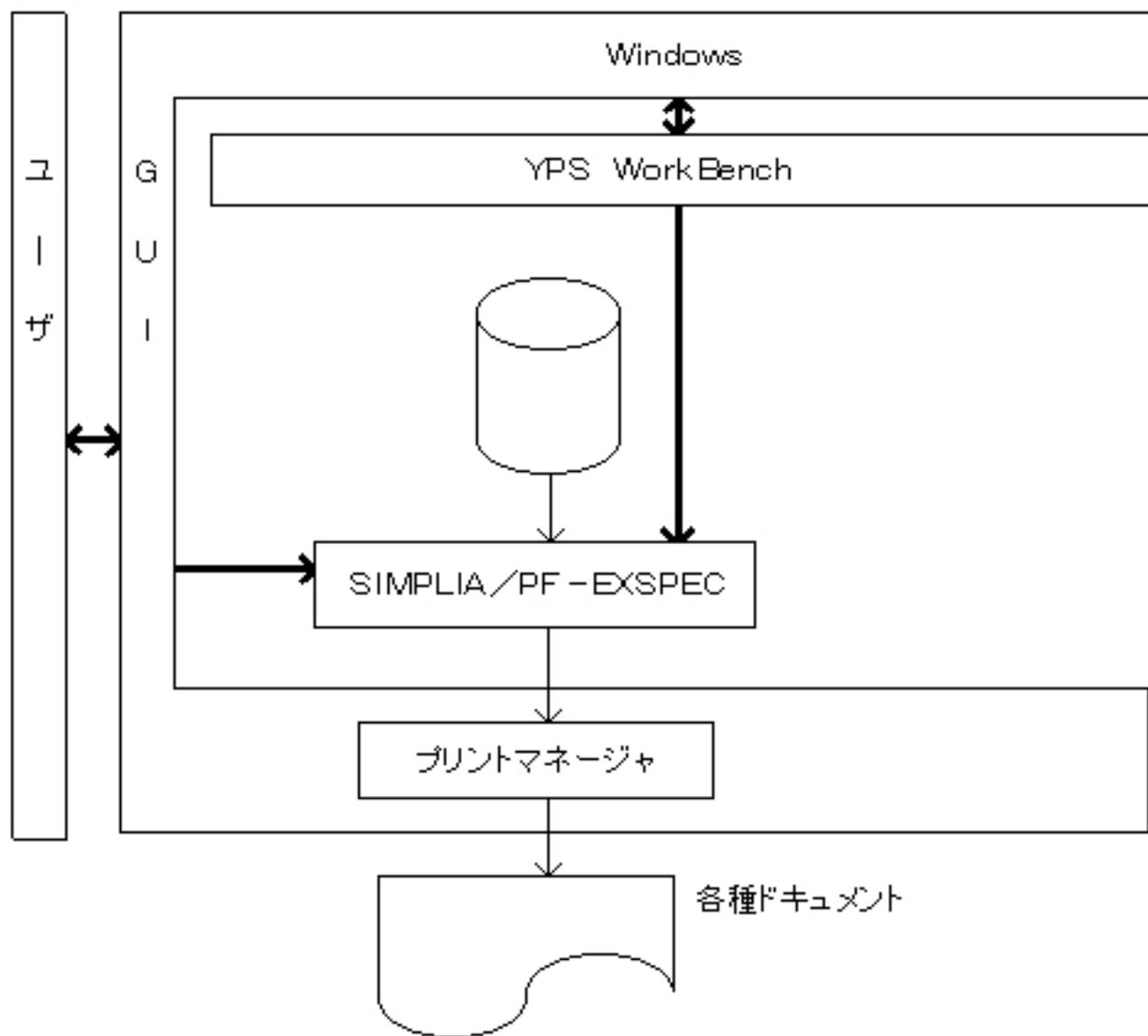
YPSWorkBenchからPF-EXSPECを起動する方法は、[EXSPECの起動・終了](#)を参照してください。



EXSPECの運用方法を示します。

	LD	PD	PG/IT	ME
作業項目	<p>1) LD仕様書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-画面フロー</li> <li>-画面割</li> <li>-帳票割</li> <li>-モジュール概要</li> <li>-ファイル割</li> <li>-SPA割</li> <li>など</li> </ul>	<p>1) YPSセクション入力</p> <p>2) セクション構造レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-セクション構造レベル (詳細変更は必ず行わない)</li> <li>でYPS入力、セクション構造割によりセクション構造割を出力してレビューする</li> </ul> <p>3) YPS詳細入力</p> <p>4) 詳細レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-詳細入力を行い、ツールにより一連のレビュー資料を出力し、レビューを行う</li> </ul>	<p>1) テストデータの作成</p> <p>2) テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-テストデータを使い、実行結果が仕様どおりでない場合、YPS仕様書/セクション構造割でロジックの確認を行いながら修正作業を行う</li> <li>①実行</li> <li>②実行結果確認</li> <li>③修正</li> </ul> <p>①~③をデバッグが完了するまで行う</p>	<p>1) 仕様変更・障害対応修正</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出力済みの一連のYPS仕様書をもとに、未入力を修正する</li> <li>②YPS仕様書修正</li> <li>③実行</li> <li>④実行結果確認</li> <li>⑤仕様変更・障害対応修正済の資料を出力してメンテ資料とする</li> </ol>
作業の流れ	<p style="text-align: center;">E X S P E C</p>			

# システム構成



# コメントキーワード

EXSPECは、YPS仕様書、取り込まれているコピー句、YPSインクルード仕様書の解析情報、YPS仕様書上に記述されたコメントから抽出された情報を基にドキュメントを出力します。

知りたいキーワード部分をクリックしてください。

モジュール名: 新行  
◆ 新行  
モジュール名: 新行

システム名	: 入出庫管理
サブシステム名	: 入出庫管理
ジョブ名	: 在庫一覧出力
プログラム名	: 在庫一覧出力

システムID	: 1234
サブシステムID	: 1234
ジョブID	: 1234

備考: 在庫マスタを参照一覧表を作成する

実行時間	: 1234
実行日時	: 1234

実行日時: 実行日時 : 実行者  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎

検索条件

実行日時

データ

ファイル形式

ファイル形式

条件: 形式: レコード長: プログラム長: 形式
形式: [ID] : 日本語
形式: [ID] : 日本語

ファイル形式: 在庫一覧出力ファイル  
[FORM] [FORM] [FORM]  
[FORM] [FORM] [FORM]

実行日時: 実行日時 : 実行者  
実行日時: 1234 : 入出庫管理一覧表

実行日時

セクション

サブルーチン

サブルーチン

[FORM] (実行日時: 実行者  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎)

実行日時: 実行日時 : 実行者  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎

ファイル形式

条件: 形式: レコード長: プログラム長: 形式
形式: [ID] : 日本語
形式: [ID] : 日本語

ファイル形式: 在庫一覧出力ファイル  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎  
実行日時: 1234 : 1234 : 田中 一郎

品名  
品番  
数量  
単位  
備考  
.....

品名	品番	数量	単位	備考
D : [ 8 0 ] : 注文費				

※コード名 : 注文書出力ファイル  
※アタチ名 : J1700  
※アタチコード : 8000010  
※入出力区分 : 000000

### 情報定義コメント一覧

記述するコメントには、以下のような情報定義があります。

情報定義コメント	概要説明
モジュール属性記述	見出しとなる情報を記述します。
著作権表示	著作権を記述します。
モジュール概要定義	システム名、サブシステム名等の管理用記述及び当該モジュールの機能説明等を記述します。
履歴情報定義	モジュールの変更履歴を記述します。
ファイル情報定義	ファイルの情報を記述します。
セクション機能概要定義	セクション機能概要定義節の動作内容を記述します。
サブルーチン定義	サブルーチンの名称を記述します。
外部画面情報定義	外部画面の情報を記述します。
外部ファイル情報定義	外部ファイルの情報を記述します。
R D B 2 情報定義	R D B 2 のスキーマ名及び表名等を記述します。

### 予約語

各情報定義コメントの予約語を示します。

情報定義コメント	情報定義コメントに従属する予約語
モジュール属性記述	なし
著作権表示	なし
モジュール概要定義	モジュール概要定義、モジュール属性定義
履歴情報定義	履歴情報定義

ファイル情報定義	ファイル情報定義
セクション機能概要定義	セクション機能概要
サブルーチン定義	サブルーチン定義 (省略可)
外部画面情報定義	なし
外部ファイル情報定義	ファイル情報定義
R D B 2 情報定義	R D B 2 情報記述開始及び R D B 2 情報定義及び R D B 2 情報記述終了

・予約語は各情報定義コメントの先頭に記述しなければなりません。

・予約語を記述している行には、予約語以外の情報を記述できません。(記述されていても無視されます。)

・1行に1つの予約語しか記述できません。(2個以上記述された場合の動作は保証しません。)

・予約語は全て全角で記述しなければなりません。

## キーワード

各情報定義コメントのキーワードを示します。

情報定義コメント	情報定義コメントに従属するキーワード
モジュール属性記述	なし
著作権表示	COPYRIGHT
モジュール概要定義	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID、機能概要、動作形態、処理サイクル
履歴情報定義	変更履歴、変更内容、修正履歴、修正内容
ファイル情報定義	媒体、形式、レコード長、ブロック長、編成、区分、ID、日本語名称
セクション機能概要定義	なし
サブルーチン定義	サブルーチン名
外部画面情報定義	画面名、画面ID

外部ファイル情報定義	媒体、形式、レコード長、ブロック長、編成、区分、ID、日本語名称、ファイル名、アクセス名、アクセスモード、入出力区分
RDB2 情報定義	区分、スキーマ名、表名

・キーワードに対する文字列は、最初に現れた空白以外の文字から後述指定項目の一覧の文字数分をそのキーワードに対するデータとみなします。（データには空白が存在してもよい）

・キーワードはそれに対して記述する情報を記述しない場合、省略可能とし、予約語は、その配下のキーワードがすべてない場合に限り省略可能です。

・キーワードの記述順位は、各情報定義内で自由です。

・情報記述は、次に有効行、または予約語が現れたところで、終わりとみなします。

・1行には1つのキーワードしか記述できません。

・キーワードは全角で記述してください。ただし、著作権表示のキーワード 'COPYRIGHT' は半角での記述が可能です。

## 制限事項

予約語及びキーワードと同じ文字列が記述された場合の制限事項を示します。

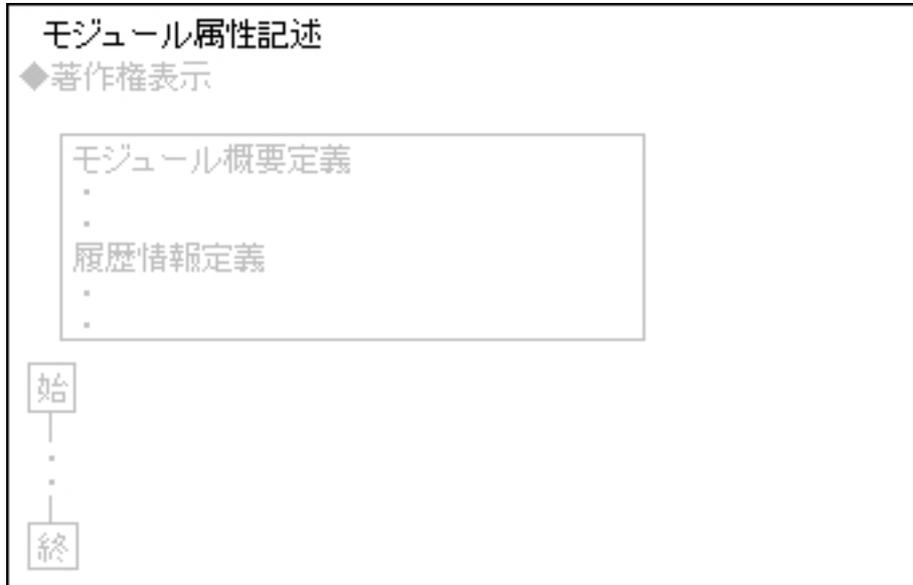
文字列	制限事項
モジュール概要定義	情報定義コメント（モジュール概要定義・履歴情報定義）内に左記文字列が記述された場合、出力結果は保証しません。
モジュール属性定義	同上
履歴情報定義	同上
ファイル情報定義	ファイル形式宣言内、または手続き部内のコメントとして左記文字列が記述された場合、出力結果は保証しません。
セクション機能概要	セクション開始記号の直後にコメントとして左記文字列が記述された場合、出力結果は保証しません。
RDB2 情報記述開始	データ部内のコメントとして左記文字列が記述された場合、出力結果は保証しません。
RDB2 情報定義	同上
RDB2 情報記述終了	同上

ファイル名	ファイル形式宣言内、または手続き部内のコメントとして左記文字列が記述された場合、出力結果は保証しません。
アクセス名	同上
アクセスモード	同上
入出力区分	同上
サブルーチン名	手続き部内のコメントとして左記文字列が記述された場合、出力結果は保証しません。
画面名	同上
画面 I D	同上

# モジュール属性記述

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

## 記述位置



・モジュール属性記述は、YPS 仕様書内の 1 行目、または 2 行目に記述しなければなりません。ただし 2 行目に記述する場合の 1 行目は空白行であること。

・モジュール属性記述は、モジュール本体開始図記号 ' 始 ' より前の行に記述しなければなりません。

## 記述形式

### 記述形式

[ モジュール名 ]、 [ 機能概要 ]、 [ バージョンレベル ]、担当者名、作成日付

[ ] : 省略可能

## [ 規則の説明 ]

- ・モジュール属性記述は継続行を許さず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・モジュール属性記述行の認識は、全角の‘,’、‘、’、または半角の‘,’、‘、’が当該行に4文字存在し、かつ前述の記述位置条件に合致したときです。なお、全角と半角の‘,’、‘、’の混在も許します。

## [ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
モジュール名	E X S P E C では無視します。
機能概要	E X S P E C では無視します。
バージョンレベル	E X S P E C では無視します。
担当者名	6文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
作成日付	10文字でかつ、次の形式で記述します。 y y y y . m m . d d    y y y y . m m . d d y y y y 西暦（全角または半角文字） m m 月（全角または半角文字） d d 日（全角または半角文字） ・ 区切り文字（全角または半角文字） ． 区切り文字（全角または半角文字）

## 記述例

SAMPLE,制御モジュール,V10L10,富士通 太郎 1996-12-27

モジュール属性記述行の記述例

## 注意事項

モジュール属性記述を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

- ・モジュール属性記述行を省略しないこと。
- ・モジュール属性記述行を複数記述しないこと。
- ・担当者、作成日付を省略しないこと。
- ・項目間の区切りを ‘ , ’、 ‘ 、 ’ 以外の文字を使用して記述しないこと。
- ・作成日付に数字以外のものが記述された場合、変更日付欄には空白が出力されます。

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
モジュール設計書表紙	担当、変更日付、変更者
変更履歴一覧表	担当、変更日付、変更者
モジュール概要	担当、変更日付、変更者
モジュール概要（補助シート1 及び2）	担当
セクション構造図	担当、変更日付、変更者
呼出条件一覧	担当、変更日付、変更者
セクション機能概要	担当、変更日付、変更者
Y P S仕様書	担当

# 著作権表示

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

## 記述位置



- ・著作権表示は、モジュール属性記述より後の行に記述しなければなりません。
- ・著作権表示は、モジュール本体開始図記号 '始' より前の行に記述しなければなりません。
- ・著作権表示は、セクション構造図を出力する場合には、必ず 2 行目に記述しておかなければなりません。

## 記述形式

### 記述形式

[ [ 文字列・1 ] COPYRIGHT [ (C) ] 権利保有者名 ]

: 空白 [ ] : 省略可能

### [ 規則の説明 ]

- ・著作権表示は継続を許さず、1 行の中に記述しなければなりません。
- ・著作権表示が複数行存在した場合、最後に記述された著作権表示行が有効となります。

- 著作権表示行の認識は、YPS 記号 ‘ ’ が現れた行です。
- 著作権表示行は、省略が可能です。
- 項目間の区切り文字 ‘空白’ は、省略が可能です。
- (C)を記述しても、省略しても、出力帳票のフッタには以下のように出力されます。

ALL Rights Reserved, Copyright (C) 著作権保有者名

## [ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
文字列・1	YPS記号で記述します。 E X S P E Cでは無視します。
COPYRIGHT	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし全角文字と半角文字の混在は許しません。
(C)	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし全角文字と半角文字の混在は許しません。また、外字の(C)も許しません。
権利保有者名	全角32文字、半角64文字以内で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。

## 記述例

```
APB301, YPSコメント規約, VO1LO1, 富士通太郎, 1994. 12. 27
◆ APB301 COPYRIGHT 富士通株式会社 1995-1996
モジュール概要定義
```

システム名	: 入在庫管理
サブシステム名	: 一覧表作成
ジョブ名	: 在庫一覧表作成
プログラム名	: 在庫データ抽出

システムID	: STM
--------	-------

## 著作権表示行の記述例

## 注意事項

著作権表示を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

- COPYRIGHTが省略された場合の著作権表示行は、無視されます。
- 権利保有者名が省略された場合の著作権表示行は、無視されます。
- 権利保有者名が許している最大文字数を超えた記述が存在した場合、超えた文字は無視されます。
- 著作権表示行にCOPYRIGHTを複数記述しないこと。
- 文字列・ 1、及び権利保有者名欄に ‘ COPYRIGHT ’ の文字列が存在しないこと。

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
モジュール設計書表紙	著作権表示
変更履歴一覧表	著作権表示
モジュール概要	著作権表示
モジュール概要（補助シート 1及び2）	著作権表示
セクション構造図	著作権表示
呼出条件一覧	著作権表示
セクション機能概要	著作権表示
Y P S仕様書	著作権表示

記述位置

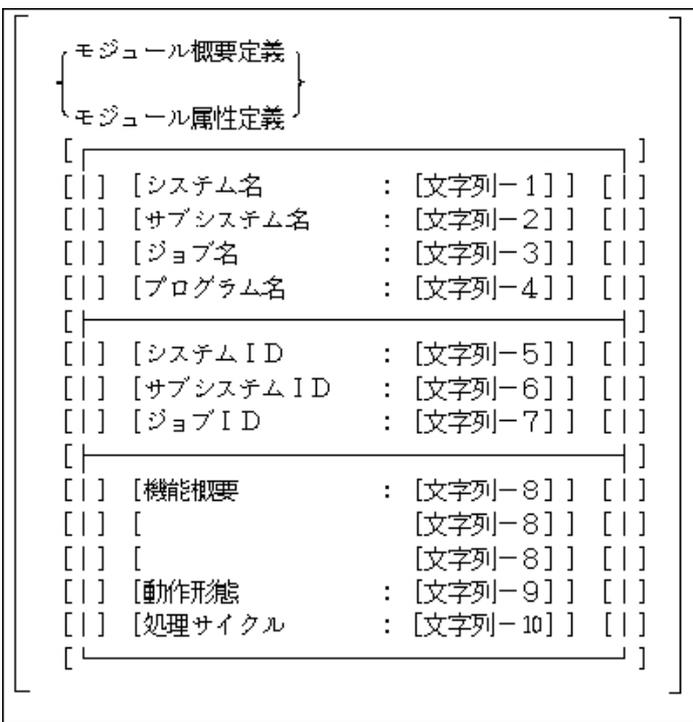


・モジュール概要定義は、モジュール属性記述行の後のモジュール概要記述部の先頭に記述します。

・モジュール概要定義は、モジュール本体開始図記号‘始’より前の行に記述しなければなりません。

記述形式

記述形式



[ ] : 省略可能 { } : 選択

[ 規則の説明 ]

・機能概要行（文字列・8）以外の行は継続を許さず、1行の中に記述しなければなりません。

・モジュール概要定義、及びそれに従属するキーワード（システム名等）はプログラム内で1つだけしか記述できません。

・モジュール概要定義を記述する場合、予約語‘モジュール概要定義’または‘モジュール属性定義’は省略できません。

- ・キーワード（システム名等）の記述順序は、予約語‘モジュール概要定義’の後であれば順序は問いません。
- ・キーワード（システム名等）の囲み線は、予約語‘モジュール概要定義’の後であれば何処にあっても良く、また省略しても構いません。
- ・項目間の区切り文字‘空白’は、省略が可能です。
- ・モジュール概要定義の有効範囲は、予約語‘モジュール概要定義’、または‘モジュール属性定義’が現れてから次の予約語又は、有効行が現れるまでです。

[ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
モジュール概要定義 モジュール属性定義	左記の通りどちらか一方の予約語を全角文字で記述します。
システム名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・1	15文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
サブシステム名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・2	15文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
ジョブ名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・3	15文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
プログラム名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・4	15文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
システムID	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・5	8文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
サブシステムID	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・6	8文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
ジョブID	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・7	8文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
機能概要	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・8	90文字以内の全角、または半角文字で記述が可能ですが、1行に記述できる文字数は、30文字であり、最大3行まで記述可能です。ただし、空白も1文字と見なします。
動作形態	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・9	10文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
処理サイクル	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・10	5文字以内の全角、または半角文字で記述します。ただし、空白も1文字と見なします。
:	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし、‘:’は位置キーワードであるため、文字列・nの前に記述しなければなりません。
囲み線	<p>囲み線（外枠）に使用できる記号は、次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JEF 細線 / 太線</li> <li>・シフト J I S 細線 / 太線</li> <li>・YPS 記号 ‘ ’</li> <li>・全角縦 / 横線</li> <li>・全角 ‘ + ’</li> <li>・全角 ‘ * ’</li> </ul> <p>ただし、文字列・nの後ろの囲み線（外枠）に使用できる記号は、JEF細線の縦、JEF太線の縦、シフト J I S 細線の縦、シフト J I S 太線の縦、YPS記号 ‘ ’、全角縦線、全角 ‘ * ’ のみです。</p>

記述例

APB301, YPSコメント規約, VO1L01, 富士通太郎, 1994. 12. 27  
 ◆ APB301 COPYRIGHT 富士通株式会社 1995-1996  
 モジュール概要定義

システム名	: 入出庫管理
サブシステム名	: 一覧表作成
ジョブ名	: 在庫一覧表作成
プログラム名	: 在庫データ抽出
システムID	: STM
サブシステムID	: DO
ジョブID	: ZAIKO
機能概要	: 在庫マスタを読み一覧表を出力する。
動作形態	: バッチ
処理サイクル	: 月次

始

## 注意事項

モジュール概要定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

- ・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。
- ・各文字列・nが許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。
- ・文字列・nが空白で囲み線（外枠）に許されない記号を記述しないこと。
- ・機能概要行が複数行記述されており、かつ1行の文字数が30文字に満たない場合空白も出力されます。
- ・機能概要行を継続する場合、‘：’は必要ありません。
- ・文字列・nの中に囲み線（外枠）で使用できる記号のうち、JEF細線、JEF太線縦、シフトJIS細線、シフトJIS太線縦、YPS記号‘ ’、全角縦線、全角‘\*’を記述した場合、その記号以降に記述されている文字列は出力されません。
- ・機能概要を最大3行記述した場合、以下のような出力形式となります。

(1) 左詰めで出力されます。

(2) 各行の文字数が30文字に満たない場合、行と行の間の空白は詰められません。

(3) 1行全てが空白の場合、そのまま空白で出力されます。

(4) 文字と文字の間の空白は詰められません。（半角文字は全角文字に変換して出力します）

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
モジュール設計書表紙	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID
変更履歴一覧表	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID
モジュール概要	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID、概要、動作形態、処理サイクル
モジュール概要（補助シート1及び2）	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID
セクション構造図	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名
呼出条件一覧	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID
セクション機能概要	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID
YPS仕様書	システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名、システムID、サブシステムID、ジョブID

## 記述位置



履歴情報定義は、モジュール属性記述行より後の行に記述しなければなりません。

履歴情報定義は、モジュール本体開始図記号 '始' より前の行に記述しなければなりません。

## 記述形式

---

記述形式

---

## 履歴情報定義

```
[
  [
    [文字列-1]
    [ | ] 変更履歴 { [数字-1] } : [数字-2] : [文字列-3] [ | ]
                { [文字列-2] }
    [ | ] 変更内容 : [文字列-4] [ | ]
    [ | ]           [文字列-4] [ | ]
    [ | ]           [文字列-4] [ | ]
  ]
]
```

[ ] : 省略可能 { } : 選択

### [ 規則の説明 ]

- ・変更履歴行は継続を許さず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・変更内容行は最大3行まで継続可能です。
- ・変更履歴行、変更内容行の順序で記述し、かつ2つの行は対でなければなりません。
- ・変更履歴行、変更内容行は対で最大99行まで記述できます。ただし、継続行を除きます。
- ・履歴情報定義はプログラム内で1つだけしか記述できません。
- ・履歴情報定義を記述する場合、予約語‘履歴情報定義’は省略できません。
- ・キーワード(変更履歴等)の囲み線は、予約語‘履歴情報定義’の後であれば何処にあっても良く、また省略しても構いません。
- ・項目間の区切り文字‘空白’は省略が可能です。
- ・履歴情報定義の有効範囲は、予約語‘履歴情報定義’が現れてから次の予約語が現れるまでです。

### [ 項目の説明 ]

内容                      桁数及び記述方法

履歴情報定義	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・1	変更履歴行の見出しを全角または半角文字で記述する行であり、利用者独自の見出しが記述できます。なおEXSPECで推奨している見出しを <a href="#">記述例</a> に示します。
変更履歴	左記の通り全角文字で記述します。
数字・1 OR 文字列 ・2	版数を全角、または半角数字で記述する欄であり、2文字で記述します。また、初版が記述された場合は、該当行に記述された変更者・変更日付を、それぞれ作成者・作成日付として扱います（モジュール属性行の作成日・作成者は無視されます）。また、初版の作成者は、同時に担当者として扱うため、出力される各帳票の担当欄にも出力されます。ただし、初版作成日として変更履歴を記述する場合は、履歴情報定義中の最初の変更履歴行に‘初版’を記述する必要があります。
数字・2	変更日付を8文字の全角、または半角文字で記述する欄です。文字列・2が‘初版’の場合、初版作成日として扱います。次の形式で記述します。  y y y y ・mm・d d      または      y y y y ・mm・d d ただし、年がy yと記述されている場合は以下のように出力されます。  y y が60~99の場合：1960~1999 y y が00~59の場合：2000~2059 y y y y 年（全角、または半角文字） mm 月（全角、または半角文字） d d 日（全角、または半角文字） ・区切り文字（全角、または半角文字） ・区切り文字（全角、または半角文字）
文字列・3	変更者名を6文字の全角、または半角文字で記述する欄です。ただし、空白も1文字と見なします。文字列・2が‘初版’の場合は、初版作成者及び担当者として扱います。
変更内容	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・4	変更内容を75文字の全角、または半角文字で記述が可能ですが、1行に記述できる文字数は、25文字であり、最大3行まで記述可能です。ただし、空白も1文字と見なします。
:	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし‘:’は位置キーワードであるため、文字列・nまたは数字・2の前に記述しなければなりません。
囲み線	囲み線（外枠）に使用できる記号は、次の通りです。 ・JEF細線 / 太線 ・シフトJIS細線 / 太線 ・YPS記号 ‘ ’

・全角縦 / 横線

・全角 ‘ + ’

・全角 ‘ \* ’

ただし、文字列・nの後ろの囲み線（外枠）に使用できる記号は、JEF細線の縦、JEF太線の縦、シフトJIS細線の縦、シフトJIS太線の縦、YPS記号‘ ’、全角縦線、全角‘ \* ’のみです。

## 記述例

履歴情報定義			
変更履歴	版数:	変更日付:	変更者
変更履歴	02:	1994.08.20:	富士通太郎
変更内容	:新元号対応による日付出力処理の変更		
変更履歴	03:	1997.07.29:	富士通太郎
変更内容	:税額計算処理を追加する		

始

## 履歴情報定義の記述例

## 注意事項

履歴情報定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。

・各文字列・nが許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。

・文字列・nが空白で囲み線（外枠）に許されない記号を記述しないこと。

・変更内容行が複数行記述されており、かつ1行の文字数が25文字に満たない場合空白も出力されます。

・変更内容行を継続する場合、‘ : ’は必要ありません。

・文字列・nの中に囲み線（外枠）で使用できる記号のうち、JEF細線の縦、JEF太線の縦、シフトJIS細線の縦、シフトJIS太線の縦、YPS記号‘ ’、全角縦線、全角‘ \* ’を記述した場合、その記号以降に記述されている文字列は出力されません。

・変更日付に数字以外のものが記述された場合、変更日付欄には空白が出力されます。

・以下のように変更内容を記述した場合、左詰めで出力されます。ただし、1行全てが空白の場合、そのまま空白で出力されます。また文字と文字の間の空白及び最大文字数に満たない場合の後ろの空白は詰められません。（半角文字は全角文字に変換して出力します）出力形式を以下に示します。

YPS 仕様書

**履歴情報定義**

版数： 変更日付： 変更者  
 変更履歴 02：1994.08.20： 田中 一郎  
 変更内容 : □□新元号対応による□□□□・・・□□□□  
 □□□□□□□□□□日付出力□□処理□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□の変更□□□□□□□□□□□□□□□□□

始

□: 空白

↓

変更履歴部 ◀

新元号対応による□□□□・・・□□□日付出力□□処理□□□□□□□□□□

□: 空白

変更履歴一覧表 (変更内容)

新元号対応による□□□□・・・□□□日付出力□□処理□・・・□の変更□□

□: 空白

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
モジュール設計書表紙	版数、変更日付、変更者、変更内容
変更履歴一覧表	版数、変更日付、変更者、変更内容
モジュール概要	版数、変更日付、変更者、変更内容
セクション構造図	版数、変更日付、変更者、変更内容

呼出条件一覧

版数、変更日付、変更者、変更内容

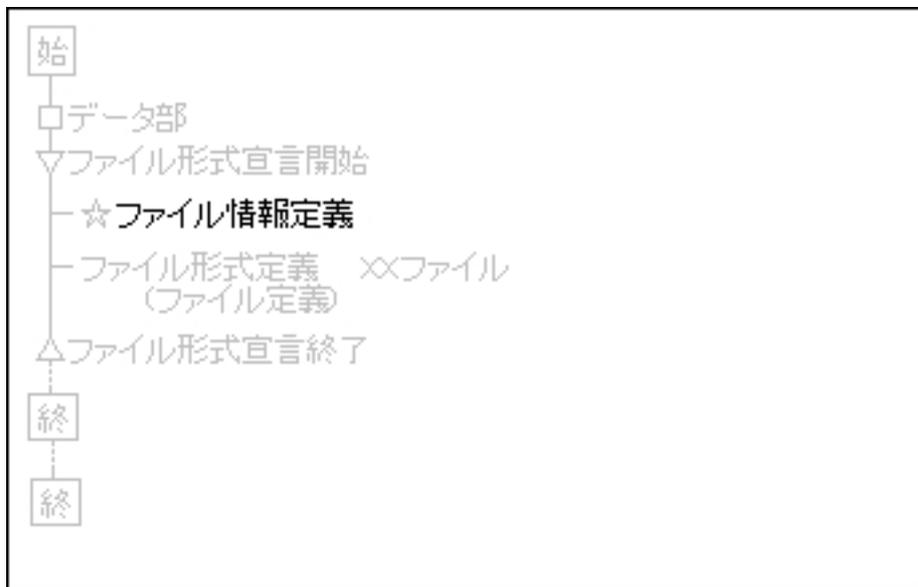
セクション機能概要

版数、変更日付、変更者、変更内容

# ファイル情報定義

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

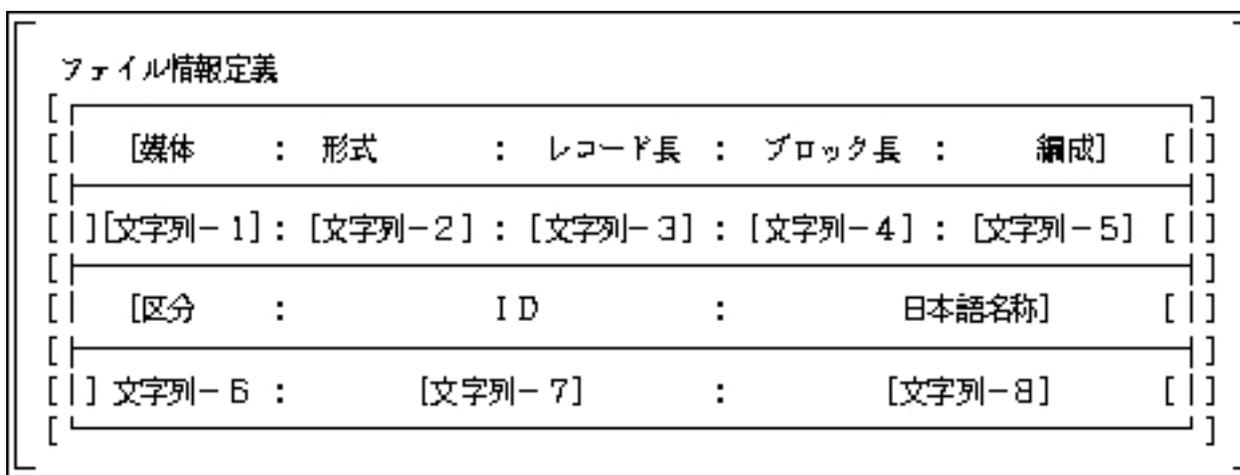
## 記述位置



・ファイル情報定義は、データ部のファイル形式宣言開始からファイル形式宣言終了の間で、かつファイル記述項の直前に記述します。

## 記述形式

### 記述形式



[ ] : 省略可能

## [ 規則の説明 ]

- ・行の継続は許されず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・ファイル情報定義を記述する場合、予約語‘ファイル情報定義’及び、‘：’は省略できません。
- ・キーワード（媒体等）の記述順序は、固定です。
- ・文字列・1～文字列・8の記述順序は、固定です。
- ・キーワード（媒体等）の囲み線は、予約語‘ファイル情報定義’の後であれば何処にあっても良く、また省略しても構いません。
- ・ファイル情報定義の有効範囲は、予約語‘ファイル情報定義’が現れてからファイル記述項、またはファイル形式宣言終了が現れるまでです。
- ・項目間の区切り文字‘空白’は省略が可能です。
- ・要約図記号を使って記述することもできます。（[ファイル情報定義の記述例（要約図記号使用時）](#)を参照）
- ・区切り文字‘：’の数は、記述形式に記載している数と一致していなければなりません。
- ・文字列・1～文字列・5は、1ファイルに対して1つしか記述できません。
- ・文字列・6～文字列・8は、ファイルに関係なく複数記述することができます。

## [ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
ファイル情報定義	左記の通り全角文字で記述します。
媒体	左記の通り全角文字で記述します。
形式	媒体の後を‘：’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。
レコード長	形式の後を‘：’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。
ブロック長	レコード長の後を‘：’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。
編成	ブロック長の後を‘：’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。

文字列・1	<p>媒体を以下の文字列のいずれかを半角、または全角で記述します。</p> <p>DASD：磁気ディスク</p> <p>CARD：カード</p> <p>MT、TAPE：磁気テープ</p> <p>CMT：カートリッジテープ</p> <p>LIST、LP：プリンタ</p> <p>DISP：ディスプレイ</p> <p>注意) 空白の場合は磁気ディスクになります。</p>
文字列・2	レコード形式を4文字以内の半角英字で記述します。参考) V、VB、F、FB、VBA
文字列・3	レコード長を5文字以内の半角数字で記述します。参考) 1~32760
文字列・4	ブロック長を5文字以内の半角数字で記述します。参考) 1~32760
文字列・5	ファイル編成を4文字以内の半角英字で記述します。参考) PS、VSAM
区分	先頭に左記の通り全角文字で記述します。
ID	区分の後を‘：’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。
日本語名称	IDの後を‘：’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。
文字列・6	以下の英字のいずれかを半角、または全角で記述します。O(オーバレイ)、L(リスト)、P(PSAM)
文字列・7	オーバレイ、帳票、画面のIDを8文字以内の半角英数字で記述します。
文字列・8	オーバレイ、帳票、画面の名称を15文字以内の全角または半角で記述します。
:	左記の通り全角、または半角で記述します。ただし、‘：’は位置キーワードであるため、省略してはなりません。
囲み線	<p>囲み線(外枠)に使用できる記号は、次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JEF細線/太線</li> <li>・シフトJIS細線/太線</li> <li>・YPS記号‘ ’</li> <li>・全角縦/横線</li> <li>・全角‘+’</li> <li>・全角‘*’</li> </ul> <p>ただし、文字列・nの後ろの囲み線(外枠)に使用できる記号は、JEF細線の縦、JEF太線の縦、シフトJIS細線の縦、シフトJIS太線の縦、YPS記号‘ ’、全角縦線、全角‘*’のみです。</p>

☆ファイル情報定義

☆  
☆  
☆  
☆  
☆  
☆  
☆  
☆  
☆

媒体	:	形式	:	レコード長	:	ブロック長	:	編成
----	---	----	---	-------	---	-------	---	----

LIST	:	VBA	:	305	:	3055	:	PS
------	---	-----	---	-----	---	------	---	----

区分	:	ID	:	日本語名称
----	---	----	---	-------

○	:	IS01	:	在庫一覧表
---	---	------	---	-------

ファイル形式定義 ファイル名は 在庫一覧表出力ファイル

RECORD IS VARYING IN SIZE

BLOCK CONTAINS 0 RECORDS

ファイル情報定義の記述例（‘☆’記号使用時）

要約 ファイル情報定義

媒体	:	形式	:	レコード長	:	ブロック長	:	編成
----	---	----	---	-------	---	-------	---	----

LIST	:	VBA	:	305	:	3055	:	PS
------	---	-----	---	-----	---	------	---	----

区分	:	ID	:	日本語名称
----	---	----	---	-------

○	:	IS01	:	在庫一覧表
---	---	------	---	-------

ファイル形式定義 ファイル名は 在庫一覧表出力ファイル

RECORD IS VARYING IN SIZE

BLOCK CONTAINS 0 RECORDS

ファイル情報定義の記述例（要約記号使用時）

## 注意事項

ファイル情報定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

- ・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。
- ・各文字列・nが許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。
- ・1つのファイルに対して予約語‘ファイル情報定義’は1つだけしか記述できません。
- ・キーワード‘媒体’、‘形式’、‘レコード長’、‘ブロック長’、‘編成’に対する文字列が複数行存在した場合、最終行の情報が有効となります。
- ・文字列・1に指定できる文字列以外が記述された場合モジュール概要に図形が出力されません。
- ・文字列・6を省略したり、文字列・6に指定できる文字列以外が記述された場合モジュール概要及びモジュール概要（補助シート1）に画面情報・帳票情報が出力されません。
- ・文字列・6を記述した場合、必ず文字列・7または文字列・8を記述すること。
- ・各文字列・nの中に囲み線（外枠）で使用できる記号を記述した場合、記述部分が空白で出力されます。
- ・以下のように要約図記号と‘ ’記号の併用はできません。その記述例を図に示します。

## 要約

### ☆ファイル情報定義

媒体	:	形式	:	レコード長	:	ブロック長	:	編成
----	---	----	---	-------	---	-------	---	----

LIST	:	VBA	:	305	:	3055	:	PS
------	---	-----	---	-----	---	------	---	----

区分	:	ID	:	日本語名称
----	---	----	---	-------

0	:	IS01	:	在庫一覧表
---	---	------	---	-------

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称

出力欄

モジュール概要

媒体、レコード形式、レコード長、ブロック長、ファイル編成、図形（ブロックダイヤグラム）

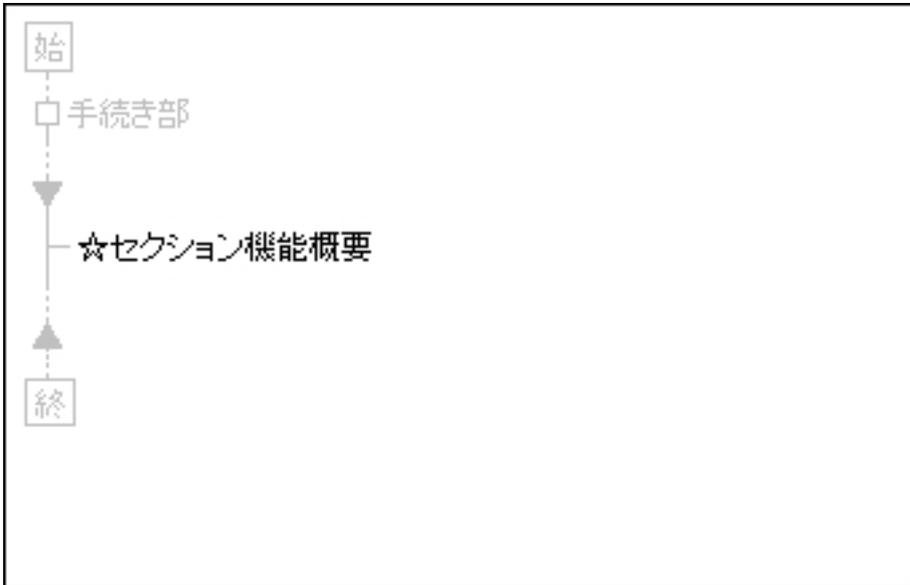
モジュール概要（補助シート1）

画面名称、画面ID、帳票名称、帳票ID、媒体、レコード形式、レコード長、ブロック長、ファイル編成

# セクション機能概要定義

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

## 記述位置



- ・セクション機能概要定義は、節開始図記号の直後に記述します。
- ・セクション機能概要定義は、手続き部以降に記述します。

## 記述形式

記述形式

セクション機能概要

[ 文字列・1 ]

- ・
- ・
- ・

[ ] : 省略可能

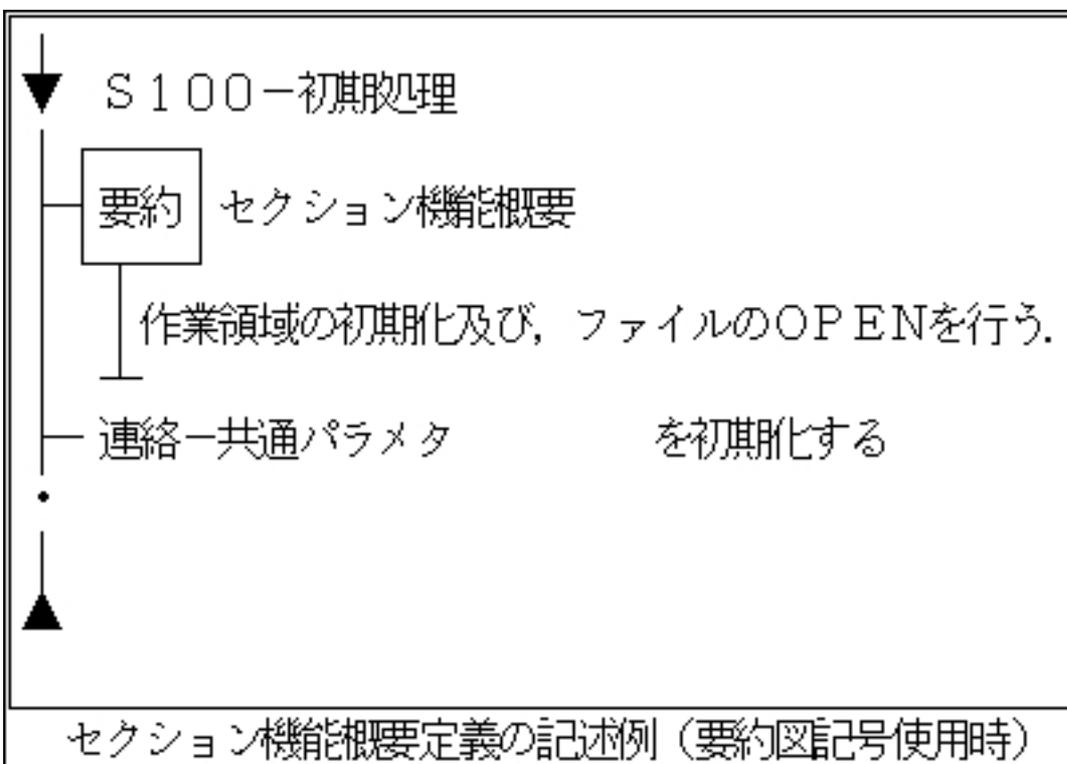
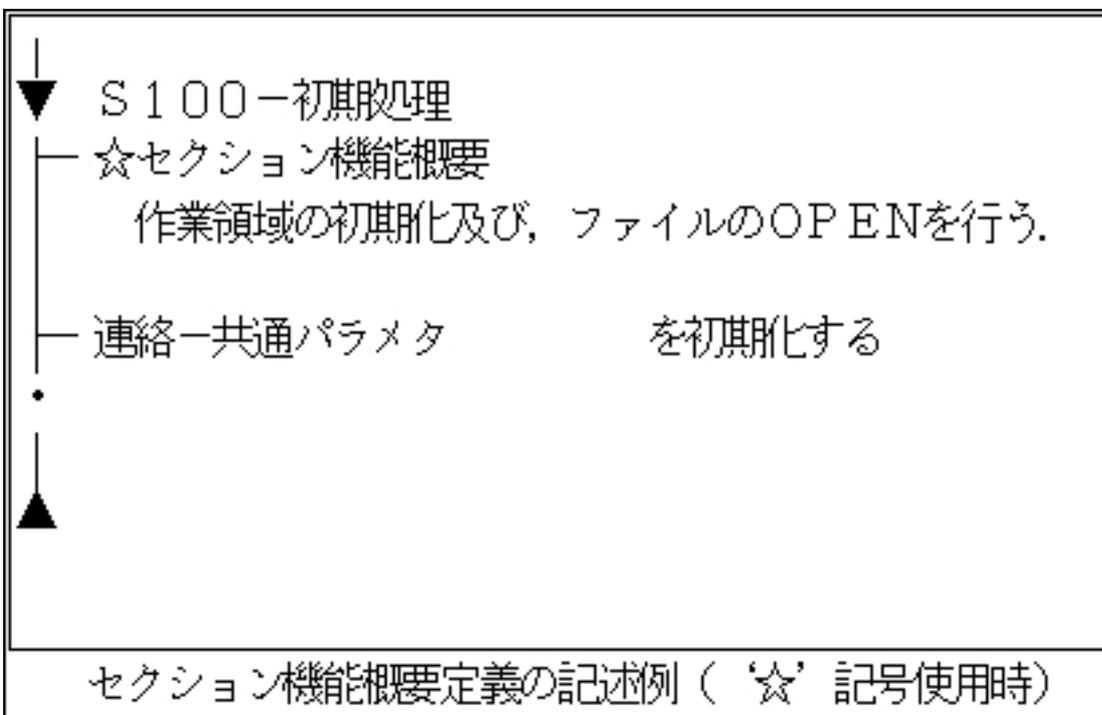
[ 規則の説明 ]

- ・予約語 ‘セクション機能概要’ が記述されている行に、文字列・1 は記述できません。
- ・セクション機能概要定義を記述する場合、予約語 ‘セクション機能概要’ は省略できません。
- ・要約記号を使って記述することもできます。（[セクション機能概要定義の記述例（要約記号使用時）](#)を参照）

[ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
セクション機能概要 文字列・1	左記の通り全角文字で記述します。 半角 / 全角を問いません。また、1 行に記述可能な文字数は、半角で120 文字、全角で60文字であり、最大30行まで記述可能です。半角・全角の混在を許します。ただし、空白も1文字と見なします。

記述例



## 注意事項

セクション機能概要定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

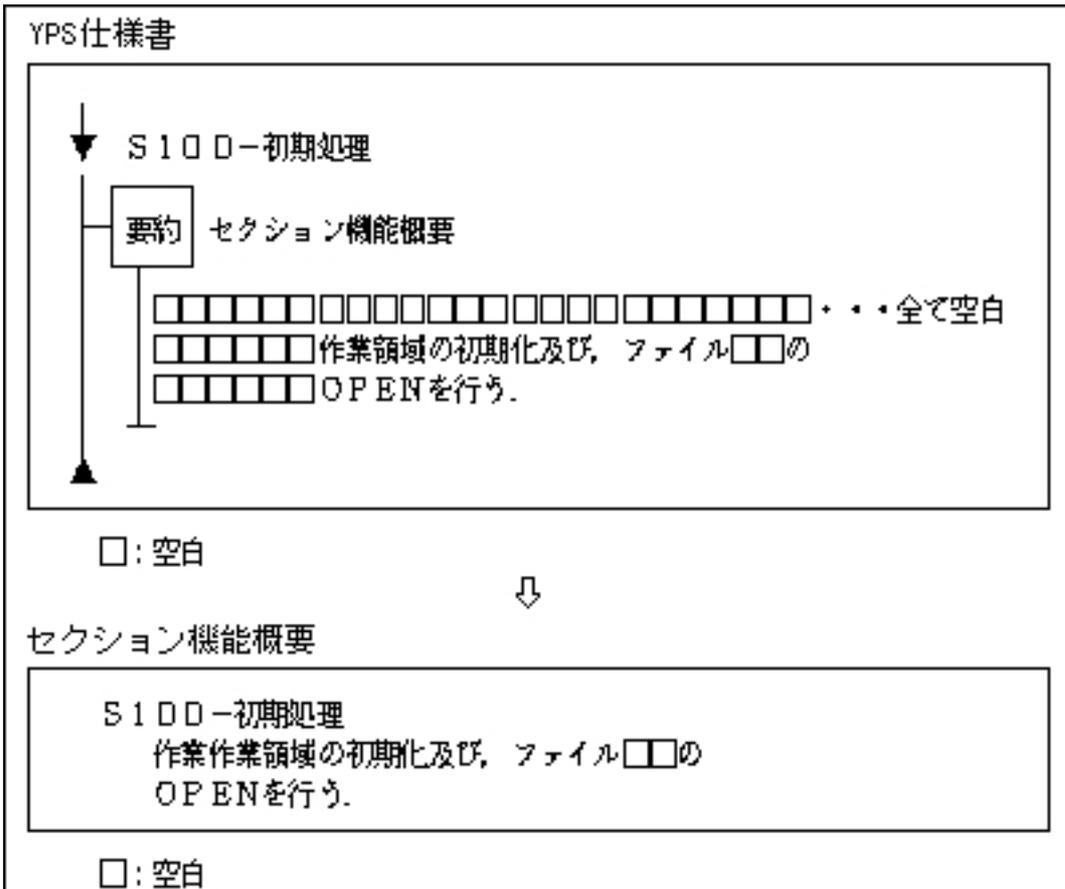
- ・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。

・文字列・1 が許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。

・罫線を記述した場合、罫線も定義情報としてドキュメントに出力されます。

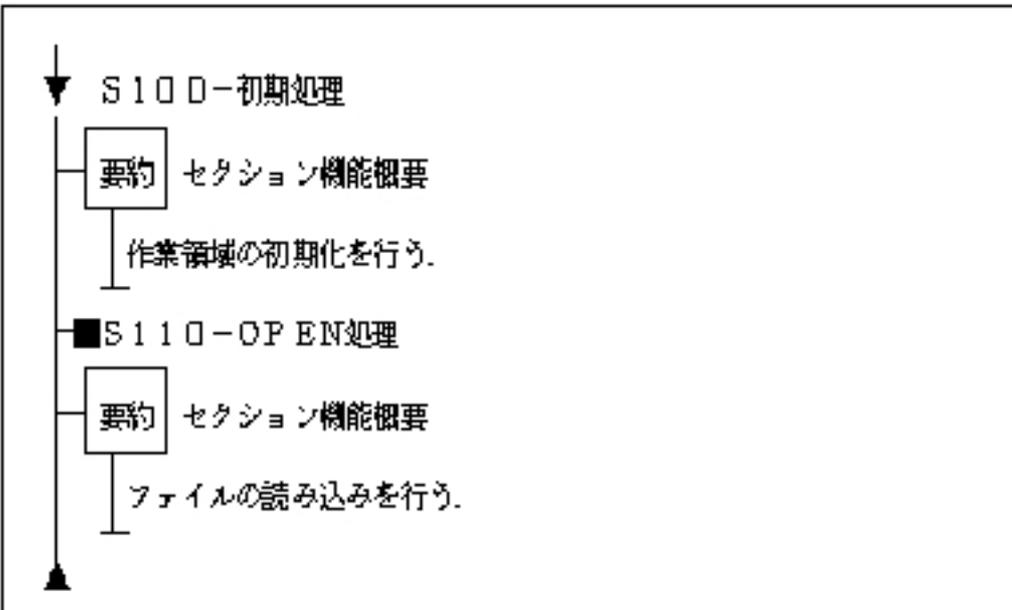
・予約語 ‘セクション機能概要’ は節開始記号の直後に1つだけしか記述できません。

・以下のような記述が存在した場合、空白は詰められて出力されます。ただし、文字と文字の間の空白または先頭文字列の左側の空白が全角の場合は詰められません。出力形式を以下に示します。

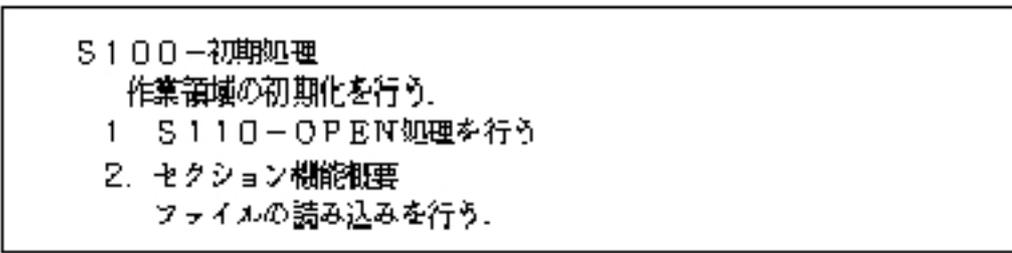


・以下のように1つの節に複数のセクション機能概要定義が存在した場合、節の直後に記述されたものが有効となり、それ以外のものは、要約図記号に記述されたコメントとし出力されます。出力形式を以下に示します。

YPS仕様書

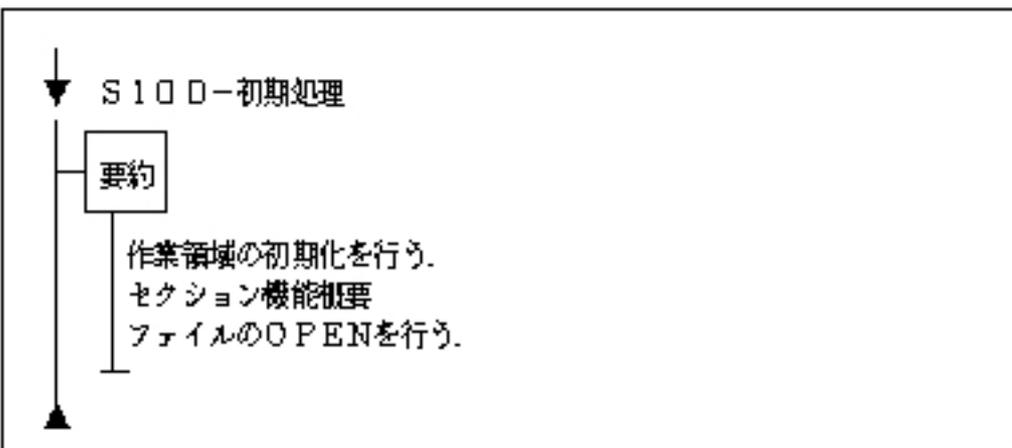


セクション機能概要

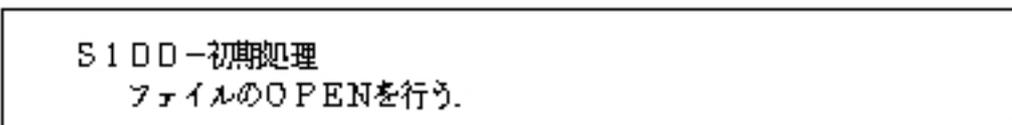


以下のように節の直後に記述し、かつ予約語 'セクション機能概要' の前後の行に文字列が存在した場合、予約語 'セクション機能概要' の後の行以降に記述した文字列が有効となり、前の行に記述された文字列は無視されます。出力形式を以下に示します。

YPS仕様書



セクション機能概要



前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
----------	-----

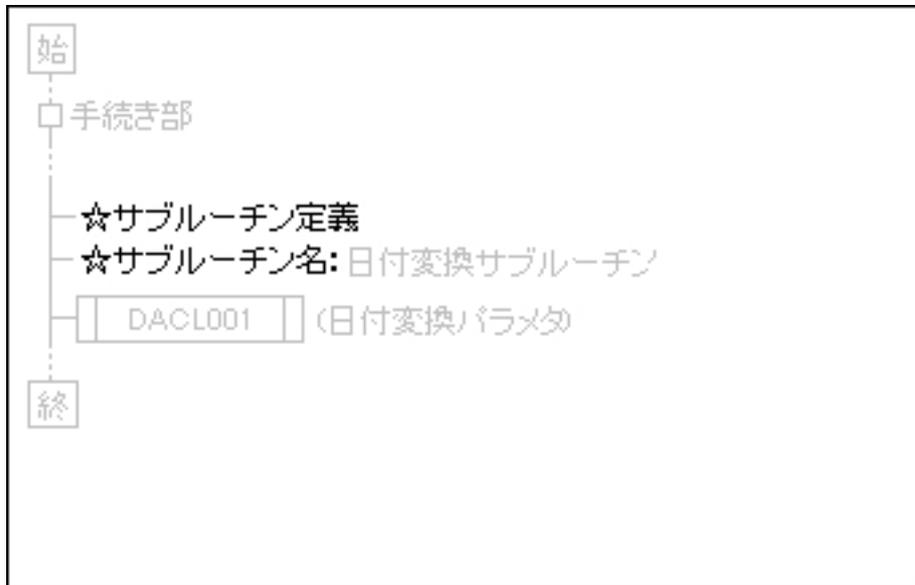
---

セクション機能概要	セクション機能説明
-----------	-----------

## サブルーチン定義

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

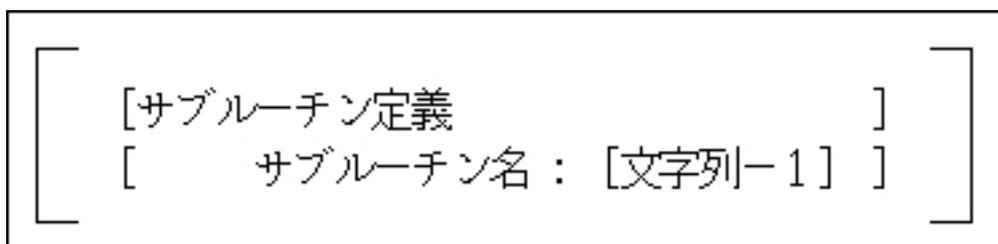
### 記述位置



- ・サブルーチン定義は、プログラム呼出し図記号または、COBOL記述のCALL命令と対で記述します。
- ・サブルーチン定義は、手続き部以降に記述します。

### 記述形式

#### 記述形式



[ ] : 省略可能

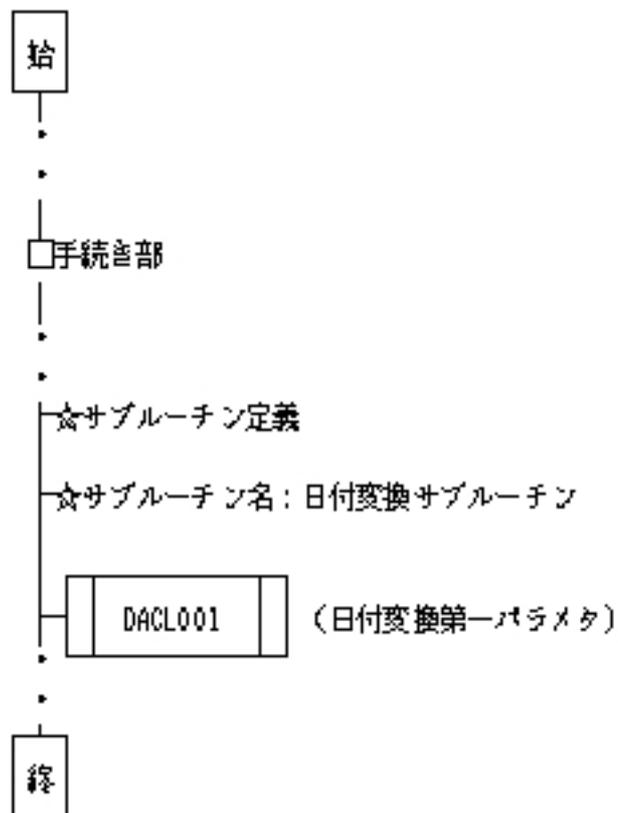
[ 規則の説明 ]

- ・予約語 ‘サブルーチン定義’ は省略できます。
- ・サブルーチン名行は、継続を許さず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・サブルーチン名を記述する場合、キーワード ‘サブルーチン名’ は省略できません。
- ・項目間の区切り文字 ‘空白’ は省略が可能です。
- ・要約図記号を使って記述することもできます。（[サブルーチン定義の記述例（要約記号使用時）](#)を参照）

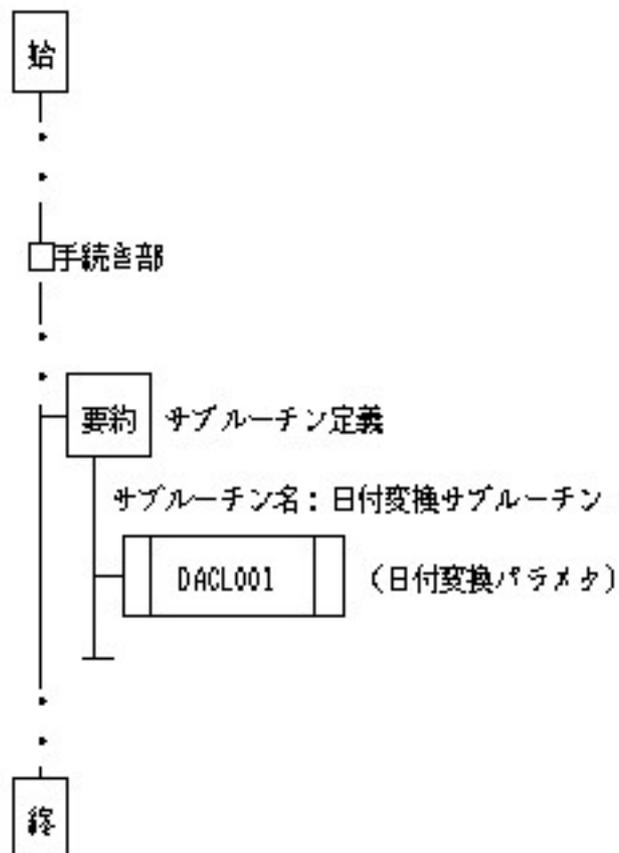
[ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
サブルーチン定義	左記の通り全角文字で記述します。
サブルーチン名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・1	サブルーチン名を全角、または半角文字で記述する欄です。全角、半角とも15文字まで記述可能です。ただし、空白も1文字と見なします。
:	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし ‘:’ は位置キーワードであるため、文字列・1の前に記述しなければなりません。

記述例



サブルーチン定義の記述例（‘☆’記号使用時）



サブルーチン定義の記述例（要約図記号使用時）

## 注意事項

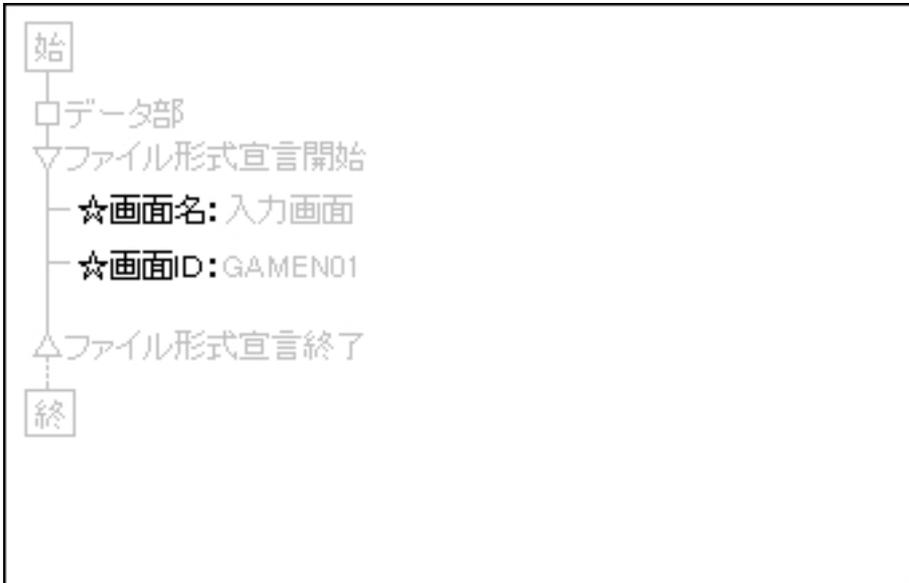
サブルーチン定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

- ・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。
- ・文字列・1が許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。
- ・ [プログラム呼出し図記号](#)及びCOBOL記述のCALL命令が存在しなければ、出力されません。
- ・ 1つのサブルーチンに対して、予約語‘サブルーチン定義’が複数存在した場合、最後の情報が有効となります。

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
モジュール概要（補助シート2）	サブルーチン名、サブルーチンID

## 記述位置



・外部画面情報定義は、データ部のファイル形式宣言開始からファイル形式宣言終了の間、または手続き部以降に記述します。

## 記述形式

記述形式

```
[
  画面名      : [文字列-1]
  画面ID     : [文字列-2]
]
```

[ ] : 省略可能

[ 規則の説明 ]

- ・外部画面情報定義を記述する場合、キーワード‘画面名’、‘画面ID’は省略できません。
- ・文字列-1 及び文字列-2 の行は継続を許さず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・キーワードの記述順序は問いません。
- ・項目間の区切り文字‘空白’は、省略が可能です。
- ・要約図記号を使って記述することもできます。( [外部画面情報定義の記述例\(要約図記号使用時\)](#) を参照 )

[ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
画面名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列-1	画面の名称を15文字以内の全角、または半角で記述します。
画面ID	左記の通り全角文字で記述します。
文字列-2	画面のIDを8文字以内の半角英数字で記述します。
:	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし‘:’は位置キーワードであるため、文字列-1 及び文字列-2 の前に記述しなければなりません。

記述例

□手続き部

☆画面名：入力画面

☆画面 I D：GAMEN01

外部画面情報定義の記述例（'☆' 記号使用時）

始

□手続き部

要約

画面名：入力画面

画面 I D：GAMEN01

終

外部画面情報定義の記述例（要約図記号使用時）

## 注意事項

外部画面情報定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。

・各文字列・nが許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称	出力欄
----------	-----

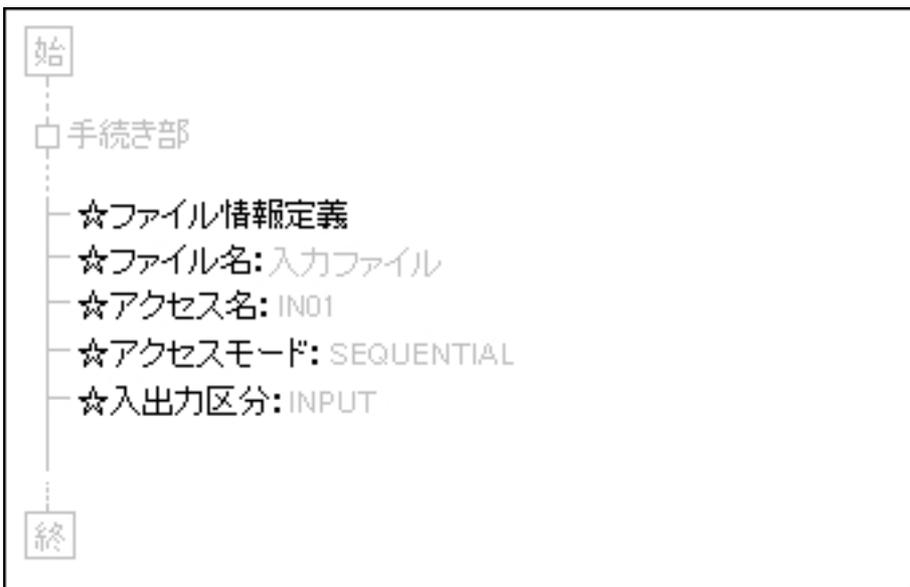
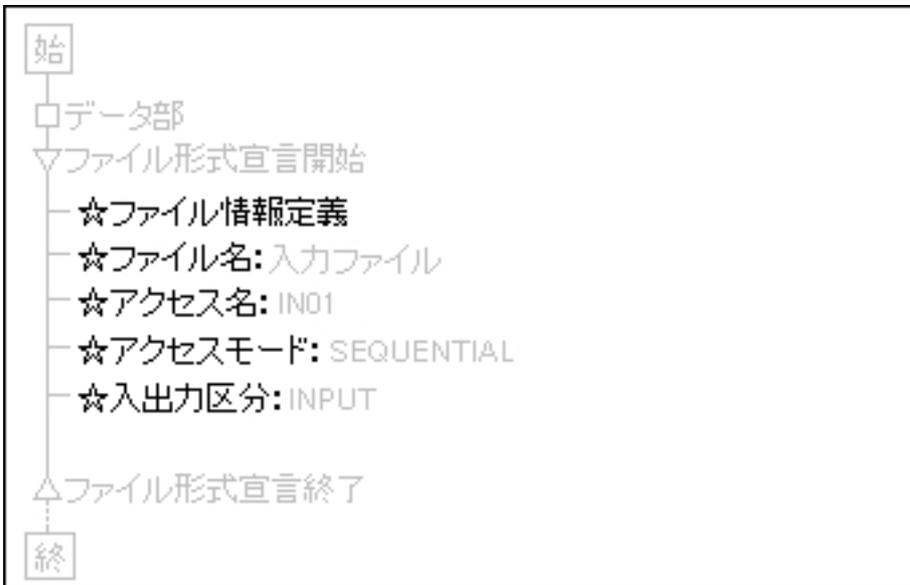
---

モジュール概要（補助シート1）	画面名称、画面ID
-----------------	-----------

## 外部ファイル情報定義

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

### 記述位置



外部ファイル情報定義は、データ部のファイル形式宣言開始からファイル形式宣言終了の間、または手続き部以降に記述します。

### 記述形式

## 記述形式

### ファイル情報定義

```
[ [ ] [媒体 : 形式 : レコード長 : ブロック長 : 編成] [ ] ]
[ [ ] [文字列-1]:[文字列-2]:[文字列-3]:[文字列-4]:[文字列-5] [ ] ]
[ [ ] [区分 : ID : 日本語名称] [ ] ]
[ [ ] 文字列-6 : [文字列-7] : [文字列-8] [ ] ]
ファイル名 : 文字列-9
アクセス名 : 文字列-10
アクセスモード : 文字列-11
入出力区分 : 文字列-12
```

[ ] : 省略可能

[ 規則の説明 ]

- ・行の継続は許されず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・外部ファイル情報定義を記述する場合、予約語‘ファイル情報定義’及び、‘:’は省略できません。
- ・文字列-1-文字列-8に対するキーワードの記述順序は、固定です。
- ・キーワードの囲み線は、予約語‘ファイル情報定義’の後であれば何処にあっても良くまた省略しても構いません。ただし、キーワード‘ファイル名’・‘アクセス名’・‘アクセスモード’・‘入出力区分’に対する囲み線は、記述不可です。
- ・外部ファイル情報定義の有効範囲は、予約語‘ファイル情報定義’が現れてから有効行、またはファイル形式宣言終了が現れるまでです。
- ・要約図記号を使って記述することもできます。（[外部ファイル情報定義の記述例（要約図記号使用時）](#)を参照）
- ・区切り文字‘:’の数は、記述形式に記載している数と一致していなければなりません。

・文字列・1～文字列・5 及び文字列・9～文字列・12は、予約語‘ファイル情報定義’に対して1行しか記述できません。

・文字列・6～文字列・8は、予約語‘ファイル情報定義’に対して複数行記述できません。

・項目間の区切り文字‘空白’は、省略が可能です。

・各キーワードの記述順序は自由だが、予約語‘ファイル情報定義’は必ずキーワード‘ファイル名’の前に記述しなければなりません。

## [ 項目の説明 ]

予約語‘ファイル情報定義’については、[ファイル情報定義](#)を参照してください。

内容	桁数及び記述方法
ファイル名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・9	ファイル名を30文字以内の全角、または半角文字で記述します。
アクセス名	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・10	アクセス名を12文字以内の全角、または半角で記述します。ただし、全角文字で記述する場合、記述できる文字は以下の通りです。 A～Z、0～9、 <code>・</code> 、 <code>;</code> 、 <code>(</code> 、 <code>)</code> 、 <code>'</code> 、 <code>"</code> 、 <code>・</code>
アクセスモード	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・11	アクセスモードを以下の文字列のいずれかを英字は半角、日本語は全角で記述します。 ・順呼出し ・乱呼出し ・動的呼出し ・SEQUENTIAL ・RANDOM ・DYNAMIC
入出力区分	左記の通り全角文字で記述します。
文字列・12	入出力区分を以下の文字列のいずれかを全角、または半角文字で記述します。 ・INPUT ・入力 ・I-O ・入出力

・OUTPUT

・出力

・EXTEND

・拡張

： 左記の通り全角、または半角で記述します。ただし、‘：’は位置  
キーワードであるため、省略してはなりません。

## 記述例

— ☆	ファイル情報定義
— ☆	
— ☆	媒体 : 形式 : レコード長 : ブロック長 : 編成
— ☆	LIST : VBA : 305 : 3055 : PS
— ☆	区分 : ID : 日本語名称
— ☆	○ : ISO1 : 在庫一覧表
— ☆	
— ☆	ファイル名 : 在庫一覧表出力ファイル
— ☆	アクセス名 : LIST01
— ☆	アクセスモード : SEQUENTIAL
— ☆	入出力区分 : OUTPUT

外部ファイル情報定義の記述例 ( ☆ 記号使用時)

## 要約 ファイル情報定義

媒体 : 形式 : レコード長 : ブロック長 : 編成

LIST : VBA : 305 : 3055 : PS

区分 : ID : 日本語名称

○ : IS01 : 在庫一覧表

ファイル名 : 在庫一覧表出力ファイル

アクセス名 : LIST01

アクセスモード : SEQUENTIAL

入出力区分 : OUTPUT

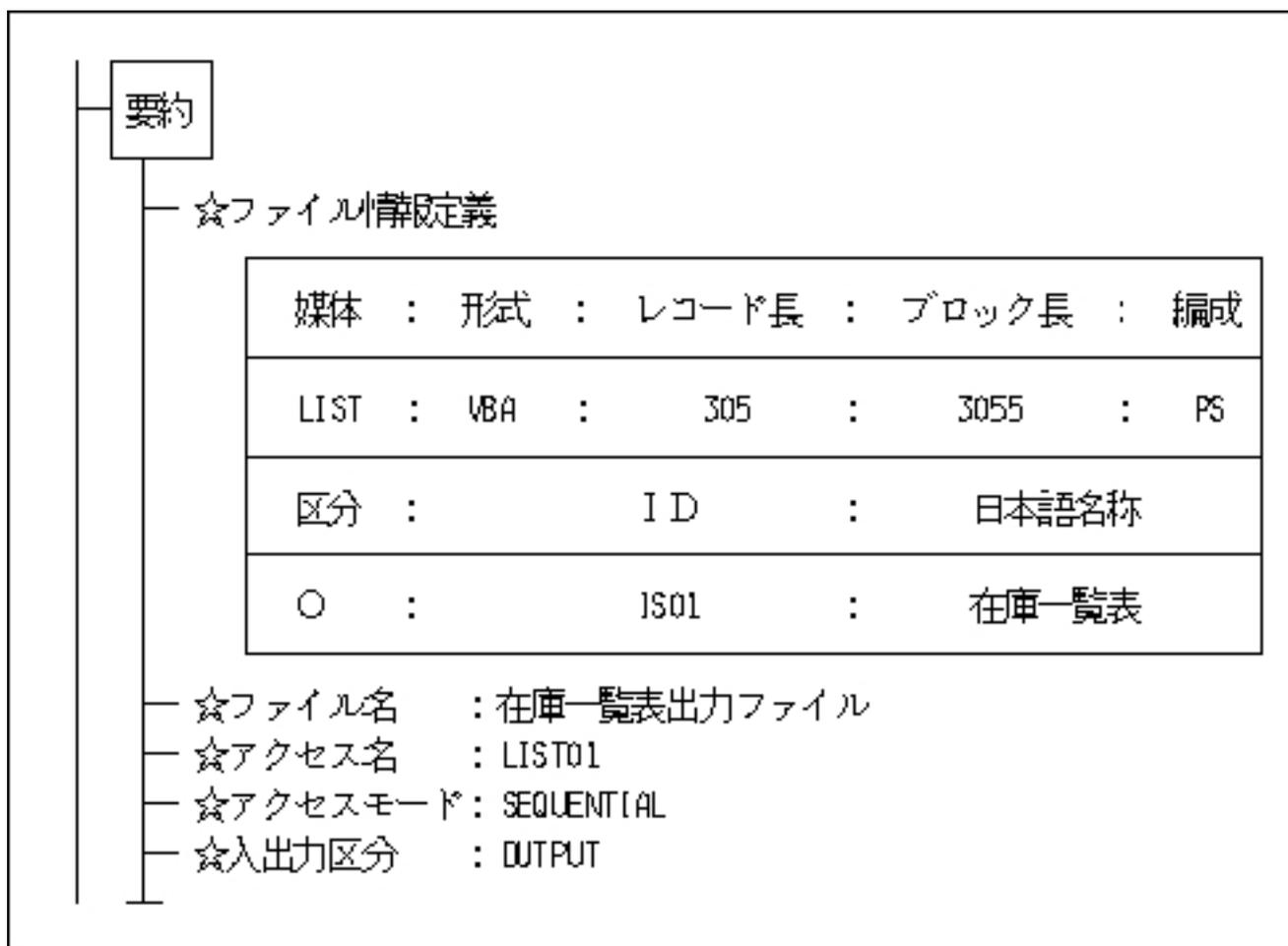
外部ファイル情報定義の記述例（要約区記号使用時）

## 注意事項

外部ファイル情報定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

- ・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。
- ・各文字列・nが許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。
- ・キーワード‘媒体’、‘形式’、‘レコード長’、‘ブロック長’、‘編成’に対する文字列が複数行存在した場合、最終行の情報が有効となります。
- ・キーワード‘ファイル名’、‘アクセス名’、‘アクセスモード’、‘入出力区分’が複数行存在した場合、最終行の情報が有効となります。
- ・文字列・1に指定できる文字列以外が記述された場合モジュール概要に図形が出力されません。
- ・文字列・12を省略したり、文字列・12に指定できる文字列以外が記述された場合モジュール概要に図形が出力されません。

- ・文字列・6を省略したり、文字列・6に指定できる文字列以外が記述された場合モジュール概要（補助シート1）に画面情報・帳票情報が出力されません。
- ・文字列・11を省略したり、文字列・11に指定できる文字列以外が記述された場合モジュール概要及びモジュール概要（補助シート1）にアクセス方式が出力されません。
- ・文字列・6を記述した場合、必ず文字列・7または文字列・8を記述すること。
- ・各文字列・nの中に囲み線（外枠）で使用できる記号を記述した場合、記述部分が空白で出力されます。
- ・要約図記号を使用して記述する場合、継続行内でのみ有効です。
- ・ファイル情報定義については、[ファイル情報定義](#)を参照のこと。
- ・以下のように要約図記号と‘ ’記号の併用はできません。その記述例を以下に示します。



前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。その場合に影響が生じるドキュメントと出力欄を以下に示します。

ドキュメント名称

出力欄

---

モジュール概要

ファイル名、アクセス名、入出力区分、アクセス方式、媒体、レコード形式、レコード長、ブロック長、ファイル編成、図形（ブロックダイヤグラム）

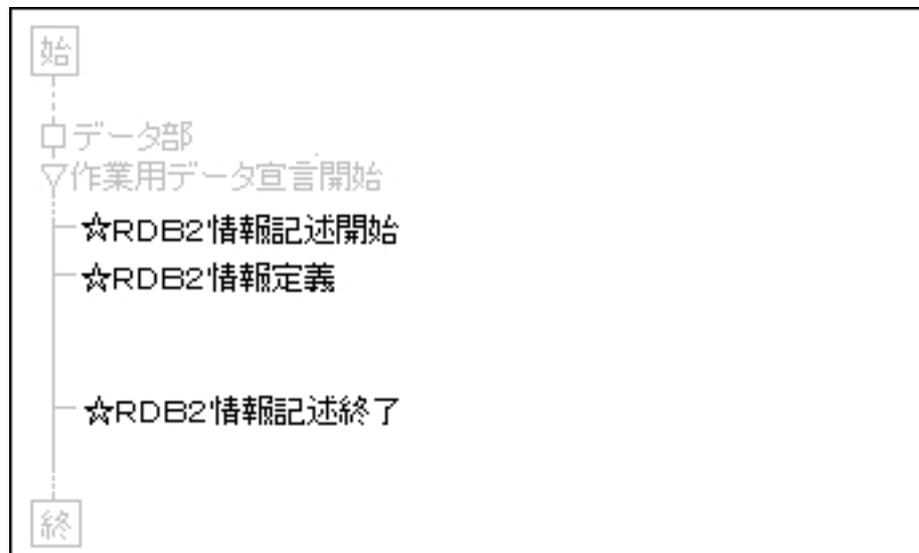
モジュール概要（補助シート1）

画面名称、画面ID、帳票名称、帳票ID、ファイル名、アクセス名、入出力区分、アクセス方式媒体、レコード形式、レコード長、ブロック長、ファイル編成

## RDB2 情報定義

[記述位置](#) [記述形式](#) [記述例](#) [注意事項](#)

### 記述位置



・RDB2 情報定義は、データ部内に記述します。（節は問わない）

### 記述形式

#### 記述形式

```
RDB2情報記述開始
```

```
RDB2情報定義
```

```
[ [ [ 区分      : スキーマ名 :      表名 ] [ ] ] ]
```

```
[ [ 文字列-1 : 文字列-2 : 文字列-3 ] [ ] ]
```

```
RDB2情報記述終了
```

[ ] : 省略可能

[ 規則の説明 ]

- ・行の継続は許されず、1行の中に記述しなければなりません。
- ・RDB2情報定義を記述する場合、予約語‘RDB2情報記述開始’、‘RDB2情報定義’、‘RDB2情報記述終了’及び‘:’は省略できません。
- ・キーワード(区分等)の記述順序は、固定です。
- ・文字列・1~文字列・3の記述順序は、固定です。
- ・キーワード(区分等)の囲み線は、予約語‘RDB2情報定義’の後であれば何処にあっても良く、また省略しても構いません。
- ・RDB2情報定義の有効範囲は、予約語‘RDB2情報記述開始’が現れてから予約語‘RDB2情報記述終了’が現れるまでです。
- ・項目間の区切り文字‘空白’は省略が可能です。
- ・要約図記号を使って記述することもできます。( [RDB2情報定義の記述例\(要約図記号使用時\)](#) を参照 )
- ・区切り文字‘:’の数は、記述形式に記載している数と一致していなければなりません。
- ・文字列・1~文字列・3は、予約語‘RDB2情報定義’に対して1行しか記述できません。
- ・予約語‘RDB2情報記述開始’と‘RDB2情報記述終了’は必ず対で記述しなければなりません。

[ 項目の説明 ]

内容	桁数及び記述方法
RDB2情報記述開始	左記の通り全角文字で記述します
RDB2情報定義	左記の通り全角文字で記述します。
区分	先頭に左記の通り全角文字で記述します。
スキーマ名	区分の後を‘:’で区切り、左記の通り全角文字で記述します。

表名	スキーマ名の後を ‘ : ’ で区切り、左記の通り全角文字で記述します。
文字列・1	区分を以下の文字列のいずれかで全角、または半角英字で記述します。 ・1 ・0 ・1-0
文字列・2	スキーマ名を15文字以内の全角、または半角文字で記述します。
文字列・3	表名を15文字以内の全角、または半角文字で記述します。
R D B 2 情報記述終了	左記の通り全角文字で記述します。
:	左記の通り全角、または半角文字で記述します。ただし ‘ : ’ は位置キーワードであるため、省略してはなりません。
囲み線	<p>囲み線（外枠）に使用できる記号は、次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JEF細線 / 太線</li> <li>・シフト J I S 細線 / 太線</li> <li>・YPS記号 ‘ ’</li> <li>・全角縦 / 横線</li> <li>・全角 ‘ + ’</li> <li>・全角 ‘ * ’</li> </ul> <p>ただし、文字列・n の後ろの囲み線（外枠）に使用できる記号は、JEF細線の縦、JEF太線の縦、シフト J I S 細線の縦、シフト J I S 太線の縦、YPS記号 ‘ ’、全角縦線、全角 ‘ * ’ のみです。</p>

## 記述例

— ☆RDB2情報記述開始

— ☆RDB2情報定義

— ☆  
— ☆  
— ☆  
— ☆  
— ☆

区分	:	スキーマ名	:	表名
----	---	-------	---	----

0	:	S1	:	在庫一覧表
---	---	----	---	-------

— ☆RDB2情報記述終了

RDB II情報定義の記述例（☆記号使用時）

要約 RDB2情報記述開始

RDB2情報定義

区分	:	スキーマ名	:	表名
----	---	-------	---	----

0	:	S1	:	在庫一覧表
---	---	----	---	-------

RDB2情報記述終了

RDB II情報定義の記述例（要約区記号使用時）

## 注意事項

RDB2情報定義を記述する上で注意すべき事項を以下に示します。

・同一行に2つ以上の予約語、またはキーワードが存在しないこと。

- ・各文字列・nが許している最大文字数を越えた記述が存在した場合、越えた文字は無視されます。
- ・予約語‘RDB2情報定義’に記述されているコメントより情報を出力しており、SQL文に対するチェックは一切行っていません。
- ・各文字列・nの中に囲み線（外枠）で使用できる記号を記述した場合、記述部分が空白で出力されます。
- ・予約語‘RDB2情報記述開始’、‘RDB2情報記述終了’が複数存在した場合、YPS仕様書上に最初に出現した‘RDB2情報記述開始’から‘RDB2情報記述終了’までが有効となります。
- ・予約語‘RDB2情報記述開始’から‘RDB2情報記述終了’の間にRDB2情報定義以外のものが記述されていた場合、その情報はドキュメントに出力されません。
- ・要約図記号と‘ ’記号の併用はできません。その記述例を以下に示します。



ドキュメント名称

出力欄

モジュール概要

ファイル名、アクセス名、入出力区分、ファイル編成、図形（ブロックダイアグラム）

モジュール概要（補助シート1）

ファイル名、アクセス名、入出力区分、ファイル編成

## 前提条件

### (1) 日本語名標と構文について

EXSPECでは標準的な日本語名標及び構文を解析対象としており、以下のように分類されます。

区分 = 日本語名標識

分類

YPS記述でのキーワード分類

S I A 日本語名標

【 S I A 日本語名標 】

EXSPEC固有の日本語名標

【 日本語名標 】

区分 = 構文

分類

YPS記述でのキーワード分類

YPS 標準構文

【 YPS 標準構文 】

YPS/COBOL 標準構文

【 YPS/COBOL 標準構文 】

### (2) YPS 仕様書のキーワードについて

EXSPECでYPS仕様書を解析するためには、以下に示すようなYPS記述またはCOBOL記述でのキーワードがYPS仕様書中に存在する必要があります。

そのため、それぞれのキーワードを規約に従った形式で記述しなくてはなりません。YPS仕様書記述規約以外の記述をしてEXSPECで解析を行った場合は、出力結果は保証されません。

YPS仕様書の記述部 = [プログラム名](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

プログラム名
--------

YPS仕様書の記述部 = [サブスキーマ名記述項](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

【日本語名標】  
サブスキーマ名  
サブスキーマ名は

SUBSCHEMA-NAME

YPS仕様書の記述部 = [ファイル管理記述項](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

【S I A日本語名標】  
ファイル指定  
【S I A日本語名標】  
ファイル識別名は

SELECT

【日本語名標】  
アクセス名は  
の割り当ては  
D D名は

同上

【S I A日本語名標】  
呼出しモードは

ACCESS

【日本語名標】  
アクセスモードは

同上

YPS仕様書の記述部 = [ファイル記述項](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

---

【S I A日本語名標】  
ファイル形式定義  
ソートファイル形式定義  
マージファイル形式定義  
【日本語名標】  
メッセージファイル形式定義

FD及びSD

同上

YPS仕様書の記述部 = [OPEN文](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

---

【YPS/COBOL標準構文】  
モードでオープンする

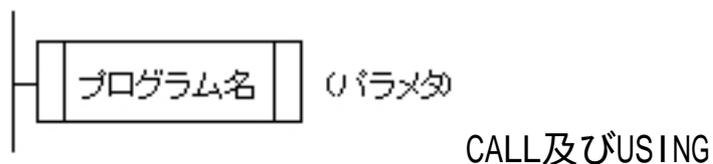
OPEN

YPS仕様書の記述部 = [プログラム呼出し](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

---



YPS仕様書の記述部 = [節及び節呼出し](#)

■ 節名

YPS仕様書の記述部 = [COPY命令](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

---

【YPS 標準構文】  
を取り込む

COPY

YPS仕様書の記述部 = [取込み](#)

YPS記述でのキーワード

COBOL記述でのキーワード

---

取込 取込み名

# プログラム名

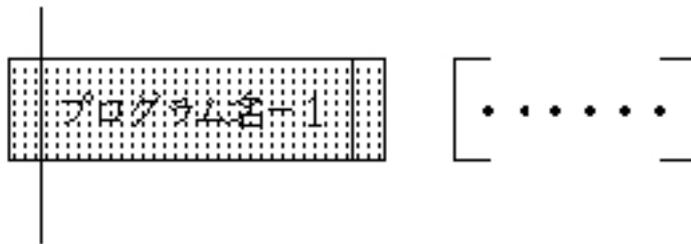
## YPSでの記述規約

### 1) 記述形式

YPSでプログラム名を、記述する場合の形式を以下に示します。

#### 記述形式

##### 【書き方】



.....: プログラム開始区記号がキーワードである      [ ] : 省略可能

##### [ 規則の説明 ]

特になし。

##### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
プログラム名-1	プログラム名を、そのまま記述する場合、8文字以内の全角または半角の英数字で記述します。 日本語名標を使用する場合、15文字以内の全角で記述し、モジュール共通データ部で日本語名標を定義します。
.....	定義していても、EXSPECでは無視します。

### 2) 記述例

YPSでプログラム名を、記述した場合の例を以下に示します。



SUBPROG

#### COBOLでの記述規約

記述できません。

#### 注意事項

プログラム名を、記述する上で注意すべき事項を次に示します。

- ・プログラム名がリテラルで囲まれている場合には、出力結果を保証しません。
- ・プログラム名を日本語名標で記述している場合は、該当の日本語名標宣言文をモジュール共通データ部内に記述するか取込みによって取り込まなければなりません。外部日本語名標宣言仕様書で定義した場合は、解析対象にならず出力結果を保証しません。
- ・YPS仕様書のプログラム開始図記号が複数ある場合は、出力結果を保証しません。
- ・YPS仕様書のプログラム開始図記号が省略されている場合は、出力結果を保証しません。

#### 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
モジュール設計書 (表紙)	プログラムID	プログラム名をそのまま記述している場合は、全角に変換して出力します。 日本語名標で記述されている場合は、変換後のAVN名を出力します。
	プログラム名	モジュール概要定義(コメント)でプログラム名を記述していない場合、日本語名標で記述しているプログラム名を出力します。
変更履歴一覧表 モジュール概要 モジュール概要 (補助シート1) モジュール概要 (補助シート2) セクション構造図 呼出条件一覧 セクション機能概要 YPS仕様書	プログラムID (ヘッダ一部)	プログラム名をそのまま記述している場合は、全角に変換して出力します。 日本語名標で記述されている場合は、変換後のAVN名を出力します。
	プログラム名 (ヘッダ一部)	モジュール概要定義(コメント)でプログラム名を記述していない場合、日本語名標で記述しているプログラム名を出力します。

## サブスキーマ名記述項

### YPSでの記述規約

#### 1) 記述形式

YPSでサブスキーマ名記述項を、記述する場合の形式を以下に示します。

#### 記述形式

【書き方】

```
-----  
| サブスキーマ名 [は] △サブスキーマ名-1  
-----
```

.....: キーワード      △: 空白      [ ]: 省略可能

#### [ 規則の説明 ]

・1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。

#### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
----	----------

1	サブスキーマ名 8文字以内の全角または半角の英数字でなくてはなりません。日本語名標を使用している場合は、出力結果を保証しません。
---	---

#### 2) 記述例

YPS記述でサブスキーマ名記述項を記述した例を以下に示します。

```
-----  
| サブスキーマ名は SUBSCH1  
-----
```

## COBOLでの記述規約

### 1) 記述形式

COBOLでサブスキーマ名記述項を、記述する場合の形式を以下に示します。

---

#### 記述形式

---

##### 【書き方-1】

```
├ SUBSCHEMA::NAME:  
  サブスキーマ名-1
```

##### 【書き方-2】

```
├ SUBSCHEMA::NAME:  
├ サブスキーマ名-1
```

---

::::: : キーワード

#### [ 規則の説明 ]

・【書き方-1】【書き方-2】ともキーワードは、全角・半角のいずれでもかまいません。

#### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
----	----------

---

1	サブスキーマ名・ 8文字以内の全角または半角の英数字でなくてはなりません。日本語名標を使用している場合は、出力結果を保証しません。
---	---

### 2) 記述例

COBOL記述でサブスキーマ名記述項を、記述した場合の例を以下に示します。

```
|
|— SUBSCHEMA-NAME
|— SUBSCH1
```

## 注意事項

サブスキーマ名記述項を、記述する上で注意すべき事項を次に示します。

・サブスキーマ名記述項は、YPS記号のシステム環境宣言開始 '`<`' 及び終了 '`>`' の中に記述しなければなりません。

・YPS記述の場合、規約以外の日本語名標及び利用者定義構文で、サブスキーマ名記述項を定義している場合は、出力結果を保証しません。

## 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
モジュール概要	サブスキーマ名	—————

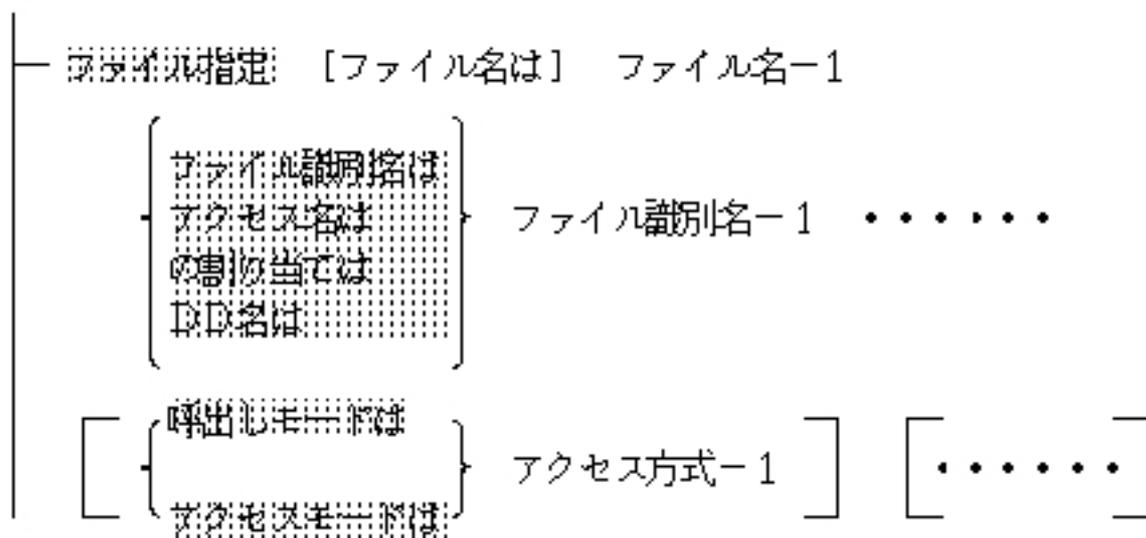
YPSでの記述規約

1) 記述形式

YPSでファイル管理記述項を、記述する場合の形式を以下に示します。

記述形式

【書き方】



.....: キーワード      [ ] : 省略可能      { } : 選択可能

【規則の説明】

- 1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。

【項目の説明】

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
ファイル名-1	YPS/COBOLの文法に従って記述します。
ファイル識別名	8文字以内の全角または半角の英数字で記述します。

- ..... 日本語名標を使用している場合は、出力結果を保証しません。複数指定した場合は、先頭に記述されているもののみを解析対象とし、それ以外はEXSPECでは無視します。
- アクセス方式・1 順呼び出しの場合：‘ 順呼び出し ’ または ‘ SEQUENTIAL ’ （全角または半角）を指定します。  
乱呼び出しの場合：‘ 乱呼び出し ’ または ‘ RANDOM ’ （全角または半角）を指定します。  
動的呼び出しの場合：‘ 動的呼び出し ’ または ‘ DYNAMIC ’ （全角または半角）を指定します。
- ..... その他の情報を定義していても、EXSPECでは無視します。

## 2 ) 記述例

YPS記述でファイル管理記述項を、記述した例を以下に示します。

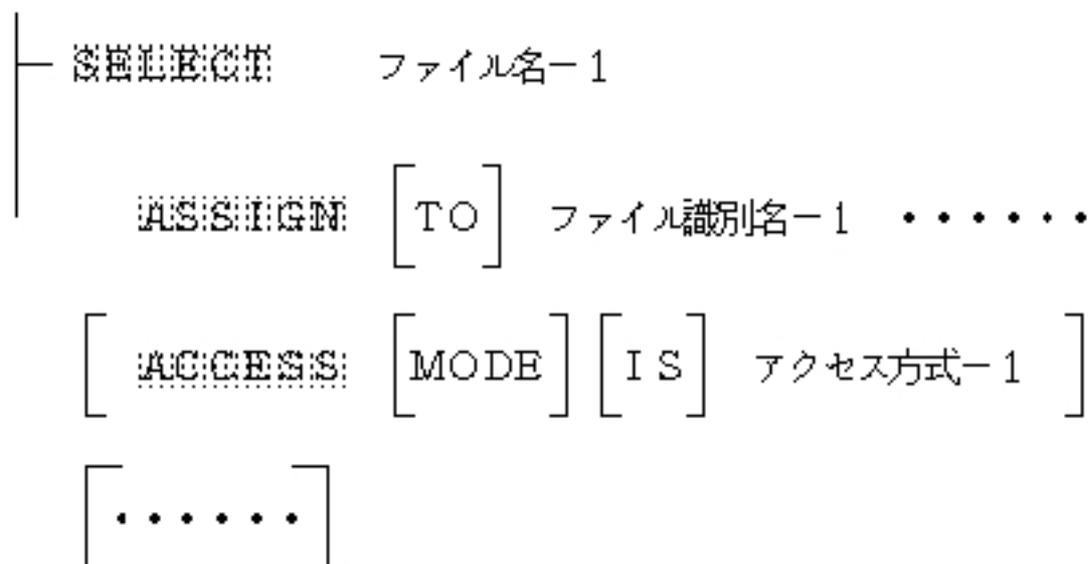
```
ファイル指定   ファイル名は 顧客マスタ  
ファイル識別名は DI01 アクセスモードは 乱呼び出し
```

### COBOLでの記述規約

#### 1 ) 記述形式

COBOLでファイル管理記述項を、記述する場合の形式を以下に示します。

【書き方】



.....: キーワード      [ ] : 省略可能

[ 規則の説明 ]

- ・1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。
- ・キーワードは、全角・半角のいずれでもかまいません。

[ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
ファイル名-1	YPS/COBOLの文法に従って記述します。
ファイル識別名-1	8文字以内の全角または半角の英数字で記述します。
.....	日本語名標を使用している場合は出力結果を保証しません。複数指定した場合は、先頭に記述されているもののみを解析対象とし、それ以外はEXSPECでは無視します。
アクセス方式-1	順呼び出しの場合：'SEQUENTIAL'（全角または半角）を指定します。 乱呼び出しの場合：'RANDOM'（全角または半角）を指定します。



ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
モジュール概要	アッププログラムの図形	以下のファイル名の記述が、全て一致する場合に出力します <ul style="list-style-type: none"> <li>-ファイル管理記述項で指定したファイル名</li> <li>-ファイル記述項で指定したファイル名</li> <li>-OPEN文で指定したファイル名</li> </ul>
	アッププログラムのDD名	
モジュール概要 モジュール概要 (補助シート1)	ファイル名	記述していれば、出力されます
	アクセス名	記述していれば、出力されます
	アクセス方式	アクセス方式(Access Mode句) を省略した場合は '順' と表示されます

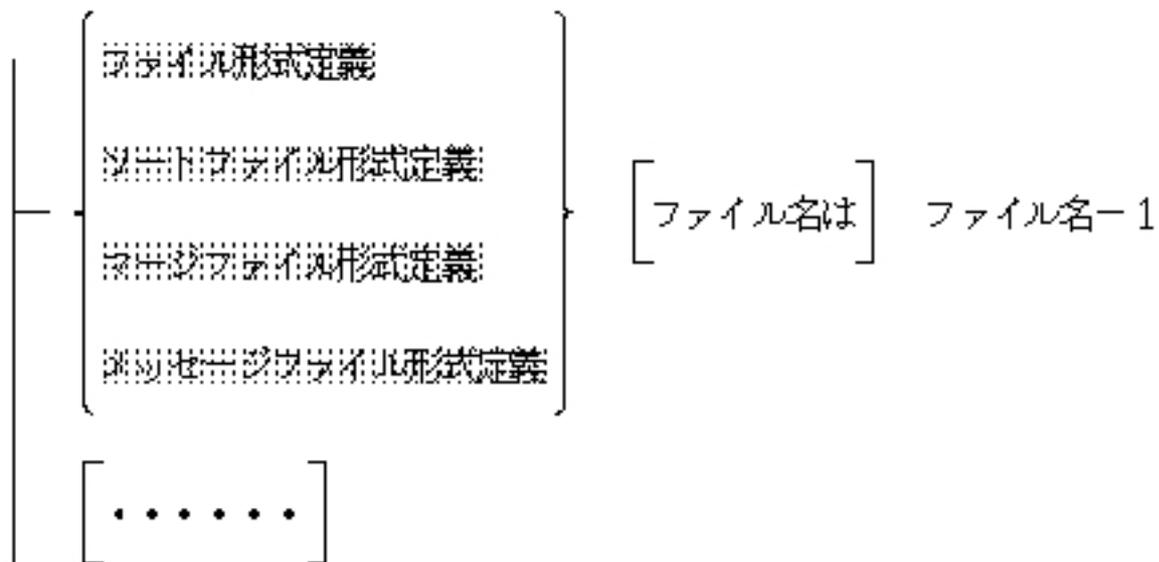
YPSでの記述規約

1) 記述形式

YPSでファイル記述項を、記述する場合の形式を以下に示します。

記述形式

【書き方】



.....: キーワード      [ ] : 省略可能      { } : 選択可能

[ 規則の説明 ]

- 1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。

[ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
ファイル名-1 .....	YPS/COBOLの文法に従って記述します。 定義していても、EXSPECでは無視します。

## 2) 記述例

YPS記述でファイル記述項を、記述した例を以下に示します。

```
├ ファイル開式定義  
  ファイル名は 顧客マスタ
```

## COBOLでの記述規約

### 1) 記述形式

COBOLでファイル記述項を、記述する場合の形式を以下に示します。

---

記述形式
<p>【書き方】</p> <pre>├ { FD   SD } ファイル名-1 [ ..... ]</pre>
.....: キーワード      [ ] : 省略可能      { } : 選択可能

---

### [ 規則の説明 ]

・1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。

・キーワードは、全角・半角のいずれでもかまいません。

### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
----	----------

ファイル名・1 .....	YPS/COBOLの文法に従って記述します。 定義していても、EXSPECでは無視します。
------------------	--

## 2) 記述例

COBOL記述でファイル記述項を、記述した場合の例を以下に示します。

```

FD 顧客マスタ LABEL RECORD IS OMITTED
RECORD IS VARYING IN SIZE
BLOCK CONTAINS 0 RECORDS

```

### 注意事項

ファイル記述項を、記述する上で注意すべき事項を次に示します。

・ファイル記述項は、YPS図記号のファイル形式宣言開始 ' ' 及びファイル形式宣言終了 ' ' の中に記述しなければなりません。

・YPS記述の場合、規約以外の日本語名標及び利用者定義構文で、ファイル記述項を定義している場合は、出力結果を保証しません。

### 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
モジュール概要	アップダイグラムの 図形	以下のファイル名の記述が、全て一致する場合に 出力します <ul style="list-style-type: none"> <li>-ファイル管理記述項で指定したファイル名</li> <li>-ファイル記述項で指定したファイル名</li> <li>-OPEN文で指定したファイル名</li> </ul>
	アップダイグラムの DD名	

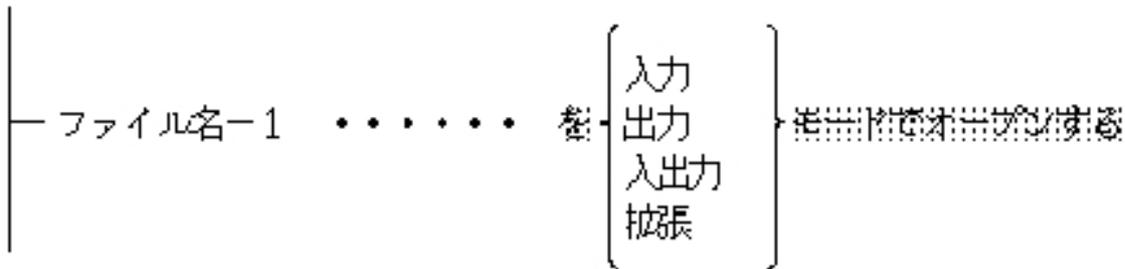
YPSでの記述規約

1) 記述形式

YPSでOPEN文を、記述する場合の形式を以下に示します。

記述形式

【書き方】



.....: キーワード      { } : 選択可能

[ 規則の説明 ]

- 1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。

[ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
ファイル名-1 .....	YPS/COBOLの文法に従ってファイル名を記述します。 1つのオープン文で、記述可能なファイル数は49個までです。また1行でオープン文が、完結した場合に記述可能なファイル数は9個までです。

2) 記述例

YPS記述でOPEN文を、記述した例を以下に示します。

```
| 顧客マスタ を入力モードでオープンする
```

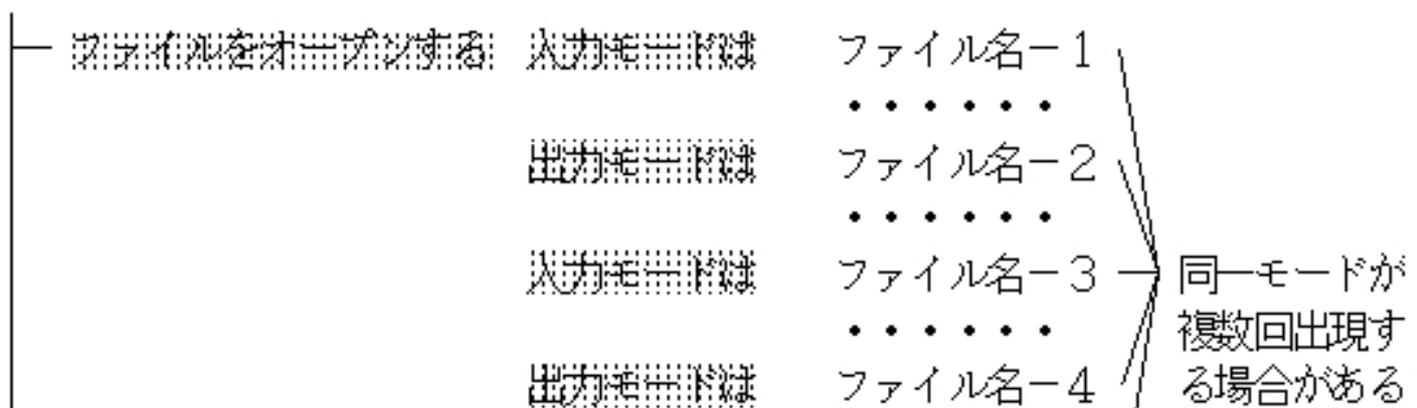
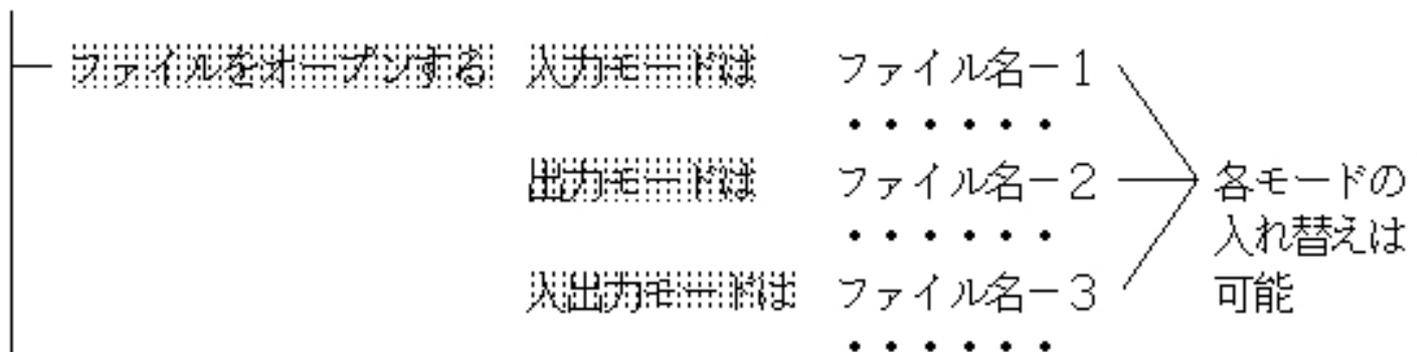
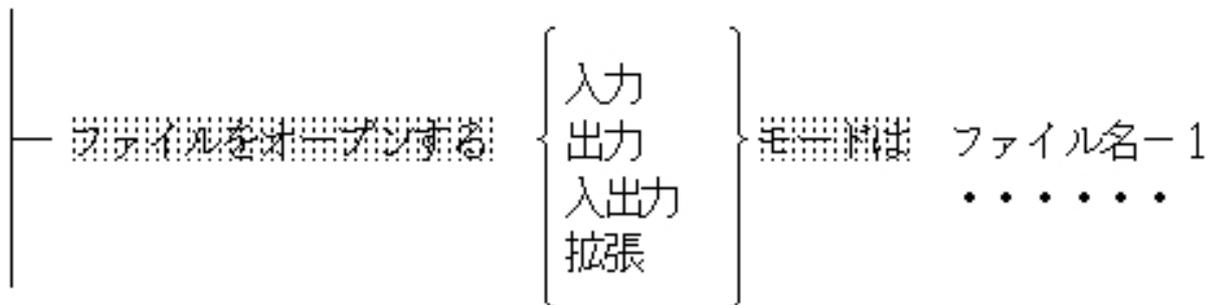
### YPSでの記述規約（複数モード記述）

#### 1) 記述形式

YPSでOPEN文（複数モード）を、記述する場合の形式を以下に示します。

### 記述形式

#### 【書き方】



入力モードは	ファイル名-3	同一モードが複数回出現する可能性がある
出力モードは	ファイル名-4	
入出力モードは	ファイル名-5	
	.....	
	.....	

.....: キーワード      { } : 選択可能

[ 規則の説明 ]

- ・ 1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。
- ・ 「ファイルをオープンする」とモードの間には、1バイト以上の空白が入ります。
- ・ 「モードは」とファイル名の間には、1バイト以上の空白が入ります。
- ・ ファイル名とファイル名の間には1バイト以上の空白が入ります。
- ・ 1つのオープン文には、各モードが複数回記述可能です。ただし、1行に複数モード記述することはできません。
- ・ キーワードがCOBOL記述のもの、およびYPSとCOBOL記述の混在は対応しません。

[ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
ファイル名・1、 ファイル名・2、 ファイル名・3、 ファイル名・4、 ファイル名・5 .....	YPS/COBOLの文法に従ってファイル名を記述します。  1つのオープン文で、記述可能なファイル数は98個までです。また1プログラム内で記述可能なファイル数は98個までです。 1行に記述可能なファイル数は、8個までです。

2) 記述例

YPS記述でOPEN文（複数モード）を、記述した例を以下に示します。

```
| ファイルをオープンする 入力モードは 顧客マスタ  
                           入出力モードは 顧客利用データ
```

### COBOLでの記述規約

#### 1) 記述形式

COBOLでOPEN文を、記述する場合の形式を以下に示します。

---

### 記述形式

---

#### 【書き方】

```
| OPEN { INPUT  
        OUTPUT  
        I-O  
        EXTEND } ファイル名-1 . . . . .
```

---

|||||: キーワード      { } : 選択可能

#### [ 規則の説明 ]

- ・1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。
- ・キーワードは、全角・半角のいずれでもかまいません。

#### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
----	----------

---

ファイル名-1	YPS/COBOLの文法に従ってファイル名を記述します。
---------	------------------------------

..... 1つのオープン文で、記述可能なファイル数は49個までです。また1行でオープン文が、完結した場合に記述可能なファイル数は8個までです。

## 2) 記述例

COBOL記述でOPEN文を、記述した場合の例を以下に示します。

```
| OPEN  I-O  顧客マスタ  
|          顧客利用データ.
```

## 注意事項

OPEN文を、記述する上で注意すべき事項を次に示します。

・YPS記述の場合、規約以外の日本語名標及び利用者定義構文でOPEN文を記述している場合は、出力結果を保証しません。

## 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など<
モジュール概要	ムックアップの 図形 ----- ムックアップの DD名	以下のファイル名の記述が、全て一致する場合に 出力します -ファイル管理記述項で指定したファイル名 -ファイル記述項で指定したファイル名 -OPEN文で指定したファイル名
モジュール概要  モジュール概要 (補助シート1)	入出力区分	OPEN文のモードを半定して出力します -入力指定の場合 : 'IN' -出力指定の場合 : 'OUT' -入出力両用指定の場合 : 'I-O' -拡張指定の場合 : 'EX'

# プログラム呼出し

## YPSでの記述規約

### 1) 記述形式

YPSでプログラム呼出しを、記述する場合の形式を以下に示します。

#### 記述形式



.....: キーワード      [ ] : 省略可能

#### [ 規則の説明 ]

・1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。

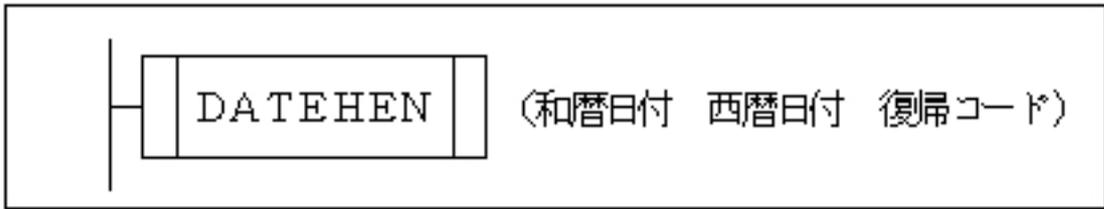
#### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
1 サブルーチン名	プログラム名を、そのまま記述する場合8文字以内の全角または半角の英数字で記述します。日本語名標を使用する場合、15文字以内の全角で記述し、モジュール共通データ部で日本語名標を定義します。
.....	定義していてもEXSPECでは無視します。

### 2) 記述例

YPS記述でプログラム呼出しを、記述した例を以下に示します。



COBOLでの記述規約

1) 記述形式

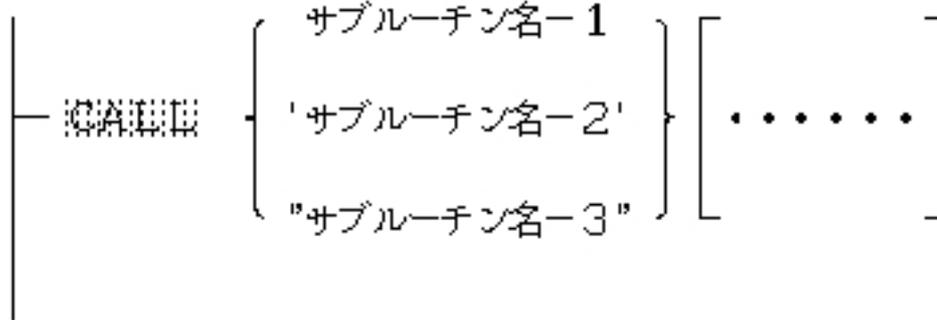
COBOLでプログラム呼出しを、記述する場合の形式を以下に示します。

---

記述形式

---

【書き方】




---

.....: キーワード      [ ] : 省略可能      { } : 選択可能

[ 規則の説明 ]

- ・1行に記述する必要はなく、行を継続してもかまいません。ただし、語の途中から継続することはできません。
- ・キーワードは、全角・半角のいずれでもかまいません。

[ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
1 サブルーチン名	一意名を指定する場合です。8文字以内の半角または全角の英数字で記述します。

- 2 サブルーチン名・ ' (全角または半角)囲み、定数を指定する場合は。8文字以内の半角の英数字で記述します。
- 3 サブルーチン名・ " (全角または半角)囲み、定数を指定する場合は。8文字以内の半角の英数字で記述します。
- ..... 定義していてもEXSPECでは無視します。

## 2) 記述例

COBOL記述でプログラム呼出しを、記述した場合の例を以下に示します。

```
CALL 'SUBPROG' USING  
      顧客情報部 利用者データ部.
```

### 注意事項

プログラム呼出しを、記述する上で注意すべき事項を次に示します。

- YPS記述及びCOBOL記述の合計でプログラム呼出しを定義できるのは99までです。
- サブルーチンIDの同じものが複数存在した場合、最初に出現したものしかモジュール概要(補助シート2)に出力されません。
- YPS記述でサブルーチン名を日本語名標で記述している場合は、該当の日本語名標宣言文をモジュール共通データ部内に記述するか取込みによって取り込まなければなりません。外部日本語名標宣言仕様書で定義した場合は、解析対象にならず出力結果を保証しません。
- ユーザ固有の日本語名標及び利用者定義構文で、CALL命令を定義している場合は出力結果を保証しません。
- サブルーチン名に文字列'COPY'を記述してはいけません。
- COBOL記述でサブルーチン名を日本語名標で記述している場合、該当の日本語名標宣言文を解析していないので、文字化けして出力されることがあります。

### 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
モジュール概要 (補助シート2)	サブルーチン名	サブルーチン定義(コメント)でサブルーチン名を記述していない場合、プログラム呼出し図記号に日本語名標で記述しているサブルーチン名をそのまま出力します
	サブルーチンID	サブルーチン名をそのまま記述した場合は、そのまま出力する。プログラム呼出し図記号に日本語名標で記述した場合は、AVNに変換後出力します
セクション構造図	サブルーチン名	プログラム呼出しをYPSのプログラム呼出し図記号で記述した場合に出力されます

## 節及び節呼出し

### YPSでの記述規約

#### 1) 記述形式

YPSで節及び節呼出しを、記述する場合の形式を以下に示します。

---

#### 記述形式

---

##### 【書き方】



---

##### [ 規則の説明 ]

特になし。

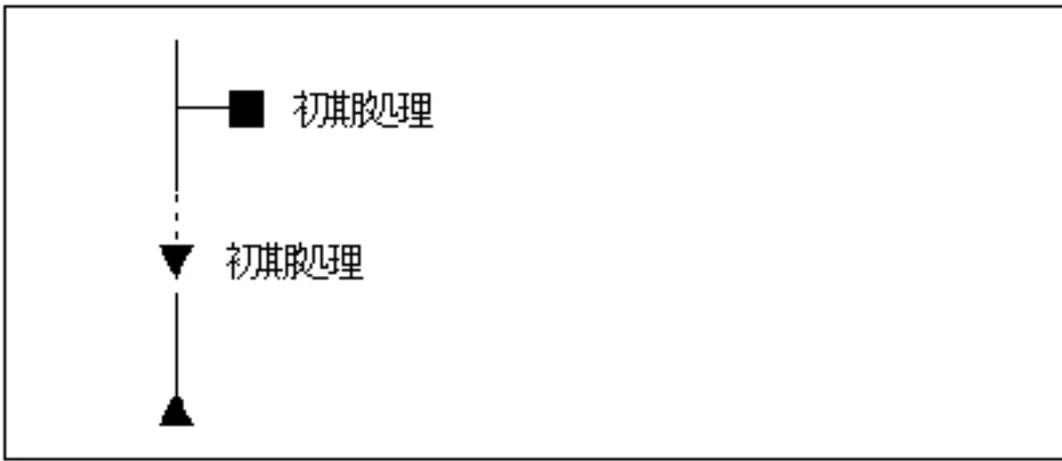
##### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
節名-1	YPS/COBOLの文法に従って記述します。

#### 2) 記述例

YPS記述で節及び節呼出しを、記述した例を以下に示します。



## COBOLでの記述規約

記述できません。

## 注意事項

特になし。

## 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
セクション構造図	セクション名	—————

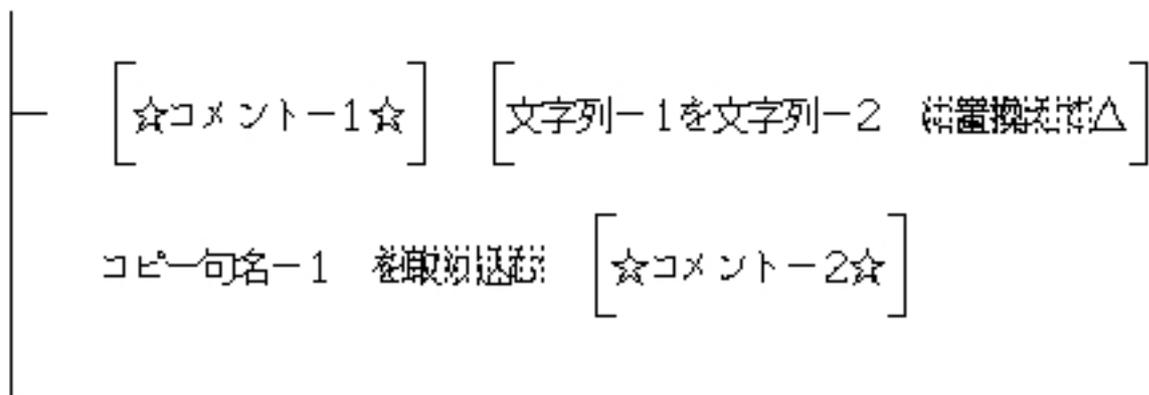
## YPSでの記述規約

## 1) 記述形式

YPSでCOPY命令を、記述する場合の形式を以下に示します。

## 記述形式

## 【書き方】



⋮: キーワード    △: 空白    [ ] : 省略可能

## [ 規則の説明 ]

・ 1 行に記述しなければなりません。

## [ 項目の説明 ]

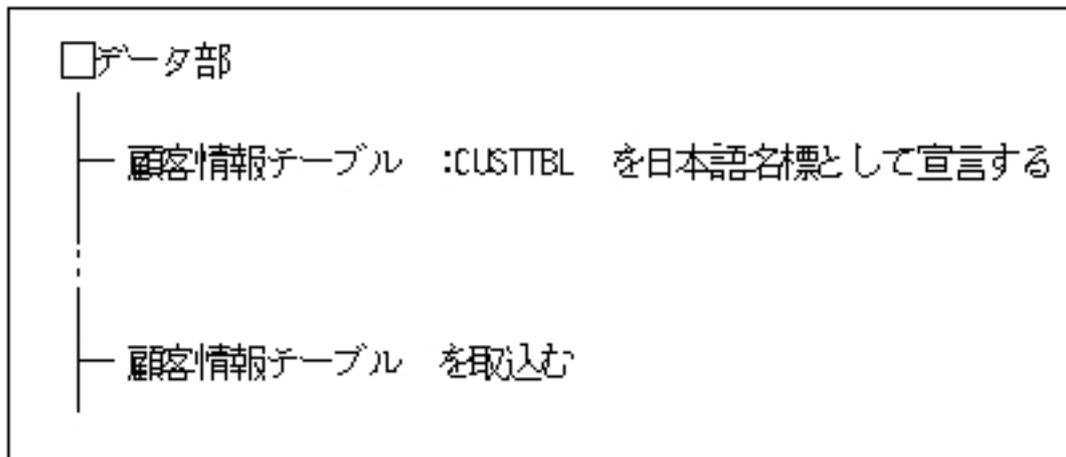
指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
コメント・1	コピー句についての注釈を記述します。
文字列・1	原文の置き換えを行う場合に指定します。ただし、EXSPECでは無視します。
文字列・2	原文の置き換えを行う場合に指定します。ただし、EXSPECでは無視します。
コピー句名・1	コピー句名を記述する場合、8文字以内の全角か半角の英数字で記述します。日本語名標を使用する場合、全角で記述し、モジュール共通データ部で日本語名標を定義します。

コメント・2 コピー句についての注釈を記述します。

## 2) 記述例

YPS記述でCOPY命令を、記述した例を以下に示します。



## COBOLでの記述規約

### 1) 記述形式

COBOLでCOPY命令を、記述する場合の形式を以下に示します。

---

#### 記述形式

---

##### 【書き方-1】

```
├── [ ☆コメント-1 ☆ ]  :::::::: コピー句名-1 [ ☆コメント-2 ☆ ]
```

##### 【書き方-2】

```
 :::::::: コピー句名-2 [ *> コメント-3 ]
```

---

::::: : キーワード      [ ] : 省略可能

#### [ 規則の説明 ]

・【書き方-1】【書き方-2】ともに、1行に記述しなければなりません。

- ・【書き方・1】のキーワードは全角でも半角でもかまいません。
- ・【書き方・2】のキーワードは半角でなければなりません。

## [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
コメント・1	コピー句についての注釈を記述します。
コピー句名・1	コピー句名を記述する場合、8文字以内の全角か半角の英数字で記述します。日本語名標を使用する場合、全角で記述しモジュール共通データ部で日本語名標を定義します。
コメント・2	コピー句についての注釈を記述します。
コピー句名・2	8文字以内の半角の英数字で記述します。
* >	行内注記でコメントを指定する場合記述します。
コメント・3	コピー句についての注釈を記述します。

## 2) 記述例

COBOL記述でCOPY命令を、記述した場合の例を以下に示します。

```
| COPY CUSTTBL ☆顧客情報テーブル☆
```

## 注意事項

COPY命令を、記述する上で注意すべき事項を次に示します。

- ・YPS仕様書に記述可能なCOPY命令の数は以下の通りです。

$$\text{COPY命令の記述数} + \text{取込みの記述数} < 100$$

- ・ファイル記述項において、1つのファイルに対して記述可能なCOPY命令の数は以下の通り

です。

COPY命令の記述数 + 取込みの記述数 < 15

- ・コピー句の呼び出し階層は7階層までとし、それを越えた場合は無視されます。
- ・コピー句名を日本語名標で記述している場合は、該当の日本語名標宣言文をモジュール共通データ部内に記述するか、取込みによって取り込まなければなりません。外部日本語名標宣言仕様書で定義した場合は、解析対象にならず出力結果を保証しません。
- ・規約以外の日本語名標及び利用者定義構文で、上記に示した記述例以外のCOPY命令を定義している場合は、解析されません。
- ・YPS及びCOBOL記述ともに、行を継続して定義した場合はCOPY命令だと認識されず出力結果が保証されません。

### 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など<
モジュール概要	コピー句名	ファイル記述項 (FD, SD) の直後に取込みが記述されている場合に出力する。YPS のルード句と合わせて14個まで出力されます
モジュール概要 (補助シート2)	展開位置	コピー句が展開される位置を、以下のように出力します -環境部 -データ部 -手続き部
	コピー/YPS インクルード名	日本語名標で定義されている場合は、変換後のAVN名を出力します
	注釈	"モジュール概要(補助シート2)の出力形式"を参照してください

# 取込み

## YPSでの記述規約

### 1) 記述形式

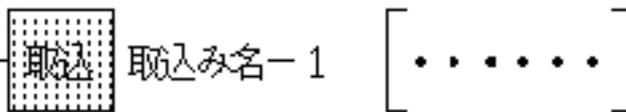
YPSで取込みを記述する場合の形式を以下に示します。

---

#### 記述形式

---

##### 【書き方】



---

.....: 取込み区記号がキーワードである      [ ] : 省略可能

##### [ 規則の説明 ]

特になし。

##### [ 項目の説明 ]

指定項目の一覧を以下に示します。

内容	桁数及び記述方法
取込み名-1	取込み名を記述する場合、8文字以内の全角か半角の英数字で記述します。
.....	定義していてもEXSPECでは無視します。

### 2) 記述例

YPS記述で取込みを記述した例を以下に示します。



取込

KOKYAKU

## COBOLでの記述規約

記述できません。

## 注意事項

取込みを記述する上で注意すべき事項を次に示します。

- ・YPSインクルードの呼び出し階層は7階層までとし、それを超えた場合は無視されます。
- ・YPS仕様書に記述可能な取込みの数は以下の通りです。

$\text{COPY命令の記述数} + \text{取込みの記述数} < 100$

- ・ファイル記述項において、1つのファイルに対して記述可能な取込みの数は以下の通りです。

$\text{COPY命令の記述数} + \text{取込みの記述数} < 15$

## 関連するドキュメント

前述の記述位置・記述形式・注意事項に従って記述されていない場合、出力結果は保証しません。

その場合に影響が生じるドキュメントと出力項目及び出力条件についての説明を以下に示します。

ドキュメント名称	出力項目	制限及び出力条件など
モジュール概要 (補助シート1)	コピー/ YPS インクルード句名	ファイル記述頁 (FD, SD) の直後に取込みが記述されている場合に出力する。COPY命令と合わせて14個まで出力されます
モジュール概要 (補助シート2)	展開位置	取込みが展開される位置を、以下のように出力します <ul style="list-style-type: none"> <li>—構文定義部</li> <li>—環境部</li> <li>—データ部</li> <li>—手続き部</li> </ul>
	YPS インクルード	取込みでインクルード句を取り込んでいる場合に「*」を出力します
	コピー/ YPS インクルード句名	日本語名標で定義されている場合は、変換後のR/N名を出力します

# モジュール設計書（表紙）出力

表紙の出力レイアウトを以下に示します。知りたい個所をクリックしてください。

[出力レイアウト]

	仕様 #	仕様日時	制 作	ページ
	1991.06.21	16:12:04	山本 真	1

## モジュール設計書

システム名	入力欄名	ID	KANKI
サブシステム名	一覧表仕様	ID	HYD
ジョブ名	収録一覧表仕様	ID	ZKIKD-L
プログラムの名	収録一覧表出力	ID	SAMPYPS

種	仕様 #	仕様名	内 容 要 約
D 1	1991.05.20	5号 予	バージョンアップに伴い仕様を編成。
D 3	1991.01.23	3号 第	一覧表のレイアウトの決定。
I 0	1991.06.01	作成 上	仕様 No. ' 201-05-001 ' の作成が完了。




All Rights Reserved, Copyright (C) 易七网科技

# モジュール概要の出力形式

モジュール概要の出力レイアウトを以下に示します。知りたい個所をクリックしてください。

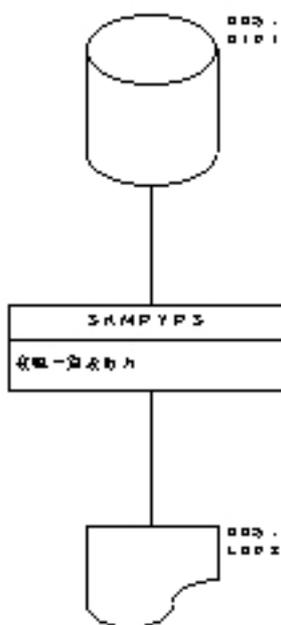
[出力レイアウト]

モジュール概要				作成日	作成時刻	制 作	ページ
				1991.06.21	18:11:34	山本 原	3

システム名		サブシステム名		ジョブ名		プログラム名	
入出力名		入出力名		入出力名		入出力名	
ID	KRNRI	ID	HYD	ID	ZRIKDL	ID	SAMPYPS

説 明	収縮マスタを呼び出すための。	実行機種	ペノト	拡張タイプ	R 派
		作成言語	YPS/COBOL	サブシステム名	

<ブロックダイアグラム>



ID	ファイル名	アクセス名	入出力 区分	AREA 方式	属性	形式	レコード長	ブロック長	レコード タイプ	レコード タイプ
1	収縮マスタファイル	DIDI	IN	原	MSD	PS	16	320	3204	SAMPYPS サブシステム
2	収縮-出力ファイル	LOPZ	OUT	原	LIST	PS	FDL	200	2000	

順	変更日時	変更者	内 容
01	1991.05.20	山本 原	ページ・アプリに作り直した。
02	1991.01.23	山本 原	入出力レイアウトの変更。
03	1991.06.01	山本 原	収縮ID: 'ZDI-00-001' の別名を付した。

ID	1991.09.01	西曆 日期	西曆 ND: '201-8-001' 的日期資料。
----	------------	-------	---------------------------

All Rights Reserved, Copyright (C) 萬世圖書公司









# セクション構造図の出力形式

セクション構造図の出力レイアウトを以下に示します。知りたい個所をクリックしてください。

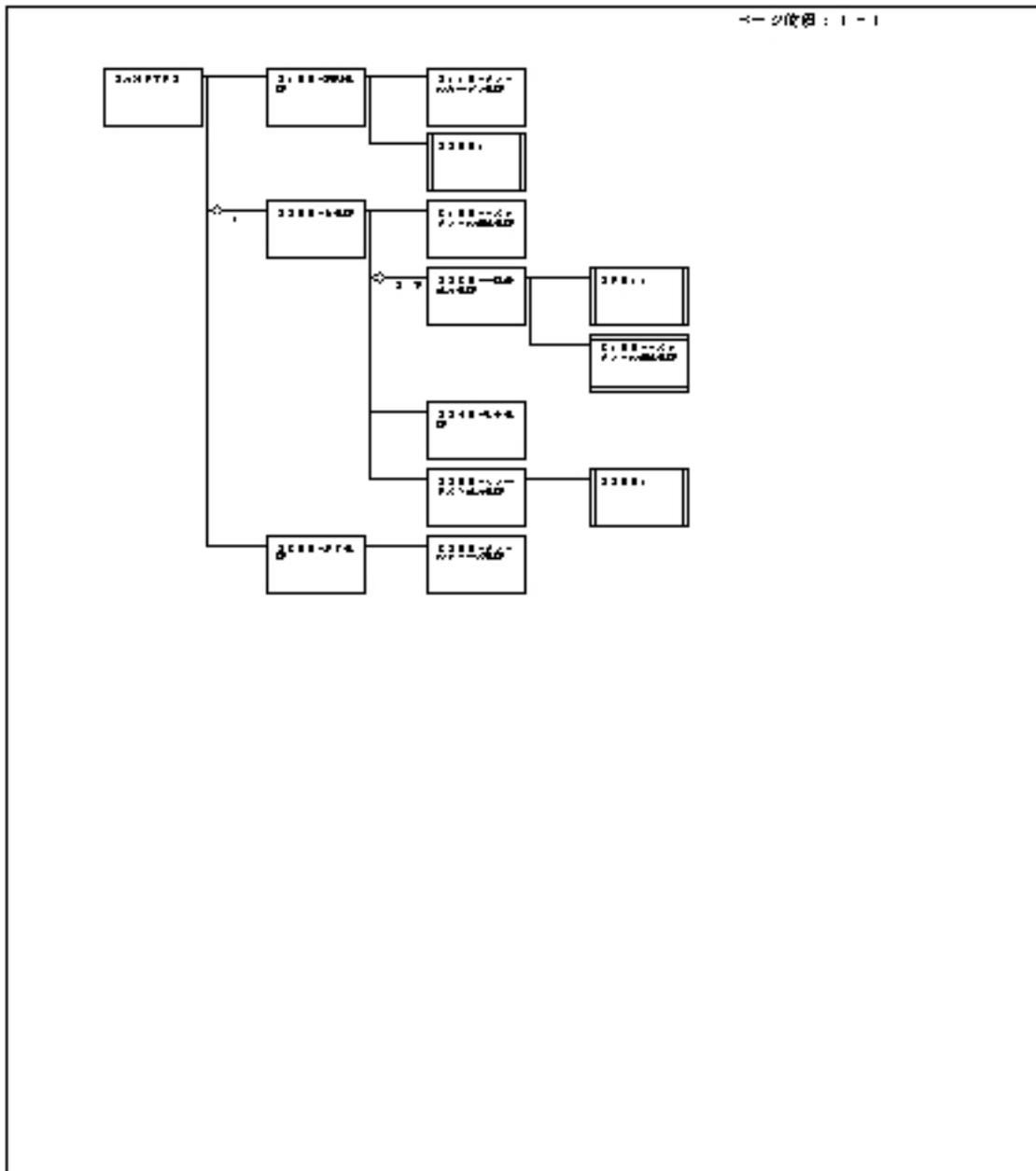
[注意事項]

[セクション構造図の注意事項](#)を参照してください。

[出力レイアウト]

セクション構造図				片数	片数時刻	組 号	ページ
				1991.06.21	18:11:39	山本 原	6

システム名		サブシステム名		ジョブ名		プログラム名	
A 制御等回		- 演表片体		収帳- 演表片体		収帳- 演表出力	
ID	KRNR1	ID	HYD	ID	ZR1K0-L	ID	SAMPYPS





種	改訂年月	改訂内容	改訂内容
D 1	1991.03.20	訂正	バージョンアップに伴い改訂された。
D 2	1991.01.25	別冊	一冊追加された。
I 0	1991.09.01	初版	版元ND「エー・ピー・エー」が発行された。

All Rights Reserved, Copyright (C) 株式会社エー・ピー・エー

## 呼出条件一覧の出力形式

呼出条件一覧の出力レイアウトを以下に示します。知りたい個所をクリックしてください。

[出力レイアウト]

呼出条件一覧	件数	件数/日時	部 門	ページ
	1991.06.21	16:11:41	山形 県	1

システム名		サブシステム名		ジョブ名		プログラム名	
入射帳名		一覧表件名		収帳一覧表件名		収帳一覧表出力	
ID	KRNR1	ID	HYD	ID	ZRIK0-L	ID	SHPYPS

条件番号	条件名	ジョブID	条件内容
1	管収		(収帳一覧「ア」プログラム)
2	利金		(収帳一覧「マ」プログラム「000」)

ID	変更日時	変更者	内 容
01	1991.03.20	宮野 淳	バージョンアップに伴い改修を施す。
02	1991.01.23	宮野 淳	一覧表のレイアウトの変更。
10	1991.09.01	門田 太郎	帳簿NO.「ZRI-0000」の改修を完了。

10	1001.00.01	西暦 太陽	西暦 N.D. '201-0-001' 株式会社
----	------------	-------	--------------------------

All Rights Reserved, Copyright © 株式会社



種	登録年月	登録名	内 容 要 約
01	1991.03.20	登録 商 標	パーソナルソフトの商標登録。
02	1991.01.23	登録 商 標	一筆流しソフトの商標。
10	1991.09.01	特許 出願	特許 NO.「201-8-003」の発明を刊行。

All Rights Reserved, Copyright (C) 第七電機株式会社





EXSPECは以下の方法で起動できます。

- ・ [ スタート ] メニューからの起動

[ スタート ] メニューの [ プログラム ] に登録されている [ SIMPLIA シリーズ ] から『SIMPLIA PF-EXSPEC』を選択することで起動されます。

- ・ YPSWorkBenchからの起動

YPSバーの「SIMPLIA」メニューから「モジュール設計書生成」を選択することにより起動されます。

- ・ コマンドラインからの起動

チーム開発マネージャの環境設定で、コマンドライン用 ( P F E X S C M D . E X E ) の呼出し形式を指定することにより、チーム開発マネージャより起動されます。チーム開発マネージャの環境設定方法については、チーム開発マネージャのオンラインヘルプを参照してください。

以下に、コマンドライン用の呼出し形式を示します。

[ 呼出し形式 ]

P F E X S C M D   Y P S 仕様書ファイル名

      : 空白を示します。また、Y P S 仕様書ファイル名はフルパスで指定する必要があります。

EXSPECを終了するときは、以下の手順で終了させることができます。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「[ファイル\(F\)](#)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「SIMPLIA/PF-EXSPECの終了(X)」を選択します。

終了確認のための「終了」ダイアログボックスがオープンされます。



「変更を保管する」のチェックボックスでチェックマークを選択にすると、終了時に次の情報が保管されます

#### ドキュメント情報

・ドキュメント管理識別、キーワード（システム名、サブシステム名、ジョブ名、プログラム名）、著作権表示

#### 開発環境情報

・YPS開発資産の格納場所

・動作設定

「OK」ボタンを選択すると終了します

「キャンセル」ボタンを選択すると終了せずに「メインウインドウ」に戻ります。

## 環境ファイルの設定方法

EXSPECは、YPS開発資源から情報を抽出し、ドキュメントを作成するための環境をあらかじめ登録しておかなければなりません。この登録内容は、環境ファイル(拡張子が「DCE」)として指定されたフォルダに作成されます。環境ファイルには、以下の内容を登録します。

### 資産の格納場所

YPS仕様書フォルダ	YPS仕様書が格納されているフォルダ
インクルード仕様書フォルダ	YPSインクルード句が格納されているフォルダ
コピー句フォルダ	COBOL コピー句が格納されているフォルダ
ドキュメント保管フォルダ	作成したドキュメントを保管するファイルの格納フォルダ
エラーファイル出力フォルダ	エラーファイルが出力されるフォルダ

### 資産の拡張子

YPS仕様書及びインクルード仕様書の拡張子	YPS仕様書及びYPSインクルード仕様書の拡張子
コピー句の拡張子	COBOLコピー句の拡張子

### Y P S 図記号の表示モード

日本語	Y P S 仕様書を日本語図記号で表示
英語	Y P S 仕様書を英語図記号で表示

これらの設定手順を以下に示します。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「[環境\(K\)](#)」を選択します。

「環境設定」ダイアログボックスがオープンされます。

「資産環境」プロパティシートの入力を行います。



YPSインクルード仕様書フォルダ、コピー句フォルダについては、複数指定が可能なので、複数指定を行う場合は、「参照」ダイアログボックスで「追加」ボタンを押下してください。

複数指定を行った場合、新規作成ダイアログには、入力エリアの先頭に指定したフォルダのみ表示されます。ただし、フォルダの末尾に、複数指定が行われていることを意味する「+」が付加されます。



また、複数指定したフォルダに対して、あるフォルダのみを変更したい場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「資産環境」プロパティシートのYPSインクルード仕様書フォルダまたはコピー句フォルダの変更したいフォルダを選択します。
2. 「参照」ボタンを押下してください。
3. 「参照」ダイアログボックスがオープンされます。
4. 変更したい目的のフォルダを選択します。
5. 「更新」ボタンを押下してください。

「動作環境」プロパティシートの入力を行います。



「ドキュメント情報」プロパティシートの設定は、[ドキュメント情報の設定方法](#)を参照してください。

「OK」ボタンを押下し、設定した内容を環境ファイルに登録します。設定した内容を環境ファイルに反映したくない場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。

環境ファイルは、EXSPEC起動時に自動的に読み込まれます。[ファイル]メニューの「開く」から、「ドキュメント環境ファイル」を選択することで、現在使用している環境ファイルの格納先が確認できます。

## ドキュメントの表示方法

ドキュメントの表示手順を以下に示します。

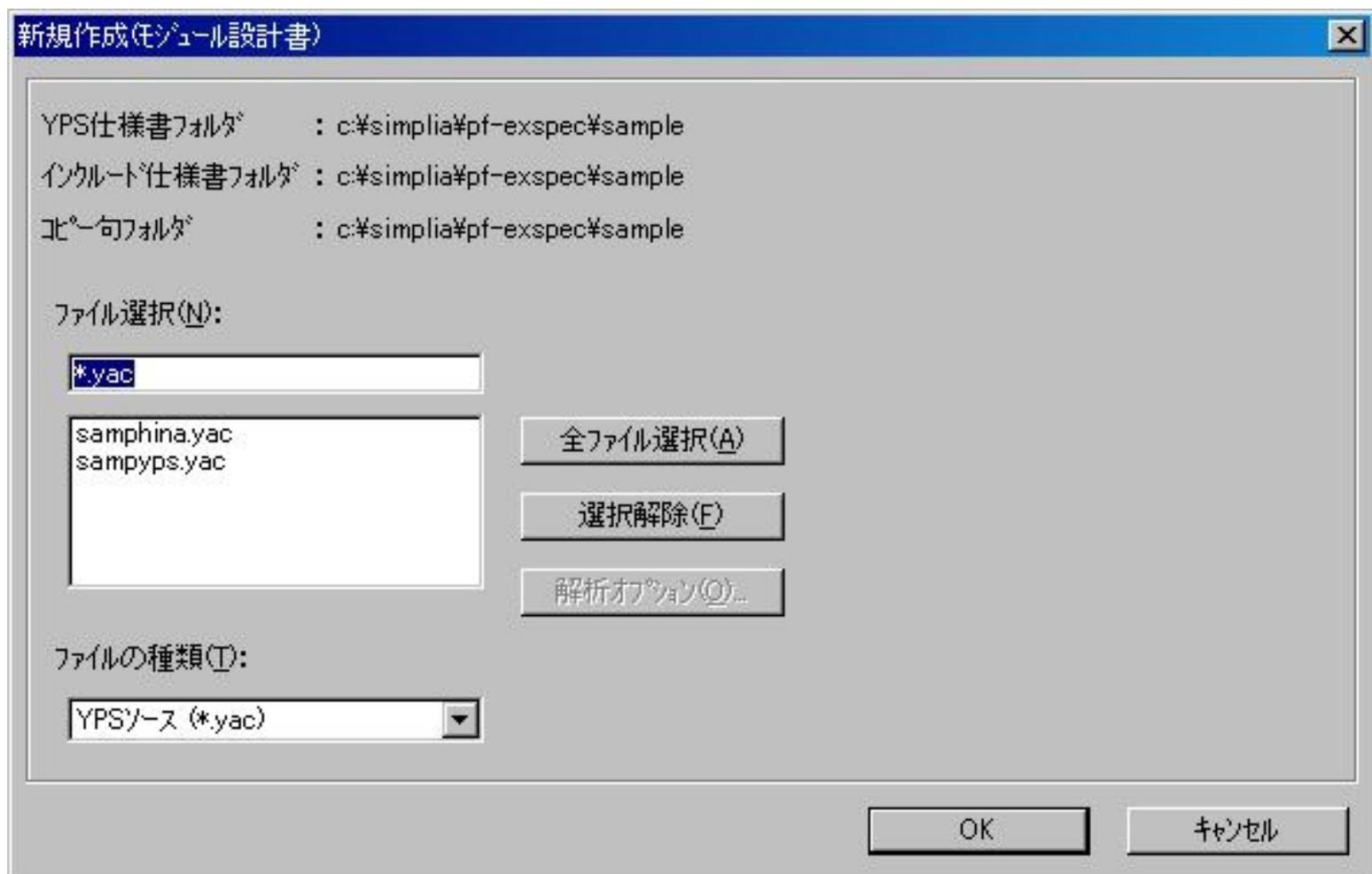
「メインウィンドウ」のメニューバーから、「[ファイル\(F\)](#)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「新規作成.(N)」を選択します。「新規作成」の選択には、以下の2つのメニュー項目があるので処理したい方を選択します。

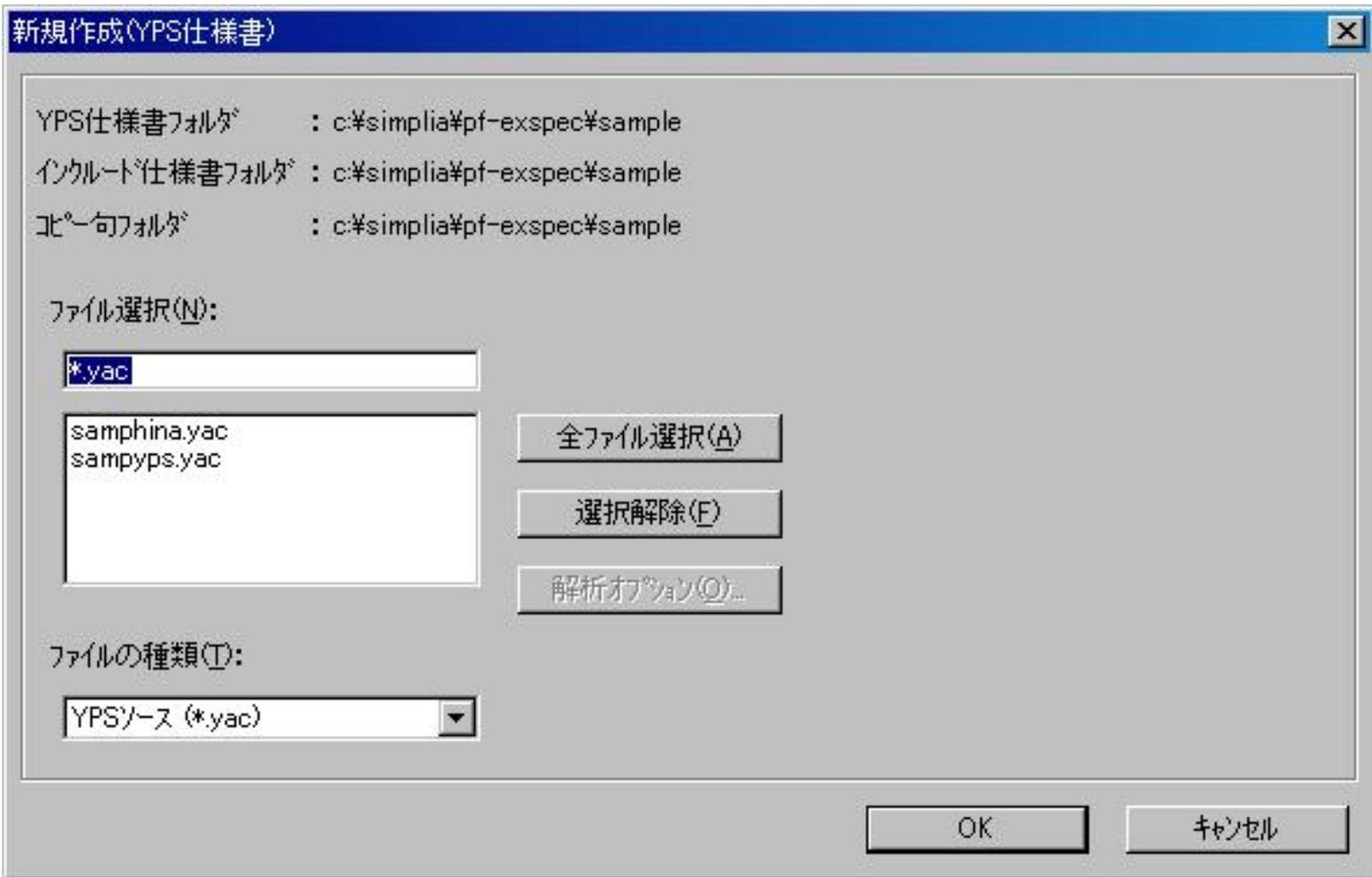
- モジュール設計書
- YPS仕様書

「新規作成」ダイアログボックスがオープンされます。

以下に「新規作成(モジュール設計書)」ダイアログボックスを示します。



以下に「新規作成(YPS仕様書)」ダイアログボックスを示します。

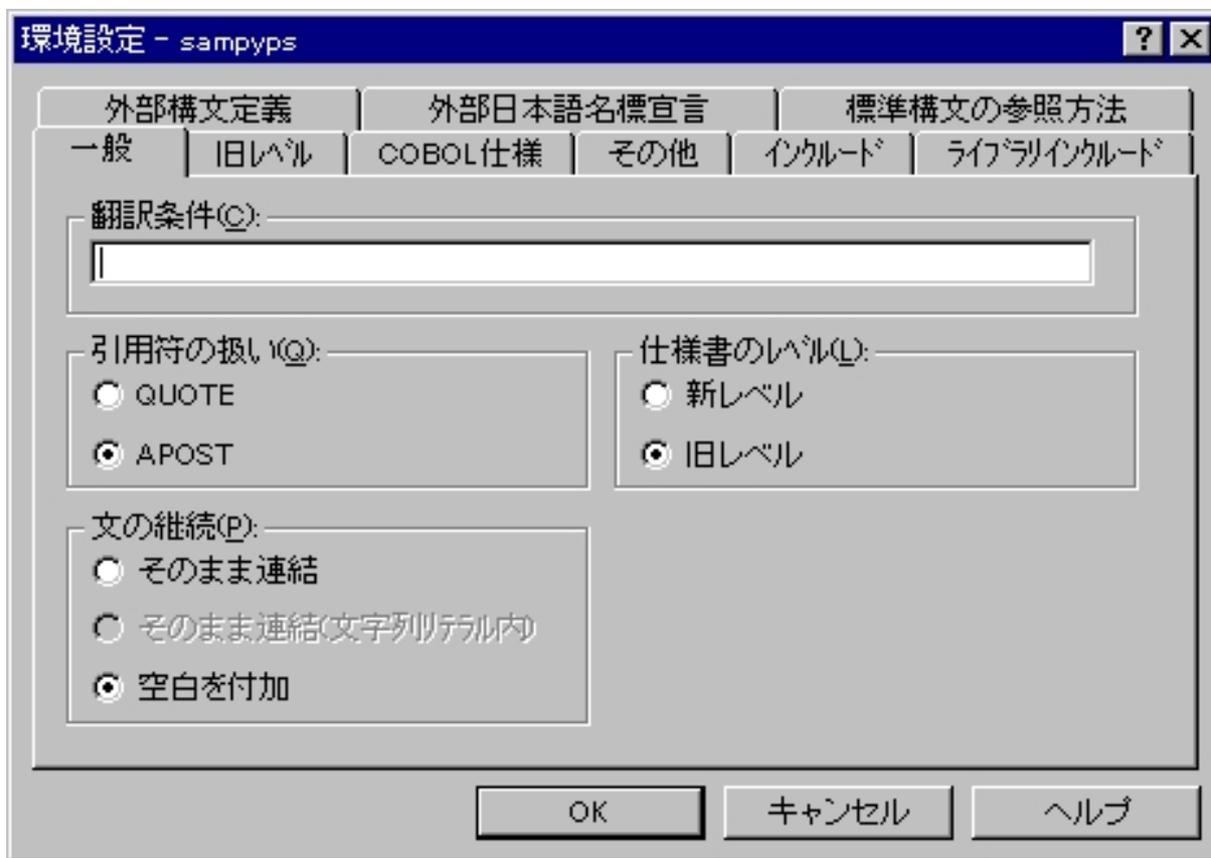


Y P S 仕様書フォルダから、ドキュメントを作成したいYPS開発資源を選択します。

モジュール設計書出力の場合のみ、YPS開発資源を選択すると「解析オプション」ボタンが選択可能になります。ただし、複数のYPS開発資源を選択した場合、「解析オプション」ボタンは選択不可能になります。

#### 注意事項

解析オプションとは、セクション構造図を出力する場合にのみ必要な機能です。セクション構造図を出力するにはYPS翻訳が行われますが、その際に必要な翻訳オプションファイルを生成する機能です。YPS翻訳が正常に行うことができる環境が事前に整っていれば、解析オプションを選択する必要はありません。以下に「解析オプション」ダイアログボックスを示します。



「ドキュメント出力」ダイアログボックスがオープンされます。

以下に「ドキュメント出力(モジュール設計書)」ダイアログボックスを示します。



以下に「ドキュメント出力(YPS仕様書)」ダイアログボックスを示します。



表示したいドキュメントに対するチェックボックスを選択します。

指定が完了した後、「画面表示」ボタンを押下します。指定した内容を取り消したい場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。

解析が始まると同時に「処理中」ダイアログボックスが表示されます。解析を途中で中断したい場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。



選択したYPS開発資源全てに対しての解析が終了すると、「メインウィンドウ」にドキュメントが表示されます。表示開始時点のドキュメントの大きさは「標準」です。ドキュメントの大きさを変更する場合は、メニューバーの「表示(V)」を選択し、変更したい大きさのメニュー項目を選択します。大きさとしては以下のものがあります。

- ・拡大 : 標準の2倍の大きさ
- ・標準 : 初期表示の大きさ
- ・レイアウト : 標準の1/4 大きさ

ページが複数ページある場合は、見たいページを指定することができます。ページ指定の方法は、メニューバーの「表示(V)」を選択し、以下に示すページ指定方法に対応するメニュー項目を選択します。

- ・前ページ

現在表示している前のページを表示します。ショートカットキーは、「Shift」キー + 「PageUp」キーに対応します。

- ・次ページ

現在表示している次のページを表示します。ショートカットキーは、「Shift」キー + 「PageDown」キーに対応します。

- ・ページ指定

ページ指定を、「ページ指定」ダイアログボックスから行います。ショートカットキーは、「F4」キーに対応します。



#### ・先頭ページ

先頭のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー + 「HOME」キーに対応します。

#### ・最終ページ

最終のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー + 「END」キーに対応します。

## ドキュメントの印刷方法

ドキュメントの印刷方法には、[通常印刷](#)と[ドキュメント表示連携印刷](#)の2通りがあります。印刷指示が発生した場合に、以下に示す「印刷」ダイアログボックスがオープンされるので、印刷部数と印刷開始ページ及び印刷終了ページを指定します。

The screenshot shows a standard Windows-style dialog box titled '印刷' (Print). At the top left, it displays '全ページ: 2' (Total pages: 2). Below this is a section titled '印刷範囲の選択' (Select print range) containing two radio buttons: '全ページ(A)' (All pages) and 'ページ指定(P)' (Specify pages). The 'Specify pages' option is selected. To the right of these radio buttons are two input fields: 'ページ(F):' with the value '1' and the text 'から' (from), and 'ページ(T):' with the value '2' and the text 'まで' (to). At the bottom left, there is a label '部数(C):' (Number of copies) with an input field containing the value '1'. On the right side of the dialog, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'プリンタの設定(S)...' (Printer settings...).

## 作成ドキュメントの保管

作成されたドキュメントを保管する方法は、2通りあります。

- ・ [通常保管](#)
- ・ [ドキュメント表示連携保管](#)

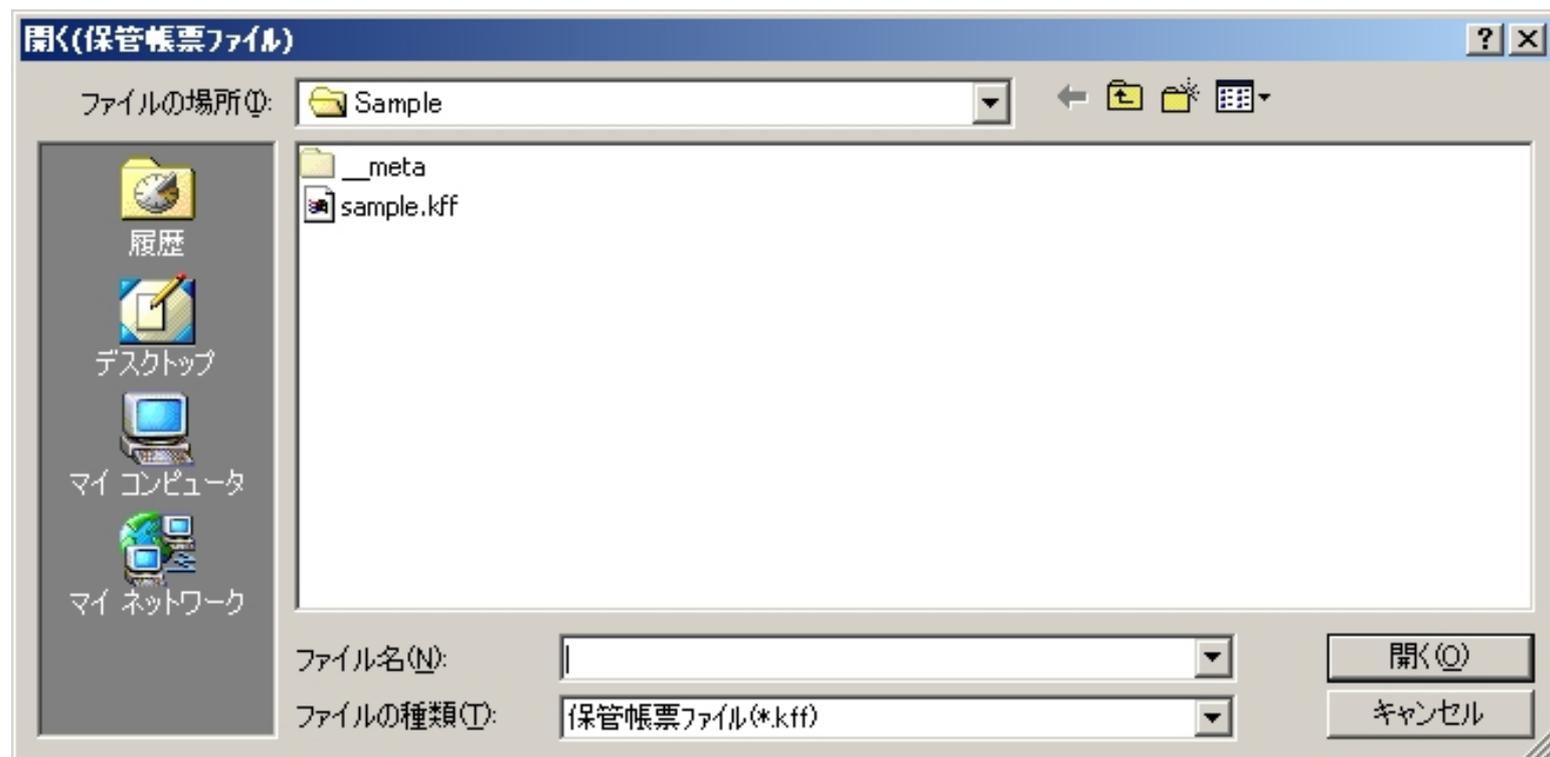
## 保管ドキュメントからの表示

保管された保管帳票ファイルからドキュメントを表示する手順を以下に示します。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「ファイル(F)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「開く(O)」を選択し、ポップアップメニューから「保管帳票ファイル(H)...」を選択します。

「開く」ダイアログボックスがオープンされるので、格納先のフォルダと保管帳票ファイル名を指定し、「画面表示」ボタンを押下します。ドキュメントを表示しない場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。





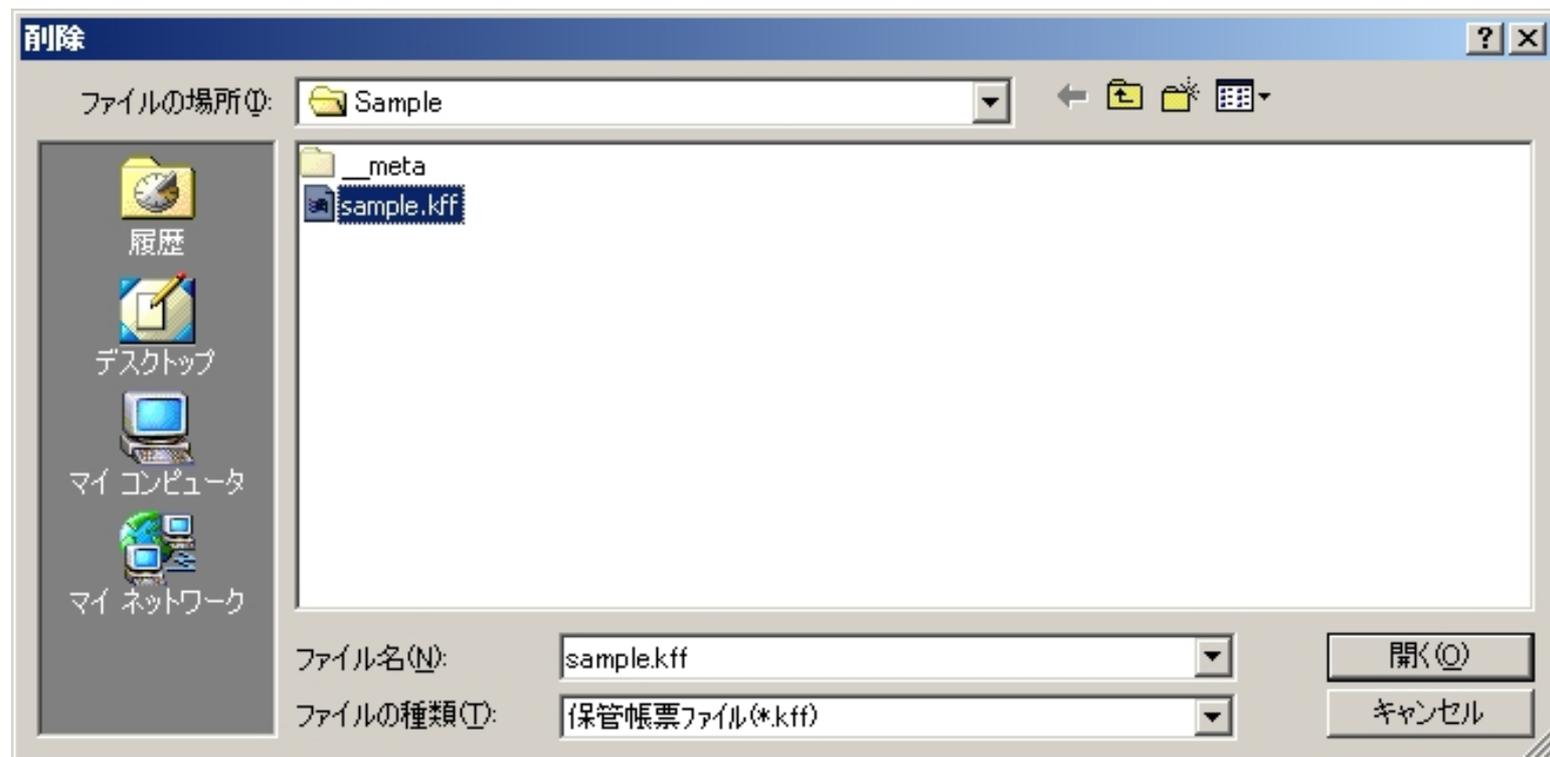
## 保管ドキュメントの削除

保管された保管帳票ファイルを削除する手順を以下に示します。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「ファイル(F)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「削除(D)...」を選択します。

「削除」ダイアログボックスがオープンされるので、該当のフォルダと保管帳票ファイル名を指定し、「削除」ボタンを押下します。削除をキャンセルしたい場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。



EXSPECの動作時に以下の環境の設定が可能です。

### ・コメントキーワードの設定

モジュール概要定義中の、以下のキーワードが変更可能です。

「システム名」、「システムID」の「システム」という文字列。

「サブシステム名」、「サブシステムID」の「サブシステム」という文字列。

「ジョブ名」、「ジョブID」の「ジョブ」という文字列。

「プログラム名」の「プログラム」という文字列。

たとえば、「システム」を「業務」に変更すると、以下のようにモジュール概要定義に記述することができます。

「システム名 : 入在庫管理」      「業務名 : 入在庫管理」

「システムID : STM 」      「業務ID : STM 」

### ・著作権表示の設定

YPS 仕様書中に著作権表示行が記述されていても、ここで設定された権利保有者名が有効となります。

これらの設定手順を以下に説明します。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「環境(K)」を選択します。

「環境設定」ダイアログボックスがオープンされます。

「ドキュメント情報」を選択します。

コメントキーワード、著作権の既定値は以下の通りです。

システム : “ システム ”  
サブシステム : “ サブシステム ”

ジョブ : “ ジョブ ”  
プログラム : “ プログラム ”  
著作権 : 既定値なし  
なお、各入力フィールドに何も記述されていない場合、既定値が採用されます。

各入力フィールドに利用者が設定する値を入力します。入力可能な文字数は以下の通りです。

システム : 日本語 10 文字  
サブシステム : 日本語 10 文字  
ジョブ : 日本語 10 文字  
プログラム : 日本語 10 文字  
著作権 : 日本語 32 文字/英数字 64 文字

「OK」ボタンを選択すると、設定が変更されます。

「キャンセル」ボタンを選択すると、設定は変更されません。

以下に「環境設定」ダイアログボックスの「ドキュメント情報」を示します。

# 環境設定



資産環境 | 動作環境 | **ドキュメント情報**

## コメントキーワードの設定

システム名(S) :

サブシステム名(B) :

ジョブ名(J) :

プログラム名(P) :

## 著作権表示の設定

著作権(C) :

OK

キャンセル

ヘルプ

## プリンタの設定方法

EXSPECを使用する場合、プリンタが次のように設定されている必要があります。

- ・既定値のプリンタが指定されており、そのプリンタが「活動中」になっていること。
- ・使用するプリンタにあった、正しい給紙方法を指定すること。
- ・出力したい用紙サイズ (A4) 指定すること。

上記の設定のうち、既定値のプリンタ設定以外は、EXSPECで以下の手順で設定することができます。

「メインウィンドウ」のメニューバーから、「ファイル(F)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「プリンタ設定(S)...」を選択します。

「プリンタ設定」ダイアログボックスがオープンされます。

登録されているプリンタの一覧から、目的のプリンタを選択します。

「プロパティ(P)...」ボタンを選択すると、プリンタの各種設定ができます。

「OK」ボタンを選択すると、プリンタが選択されます。

「キャンセル」ボタンを選択すると、設定は変更されません。

「プリンタ設定」ダイアログボックスを示します。

# プリンタの設定



## プリンタ

名前(N): FUJITSU XL-5100(qk32)

プロパティ(P)...

状態: 通常使うプリンタ: オンライン

種類: FUJITSU XL-5100

場所: ¥¥Faecoal¥q32

コメント:

## 用紙

サイズ(Z): A4 (210 × 297 mm)

給紙方法(S): 自動用紙送り

## 印刷の向き



縦(O)

横(A)

OK

キャンセル

## サンプルでの動作確認方法(通常使用)

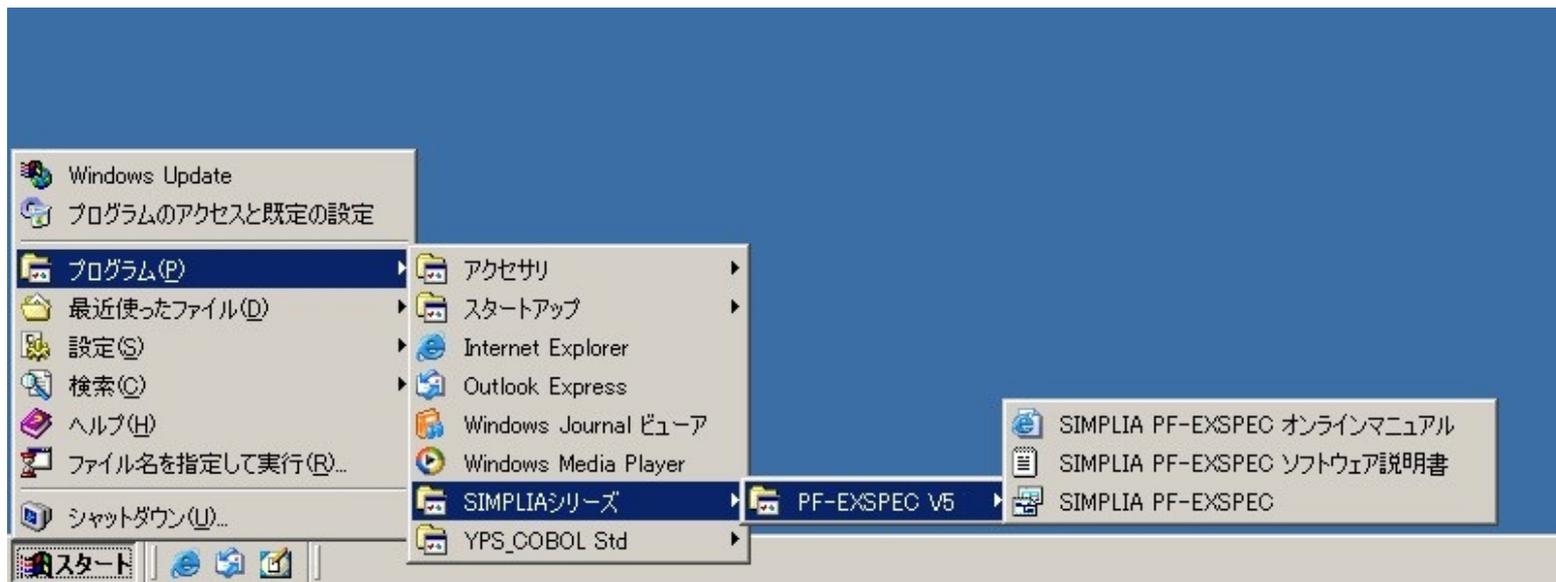
製品に付随するサンプルは、インストール後の動作確認用に使用してください。

以下に、サンプルで動作確認を行う場合の手順を示します。

「SIMPLIA PF-EXSPEC V5」配下の「SIMPLIA PF-EXSPEC」を選択し、実行してください。

環境設定ダイアログボックスが表示されますので、以降の作業を行ってください。環境設定ダイアログボックスが表示されない場合は、メニューの「環境」から環境設定を選択してください。

導入後、初めての起動やドキュメント環境ファイルを保存したことが無い場合は、EXSPEC起動時に、環境設定ダイアログボックスが表示されますので、メニューからの操作は必要ありません。

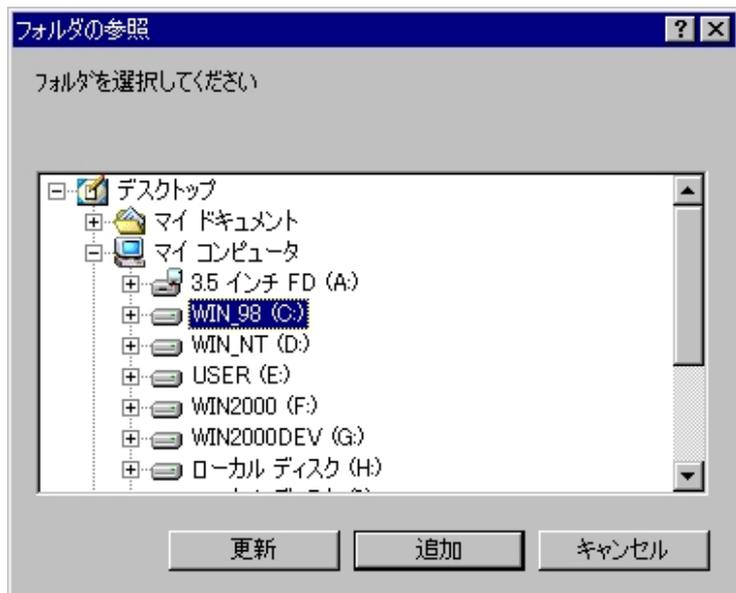


環境設定ダイアログボックス（資産環境）が表示されます。



YPS仕様書フォルダ、インクルード仕様書フォルダ、コピー句フォルダを指定するために「参照」ボタンを押下し、「フォ

ルダの参照」ダイアログボックスを表示してください。



EXSPECのサンプルがインストールされているフォルダを選択し、「更新」ボタンを押下してください。それぞれのフォルダを設定した後に、資産環境画面のY P S仕様書の拡張子には「yac」、インクルード仕様書には「ycb」、北へ句には「cbl」をそれぞれ指定してください。

次に動作環境の設定を行います。

環境設定ダイアログボックスのタブにより、動作環境を選択してください。

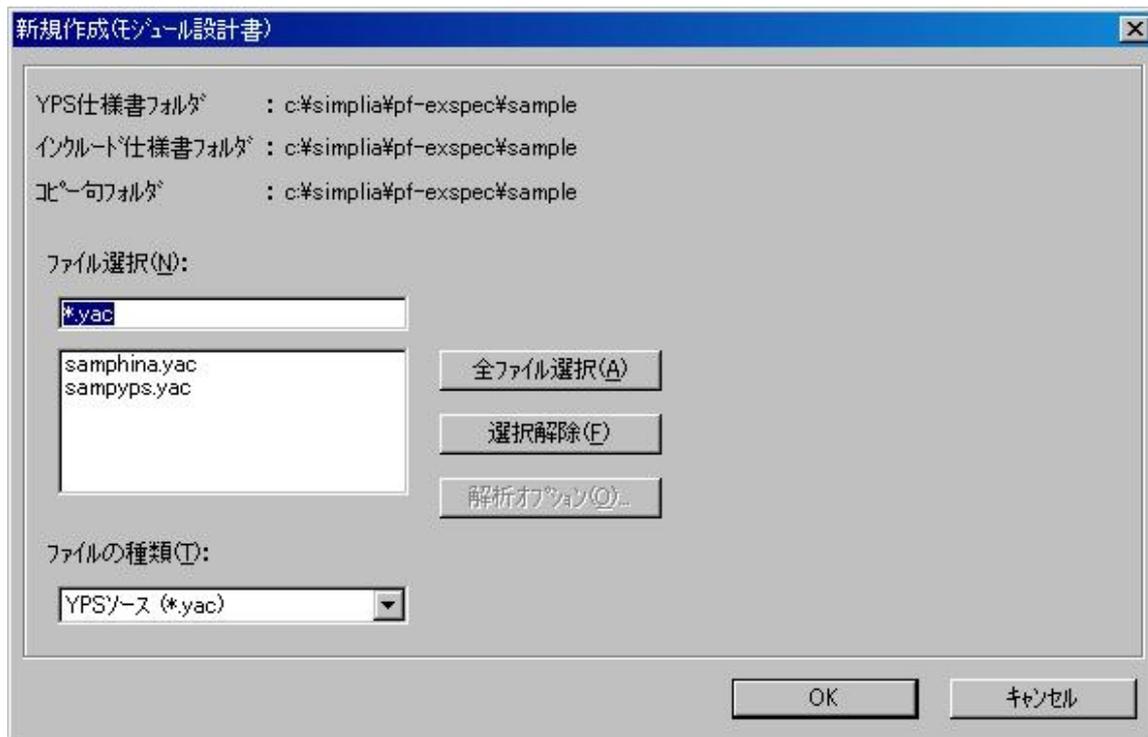
「参照」ボタンを押下し、「フォルダの参照」ダイアログボックスよりドキュメント保管フォルダ、エラーファイル出力フォルダを設定してください。その他、Y P S 図記号、及びドキュメント情報については、動作確認時は変更する必要はありません。



全てのフォルダの指定が完了したら、環境設定ダイアログボックスの「OK」ボタンを押下してください。

モジュール設計書を表示します。

「メインウインドウ」のメニューバーから「[ファイル\(F\)](#)」を選択し、プルダウンメニュー内の「新規作成 (N)」配下の「[モジュール設計書](#)」を選択することにより、「新規作成 (モジュール設計書)」ダイアログボックスが表示されます。



YPS仕様書フォルダからドキュメントを作成したいYPS開発資源を選択します。

モジュール設計書出力の場合のみ、YPS開発資源を選択すると「解析オプション」ボタンが選択可能になります。ただし、複数のYPS開発資源を選択した場合、「解析オプション」ボタンは選択不可能になります。

#### 注意事項

解析オプションとは、セクション構造図を出力する場合にのみ必要な機能です。セクション構造図を出力するにはYPS翻訳が行われますが、その際に必要な翻訳オプションファイルを生成する機能です。YPS翻訳が正常に行うことができる環境が事前に整っていれば、解析オプションを選択する必要はありません。ただし、サンプルを解析する場合は、以下の解析オプションを指定してください。

#### 一般

翻訳条件 : (未設定)  
引用符の扱い : APOST  
文の継続 : 空白を付加  
仕様書のレベル : 旧レベル

#### 旧レベル

環境部、データ部の並べ換え : する  
日本語名標の変換 : する  
目的言語記述内の行の扱い : 各行を一文  
旧レベルと新レベルの違いの表示 : しない  
概要部の記述がない詳細部の生成 : しない

#### COBOL仕様

語USINGの生成のみチェックする  
プレフィックス文字列 : JWV  
COBOL言語仕様 : COBOL85 または COBOL97  
レコード長 : 251

#### その他

翻訳方法 : 通常翻訳  
未参照情報のチェック : チェックしない

日本語名標の再定義チェック : しない  
インクルード仕様書の拡張子 : YCB  
デバック情報の採取 : チェック有無は任意

インクルード

確定フォルダ名 : サンプルがインストールされているフォルダを追加する

上記以外の項目については、設定及び変更は不要です。

以下に「解析オプション」ダイアログボックスを示します。



「新規作成 (モジュール設計書)」ダイアログボックスの「OK」ボタンを押下すると、「ドキュメント出力」ダイアログボックスが表示されます。

以下に「ドキュメント出力(モジュール設計書)」ダイアログボックスを示します。



表示したいドキュメントに対するチェックボックスを選択します。

指定が完了した後、「画面表示」ボタンを押下します。指定した内容を取り消したい場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。

解析が始まると同時に「処理中」ダイアログボックスが表示されます。解析を途中で中断したい場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。



選択したYPS開発資源全てに対しての解析が終了すると、「メインウィンドウ」にドキュメントが表示されます。表示開始時

点のドキュメントの大きさは「標準」です。ドキュメントの大きさを変更する場合は、メニューバーの「[表示\(V\)](#)」を選択し、変更したい大きさのメニュー項目を選択します。大きさとしては以下のものがあります。

- ・拡大 : 標準の2倍の大きさ
- ・標準 : 初期表示の大きさ
- ・レイアウト : 標準の1/4 大きさ

ページが複数ページある場合は、見たいページを指定することができます。ページ指定の方法は、メニューバーの「[表示\(V\)](#)」を選択し、以下に示すページ指定方法に対応するメニュー項目を選択します。

#### ・前ページ

現在表示している前のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー+「PageUp」キーに対応します。

#### ・次ページ

現在表示している次のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー+「PageDown」キーに対応します。

#### ・ページ指定

ページ指定を、「ページ指定」ダイアログボックスから行います。[ショートカットキー](#)は、「F4」キーに対応します。



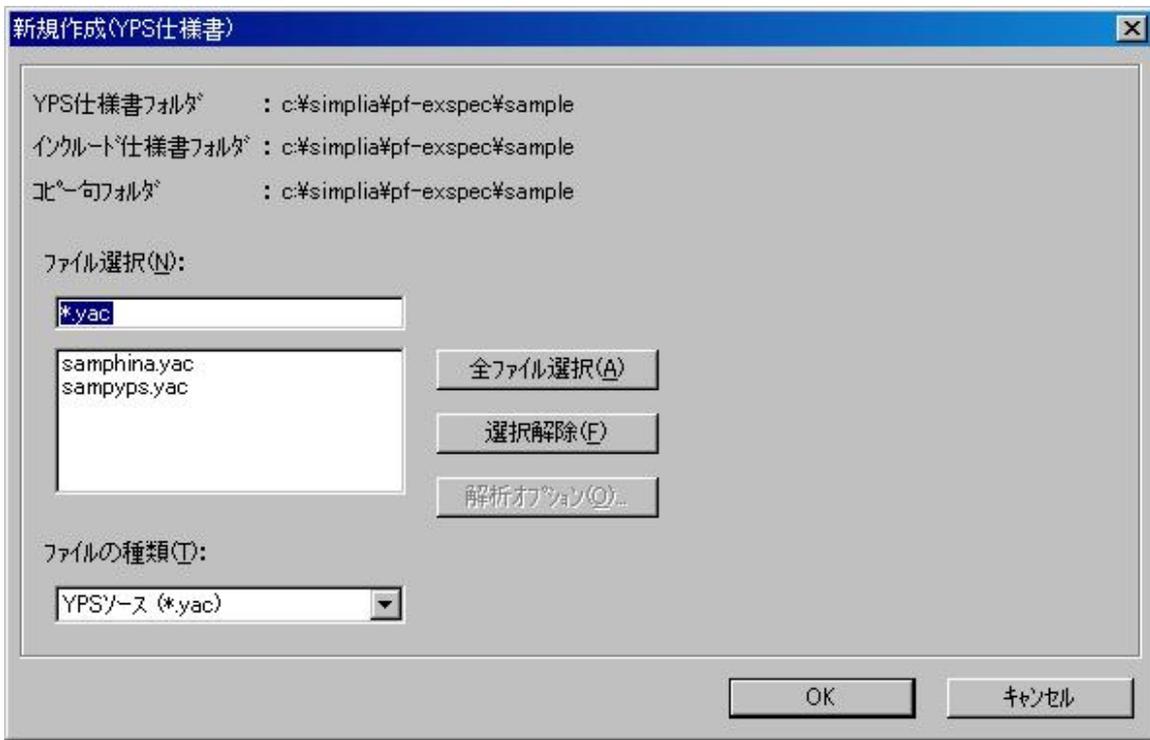
#### ・先頭ページ

先頭のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー+「HOME」キーに対応します。

#### ・最終ページ

最終のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー+「END」キーに対応します。

YPS仕様書を表示したい場合は、「メインウインドウ」のメニューバーから「[ファイル\(F\)](#)」を選択し、プルダウンメニュー内の「新規作成(N)」配下の「YPS仕様書」を選択することにより、「新規作成(YPS仕様書)」ダイアログボックスが表示されます。



以降の手順はモジュール設計書を表示する場合と同様ですので、 から の手順で行ってください。

以上で動作確認は終了です。

## サンプルでの動作確認方法(コマンドライン使用)

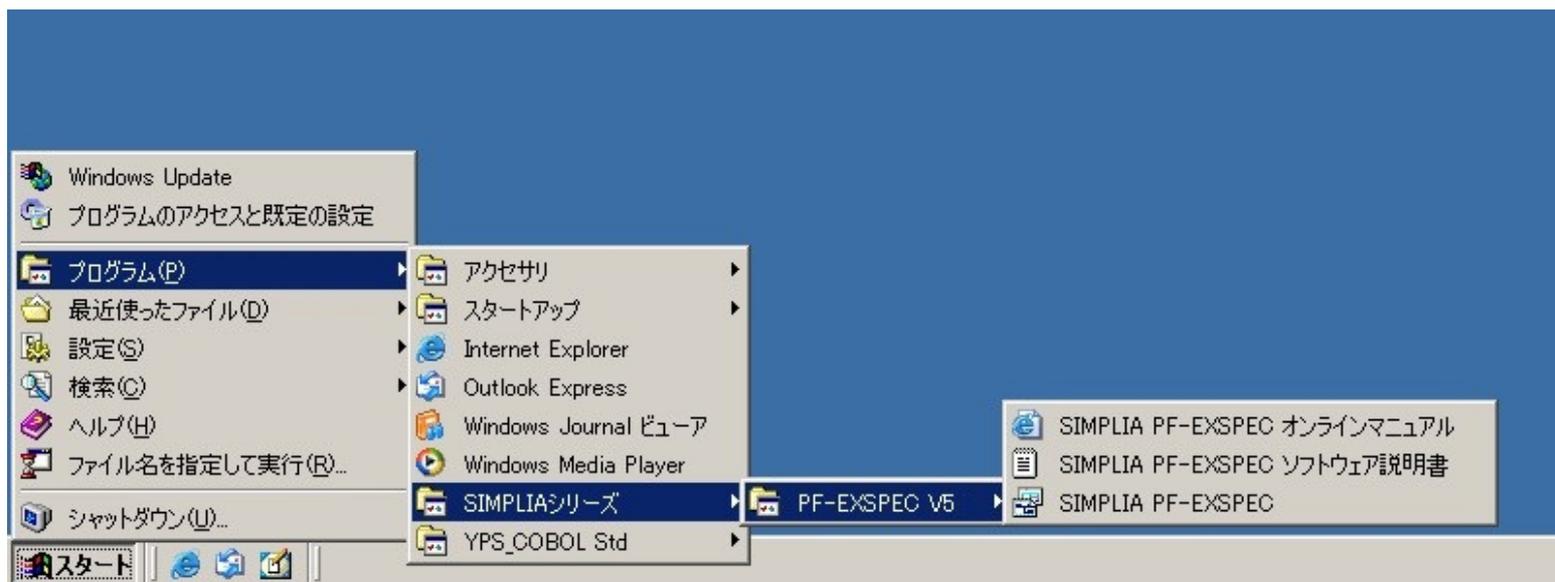
製品に付随するサンプルは、インストール後の動作確認用に使用してください。

以下に、サンプルで動作確認を行う場合の手順を示します。

「SIMPLIA PF-EXSPEC V5」配下の「SIMPLIA PF-EXSPEC」を選択し、実行してください。

環境設定ダイアログボックスが表示されますので、以降の作業を行ってください。環境設定ダイアログボックスが表示されない場合は、メニューの「環境」から環境設定を選択してください。

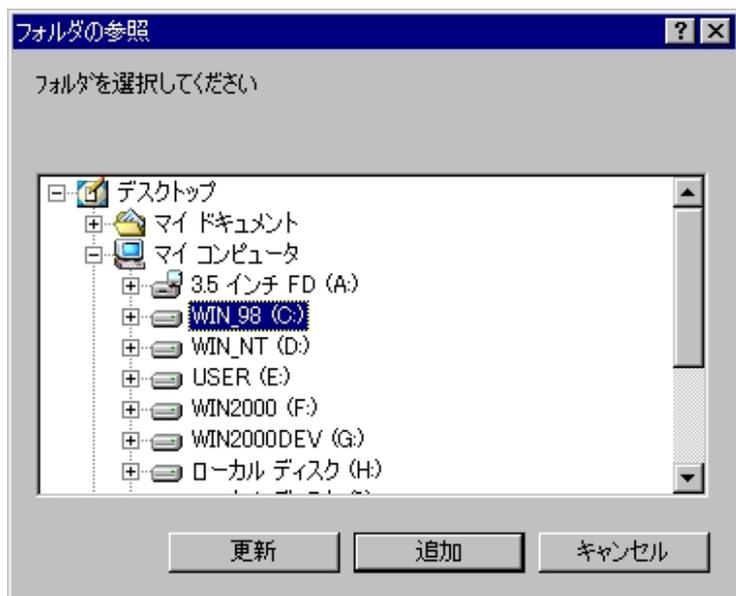
導入後、初めての起動やドキュメント環境ファイルを保存したことが無い場合は、EXSPEC起動時に、環境設定ダイアログボックスが表示されますので、メニューからの操作は必要ありません。また、コマンドラインで使用する場合は、EXSPEC本体を起動させ、あらかじめドキュメント環境ファイルを作成しておく必要があります。



環境設定ダイアログボックス（資産環境）が表示されます。



Y P S仕様書フォルダ、インクルード仕様書フォルダ、コピー句フォルダを指定するために「参照」ボタンを押下し、「フォルダの参照」ダイアログボックスを表示してください。



EXSPECのサンプルがインストールされているフォルダを選択し、「更新」ボタンを押下してください。それぞれのフォルダを設定した後に、資産環境画面のY P S仕様書の拡張子には「yac」、インクルード仕様書には「ycb」、北-句には「cbl」をそれぞれ指定してください。

次に動作環境の設定を行います。

環境設定ダイアログボックスのタブにより、動作環境を選択してください。

「参照」ボタンを押下し、「フォルダの参照」ダイアログボックスよりドキュメント保管フォルダ、エラーファイル出力フォルダを設定してください。その他、Y P S図記号、及びドキュメント情報については、動作確認時は変更する必要はありません。



全てのフォルダの指定が完了したら、環境設定ダイアログボックスの「OK」ボタンを押下してください。

ドキュメント環境ファイルの保存を行います。

「メインウインドウ」のメニューバーから「[ファイル\(F\)](#)」を選択し、プルダウンメニュー内の「名前を付けて保存(A)」配下の「ドキュメント環境ファイル」を選択することにより、「名前を付けて保存(ドキュメント環境ファイル)」ダイアログボックスが表示されます。



任意のファイル名を指定し、「保存」ボタンを押下してください。

「メインウインドウ」のメニューバーから「[ファイル\(F\)](#)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA/PF-EXSPECの終了(X)」を選択してください。

終了確認のための「終了」ダイアログボックスが表示されます。



#### 注意事項

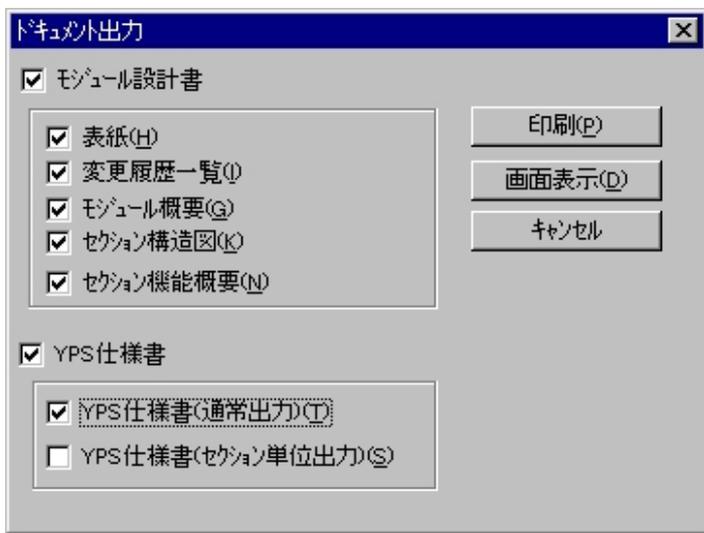
コマンドライン使用時は、「変更を保管する」チェックボックスをチェックして終了してください。チェックしない場合、コマンドラインで動作するための環境が整わないため、動作できません。

チーム開発マネージャの環境設定で、ツールの組み込み情報を設定してください。ツールの組み込み情報については、チーム開発マネージャのオンラインヘルプを参照してください。

#### 注意事項

コマンドラインの起動情報を設定する場合は、受渡しファイル名をフルパスで渡すように設定してください。

チーム開発マネージャよりY P S 開発資源を選択することにより、「ドキュメント出力」ダイアログボックス(コマンドライン用)が表示されます。



表示したいドキュメントに対するチェックボックスを選択します。

#### 注意事項

サンプルのセクション構造図を表示する場合は、YPS/COBOLの翻訳オプションにて、以下の翻訳オプションを指定しておく必要があります。翻訳オプションが間違っている場合、セクション構造図が表示されない場合があります。

#### 一般

翻訳条件 : (未設定)  
引用符の扱い : APOST  
文の継続 : 空白を付加  
仕様書のレベル : 旧レベル

#### 旧レベル

環境部、データ部の並べ換え : する  
日本語名標の変換 : する  
目的言語記述内の行の扱い : 各行を一文  
旧レベルと新レベルの違いの表示 : しない  
概要部の記述がない詳細部の生成 : しない

#### COBOL仕様

語USINGの生成のみチェックする  
プレフィックス文字列 : JWV  
COBOL言語仕様 : COBOL85 または COBOL97  
レコード長 : 251

#### その他

翻訳方法 : 通常翻訳  
未参照情報のチェック : チェックしない  
日本語名標の再定義チェック : しない  
インクルード仕様書の拡張子 : YCB  
デバック情報の採取 : チェック有無は任意

#### インクルード

確定フォルダ名 : サンプルがインストールされているフォルダを追加する

上記以外の項目については、設定及び変更は不要です。

指定が完了した後、「画面表示」ボタンを押下します。指定した内容を取り消したい場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。その場合、EXSPECは無条件に終了します。

解析が始まると同時に「処理中」ダイアログボックスが表示されます。解析を途中で中断したい場合は、「キャンセル」ボタ

ンを押下します。その場合、EXSPECは無条件に終了します。



選択したYPS開発資源全てに対しての解析が終了したら、「メインウインドウ」にドキュメントが表示されます。表示開始時点のドキュメントの大きさは「標準」です。ドキュメントの大きさを変更する場合は、メニューバーの「[表示\(V\)](#)」を選択し、変更したい大きさのメニュー項目を選択します。大きさとしては以下のものがあります。

- ・拡大 : 標準の2倍の大きさ
- ・標準 : 初期表示の大きさ
- ・レイアウト : 標準の1/4 大きさ

ページが複数ページある場合は、見たいページを指定することができます。ページ指定の方法は、メニューバーの「[表示\(V\)](#)」を選択し、以下に示すページ指定方法に対応するメニュー項目を選択します。

#### ・前ページ

現在表示している前のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー + 「PageUp」キーに対応します。

#### ・次ページ

現在表示している次のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー + 「PageDown」キーに対応します。

#### ・ページ指定

ページ指定を、「ページ指定」ダイアログボックスから行います。[ショートカットキー](#)は、「F4」キーに対応します。



#### ・先頭ページ

先頭のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー + 「HOME」キーに対応します。

## ・最終ページ

最終のページを表示します。[ショートカットキー](#)は、「Shift」キー+「END」キーに対応します。

以上で動作確認は終了です。

## [ファイル]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 環境(K) \u0322\u0322(H)

表示したいメニューを選択してください。

メニューコマンド	機能
新規作成	モジュール設計書または、Y P S仕様書を新たに作成します。
開く	保管帳票ファイルまたは、ドキュメント環境ファイルを開きます。
名前を付けて保存	現在、表示中の保管帳票ファイルまたは、ドキュメント環境ファイルを保管します。
削除	作成された保管帳票ファイルを削除します。
印刷	現在、表示中のドキュメントを印刷します。
プリンタの設定	印刷するためのプリンタを設定します。
SIMPLIA/PF-EXSPECの終了	EXSPECを終了します。

## [表示]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 環境(K) ヘルプ(H)

表示したいメニューを選択してください。

### メニューコマンド

### 機能

---

ツールバー	ツールバーを表示します。
ステータスバー	ステータスバーを表示します。
拡大	現在、表示中のドキュメントを拡大して表示します。
標準	現在、表示中のドキュメントを縮小して表示します。
レイアウト	ドキュメントをレイアウト表示します。
前ページ	現在、表示しているページの前ページを表示します。
次ページ	現在、表示しているページの次ページを表示します。
先頭ページ	現在、表示しているドキュメントの先頭ページを表示します。
最終ページ	現在、表示しているドキュメントの最終ページを表示します。
ページ指定ボックス	ページ指定用の画面を表示します。

## [環境]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 環境(K) ヘルプ(H)

表示したいメニューを選択してください。

メニューコマンド

機能

---

環境設定

「環境設定」ダイアログを表示します。

## [ヘルプ]メニュー

ファイル(F) 表示(V) 環境(K) ヘルプ(H)

表示したいメニューを選択してください。

メニューコマンド

機能

PF-EXSPEC ヘルプ  
バージョン情報

オンラインマニュアルを表示します。  
ツールのバージョン情報を表示します。

## ツールバー

### ツールバー

### 対応するメニューコマンド

---

	新規作成(モジュール設計書)
	新規作成(Y P S仕様書)
	開く(保管帳票ファイル)
	名前を付けて保存(保管帳票ファイル)
	削除
	印刷
	先頭ページ
	前ページ
	次ページ
	最終ページ
	ページ指定ボックス
	設定
	PF-EXSPEC ヘルプ

## ショートカットキー

キー操作                      対応するメニューコマンド

---

[Shift]+[PageUp]	前ページ
[Shift]+[PageDown]	次ページ
[Shift]+[Home]	先頭ページ
[Shift]+[Home Clr]	同上
[Shift]+[End]	最終ページ
[Shift]+[Hlp]	同上
[F1]	PF-EXSPEC ヘルプ
[F4]	ページ指定ボックス
[Cntl]+[P]	印刷

## メッセージの見方

各ドキュメントを出力する際に発生するメッセージについて説明します。通常メッセージは画面上にメッセージボックスとして出力されます。ただし、解析処理で発生したエラーについては環境設定プロパティシートのエラーファイル出力フォルダで指定したフォルダに ERIEXS.TXT というファイル名でエラーファイルが生成されます。

EXSPECの実行時に出力されるメッセージの説明をします。

### ・メッセージの説明形式

#### 日本語詳細メッセージ

[メッセージの意味]	出力されたメッセージの詳細を示します。
[利用者の処置]	利用者が行うべき対処方法を示します。
[メッセージ区分]	出力されたメッセージの区分を示します。

メッセージの区分には以下のものがあります。

- I：通知レベルのメッセージ。
- W：軽度レベルのメッセージ。
- E：中程度レベルのメッセージ。
- S：重度レベルのメッセージ。
- U：警告レベルのメッセージ。

## 診断メッセージ(通常使用)

インクルード仕様書のアクセス中に入出力エラーが発生しました。インクルード仕様書名 = \* \* \* \* \* \* \* \* \*

### [メッセージの意味]

インクルード仕様書の読み込みに失敗しました。\* \* \* \* \* \* \* \* \*はエラーが発生したインクルード仕様書名を示します。

### [利用者の処置]

ファイルが破壊されていないか、またはドライブに異常がないか調べてください。

### [メッセージ区分]

U

印刷部数の指定に誤りがあります。

### [メッセージの意味]

1以上の数字が入力されていません。

### [利用者の処置]

1以上の数字を入力してください。

### [メッセージ区分]

I

画面情報数が90を超えています。

### [メッセージの意味]

ファイル情報定義及び外部画面情報定義で指定した画面情報の定義が90を超えています。

### [利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

### [メッセージ区分]

W

コピー句のアクセス中に入出力エラーが発生しました。コピー句名 = \* \* \* \* \* \* \* \* \*

### [メッセージの意味]

コピー句の読み込みに失敗しました。\* \* \* \* \* \* \* \* \*はエラーが発生したコピー句名を示します。

### [利用者の処置]

ファイルが破壊されていないか、またはドライブに異常がないか調べてください。

### [メッセージ区分]

## U

再帰呼出しのセクション、または内部プログラムが存在します。

[メッセージの意味]

YPS仕様書に再帰呼出しとなるセクション、または内部プログラムが存在します。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

サブシステム代替語は全角文字で指定してください。

[メッセージの意味]

「ドキュメント情報設定」ダイアログで指定したサブシステム名の代替語に半角文字が含まれています。半角文字は指定できません。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」をクリックし、全角文字で指定してください。

[メッセージ区分]

I

システム代替語は全角文字で指定してください。

[メッセージの意味]

「ドキュメント情報設定」ダイアログで指定したシステム名の代替語に半角文字が含まれています。半角文字は指定できません。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」をクリックし、全角文字で指定してください。

[メッセージ区分]

I

指定された環境ファイルは存在しません。環境ファイルの設定を行いますか？

[メッセージの意味]

指定された環境ファイルが存在しません。

[利用者の処置]

環境ファイルの設定を行う場合は「OK」をクリックし、しない場合は「キャンセル」をクリックしてください。

[メッセージ区分]

I

指定されたファイルの拡張子が誤りです。

[メッセージの意味]

選択されたファイルの拡張子が誤っています。保管帳票ファイルの場合は、「K F F」、環境ファイルの場合は「D C E」を指定します。

[利用者の処置]

保管帳票ファイル名を間違えている場合は、保管帳票ファイルを選択しなおしてください。

[メッセージ区分]

I

指定されたファイルは現在開設中です。

[メッセージの意味]

現在開設中のファイルのため、オープンできません。

[利用者の処置]

保管帳票ファイル名を間違えている場合は、保管帳票ファイルを選択しなおしてください。

[メッセージ区分]

I

指定されたファイルは現在開設中です。削除してもよろしいですか。

[メッセージの意味]

現在開設中のファイルのため、削除できません。開設中のファイルを無効にして削除しますか？

[利用者の処置]

開設中の保管帳票ファイルを削除したい場合は、「OK」をクリックし、削除しない場合は「キャンセル」をクリックしてください。

[メッセージ区分]

I

指定されたファイルはフォルダ中に存在しません。

[メッセージの意味]

選択されたファイルはフォルダ中に存在しません。

[利用者の処置]

ファイル名を再入力します。ファイル名が正しい場合は、フォルダを設定しなおしてください。

[メッセージ区分]

I

指定されたフォルダにコピー句が存在しません。コピー句名 = \* \* \* \* \* \* \* \*

[メッセージの意味]

YPS仕様書上で指定されているコピー句が、指定されたコピー句のフォルダに存在しません。\* \* \* \* \* \* \* \*は存在しないコピー句名を示します。

[利用者の処置]

コピー句のフォルダを正しく指定してください。

[メッセージ区分]

W

指定されたフォルダにインクルード仕様書が存在しません。インクルード仕様書名 = \* \* \* \* \* \* \* \*

[メッセージの意味]

YPS仕様書上で指定されているYPSインクルード仕様書が、指定されたYPSインクルード仕様書のフォルダに存在しません。\* \* \* \* \* \* \* \*は存在しないYPSインクルード仕様書名を示します。

[利用者の処置]

YPSインクルード仕様書のフォルダを正しく指定してください。

[メッセージ区分]

W

ジョブ代替語は全角文字で指定してください。

[メッセージの意味]

「ドキュメント情報設定」ダイアログで指定したジョブ名の代替語に半角文字が含まれています。半角文字は指定できません。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」をクリックし、全角文字で指定してください。

[メッセージ区分]

I

セクションまたは内部プログラムの定義のみ存在し、呼出が存在しません。SEC = \*\*  
\*\*\*\*\*

[メッセージの意味]

YPS仕様書に定義のみ存在し呼出がないセクション、または内部プログラムが存在します。\*\*\*\*\*はセクション名または内部プログラム名を示します。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

セクション機能概要リストにおいて出力すべき情報がありません。

[メッセージの意味]

YPS仕様書にセクション機能概要リストについてのコメントが記述されていません。

[利用者の処置]

YPS仕様書上のモジュール機能概要コメントを正しく記述し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

セクションまたは内部プログラムの呼出のみ存在し、詳細定義部が存在しません。SEC = \*\*  
\*\*\*\*\*

[メッセージの意味]

YPS仕様書に呼出のみ存在し詳細定義部がないセクション、または内部プログラムが存在します。\*\*\*\*\*はセクション名または内部プログラム名を示します。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

選択された保管帳票ファイルはEXSPEC以外のものです。

[メッセージの意味]

選択された保管帳票ファイルはEXSPEC以外のものなので処理できません。

[利用者の処置]

EXSPECの保管帳票ファイルを選択してください。

[メッセージ区分]

I

ソースに記述してあるコピー句及びインクルード仕様書の合計が99を超えています。

[メッセージの意味]

YPS仕様書上に記述してあるコピー句及び取込みが99を超えています。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

帳票情報数が90を超えています。

[メッセージの意味]

ファイル情報定義で指定した画面情報の定義が90を超えています。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

ディスクの容量が足りません。

[メッセージの意味]

ディスクの容量が足りません。

[利用者の処置]

不要ファイルを削除してください。

[メッセージ区分]

U

ドキュメント保管フォルダが指定されていません。ドキュメント保管フォルダの指定を行いますか？

[メッセージの意味]

ドキュメント保管フォルダが指定されていません。

[利用者の処置]

「OK」をクリックして「環境設定」ダイアログを表示するか、「キャンセル」をクリックしてそのまま続行してください。



**プリンタ情報の取得に失敗しました。**

## [メッセージの意味]

プリンタの設定が正常にされていません。

## [利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」をクリックし、プリンタの設定を確認してください。

## [メッセージ区分]

I

**プログラム代替語は全角文字で指定してください。**

## [メッセージの意味]

「ドキュメント情報設定」ダイアログで指定したプログラム名の代替語に半角文字が含まれています。半角文字は指定できません。

## [利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」をクリックし、全角文字で指定してください。

## [メッセージ区分]

I

**保管帳票ファイルのオープンに失敗しました。**

## [メッセージの意味]

保管帳票ファイルのオープンに失敗しました。

## [利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして、処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

## [メッセージ区分]

U

**保管帳票ファイルの書き込みに失敗しました。**

## [メッセージの意味]

保管帳票ファイルの書き込みに失敗しました。

## [利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして、処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

## [メッセージ区分]

U

保管帳票ファイルのクローズに失敗しました。

[メッセージの意味]

保管帳票ファイルのクローズに失敗しました。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして、処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

保管帳票ファイルの読み込みに失敗しました。

[メッセージの意味]

保管帳票ファイルの読み込みに失敗しました。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして、処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

翻訳エラーがあるため、セクション構造図が出力されません。

[メッセージの意味]

YPS翻訳で重度のエラー（Sレベル以上）が発生するため、セクション構造図が出力できません。

[利用者の処置]

YPS仕様書の重度のエラーを取り除き再度実行するか、または正しい翻訳オプションを指定してください。

[メッセージ区分]

E

ページ指定に誤りがあります。

[メッセージの意味]

・1から最大ページの範囲の数字が入力されていません。

・縦と横のページの入力が範囲内ではありません。

・開始ページが終了ページより大きい。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして、処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

I

変更履歴数が99を超えています。

[メッセージの意味]

履歴情報定義の変更履歴の定義が99を超えています。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

メモリが足りません。

[メッセージの意味]

メモリが足りません。

[利用者の処置]

メモリを増やすか、または他のウィンドウを閉じて再度実行してください。

[メッセージ区分]

U

モジュール概要リストにおいてサブルーチン数が99を超えています。

[メッセージの意味]

モジュール概要リストにおいて出力すべきサブルーチンの数が99を超えています。

[利用者の処置]

YPS仕様書を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

モジュール属性記述行が正しく記述されていません。

[メッセージの意味]

モジュール属性記述行が正しく記述されていないため解析処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

YPS仕様書上のモジュール属性記述行を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

履歴情報定義の変更（修正）履歴と変更（修正）内容が対になっていません。

[メッセージの意味]

履歴情報定義の変更（修正）履歴と変更（修正）内容が対になっていないため解析でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

YPS仕様書上の履歴情報定義を修正し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

W

256バイトを超えるため入力できません。

[メッセージの意味]

コピー句フォルダ<sup>6</sup>または、画面・帳票定義体のフォルダで追加項目が入力制限を超えました。

[利用者の処置]

使用しないフォルダを削除してください。

[メッセージ区分]

I

YPS仕様書のアクセス中に入出力エラーが発生しました。

[メッセージの意味]

YPS仕様書ファイルの読み込みに失敗しました。

[利用者の処置]

ファイルが破壊されていないか、またはドライブに異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

EXSPECは既に起動されています。

[メッセージの意味]

PF-EXSPEC を複数起動することはできません。

[利用者の処置]

特になし。

[メッセージ区分]

U

YPS/COBOLが正しくインストールされていません。

[メッセージの意味]

YPS/COBOL 正常にインストールされていません。以下の場合に発生する可能性があります。

- ・「解析オプション」でYPS翻訳オプションの設定を行う場合。
- ・セクション構造図を出力しようとした場合。

[利用者の処置]

YPS/COBOL 正常にインストールされているかを確認してください。

[メッセージ区分]

U

\*\*\*\*\*を削除します。

[メッセージの意味]

保管帳票削除で選択した保管帳票ファイルを削除しますか？

[利用者の処置]

削除して良ければ「OK」をクリックし、削除しない場合は「キャンセル」をクリックしてください。

[メッセージ区分]

I

\*\*\*\*\*このファイルは既に存在します。上書きしますか？

[メッセージの意味]

選択されたファイルは既にディスク上に存在するので、そのファイルに対して上書きしますか？

[利用者の処置]

上書きしたい場合は、「OK」をクリックし、上書きしない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

[メッセージ区分]

U

\*\*\*\*\*のオープンに失敗しました。

[メッセージの意味]

\*\*\*\*\*のオープンに失敗しました。\*\*\*\*\*は失敗したファイル名を示します。

[ 利用者の処置 ]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[ メッセージ区分 ]

U

\*\*\*\*\*の読み込みに失敗しました。

[ メッセージの意味 ]

\*\*\*\*\*の読み込みに失敗しました。\*\*\*\*\*は失敗したファイル名を示します。

[ 利用者の処置 ]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[ メッセージ区分 ]

U

制御線レベルが取得できませんでした。

[ メッセージの意味 ]

YPS仕様書を出力中に、制御線レベルの取得ができませんでした。

[ 利用者の処置 ]

YPS仕様書の内容が正しいかどうかを、YPSエディタなどで確認してください。

[ メッセージ区分 ]

S

YPS仕様書を出力する環境が整っていません。

[ メッセージの意味 ]

YPS仕様書を出力する環境が整っていません。

[ 利用者の処置 ]

EXSPECをインストールしたフォルダにDLLなどの必要なファイルが格納されていることを確認してください。

[ メッセージ区分 ]

U

YPS仕様書を出力中、何らかのエラーが発生しました。

[ メッセージの意味 ]

YPS仕様書を出力中に原因不明のエラーが発生しました。

[ 利用者の処置 ]

富士通の技術員（ S E ）に連絡してください。

[ メッセージ区分 ]

U

指定されたファイルはYPS仕様書ではありません。

[ メッセージの意味 ]

対象資産の選択で指定したファイルの中身がYPS仕様書ではありません。

[ 利用者の処置 ]

指定したファイルの中身がYPS仕様書かどうか確認し、正しいファイルを指定してください。

[ メッセージ区分 ]

S

\*\*\*\*\*で入出力エラーが発生しました。

[ メッセージの意味 ]

保管帳票ファイルの削除で、何らかのエラーが発生しました。\*\*\*\*\*はファイル名またはフォルダ名を示します。

[ 利用者の処置 ]

ドキュメント保管帳票フォルダ内に作成される隠しフォルダ（\_META）及びその中の隠しファイルが破壊または削除された可能性があります。その可能性がなければ、富士通の技術員（ S E ）に連絡してください。

[ メッセージ区分 ]

U

印刷中に障害が発生しました。

[ メッセージの意味 ]

印刷中のEXSPEC内部で障害が発生しました。

[ 利用者の処置 ]

EXSPECの障害と考えられるため、富士通の技術員（ S E ）に連絡してください。

[ メッセージ区分 ]

U

出力すべき情報が一件もありませんでした。

[ メッセージの意味 ]

解析で軽度または中程度のエラーが検出されたにもかかわらず出力処理を続行しようとしたが、出力すべき情報が何もありませんでした。

[ 利用者の処置 ]

エラーメッセージの詳細が出力されたファイルを参照し、エラーがあっても出力したい場合は「はい」を、中止したい場合は「いいえ」をクリックしてください。

[ メッセージ区分 ]

|

解析で軽度のエラーを検出しました。以下のファイルを参照してください。ファイル名：\*\*\*\*\*。処理を続行しますか？

[ メッセージの意味 ]

解析で軽度のエラーが検出されました。出力処理を続行して行う処理を中止するか選択します。

[ 利用者の処置 ]

エラーメッセージの詳細が出力されたファイルを参照し、エラーがあっても出力したい場合は「はい」を、中止したい場合は「いいえ」をクリックしてください。ただし、エラーの内容によっては、ドキュメントが出力されない場合があります。

[ メッセージ区分 ]

|

解析で中程度のエラーを検出しました。以下のファイルを参照してください。ファイル名：\*\*\*\*\*。処理を続行しますか？

[ メッセージの意味 ]

解析で中程度のエラーが検出されました。出力処理を続行して行う処理を中止するか選択します。

[ 利用者の処置 ]

エラーメッセージの詳細が出力されたファイルを参照し、エラーがあっても出力したい場合は「はい」を、中止したい場合は「いいえ」をクリックしてください。ただし、エラーの内容によっては、ドキュメントが出力されない場合があります。

[ メッセージ区分 ]

|

解析で重度のエラーを検出したため処理を中止します。以下のファイルを参照してください。ファイル名：\*\*\*\*\*。

[ メッセージの意味 ]

解析で重度のエラーが検出されました。以降の処理ができないため処理を中止します。

[ 利用者の処置 ]

エラーメッセージの詳細が出力されたファイルを参照し、エラーの原因を取り除いてください。

[メッセージ区分]

U

翻訳オプションファイルのオープンに失敗しました。

[メッセージの意味]

翻訳オプションファイルのオープンに失敗しました。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

翻訳オプションファイルの読み込みに失敗しました。

[メッセージの意味]

翻訳オプションファイルの読み込みに失敗しました。

[利用者の処置]

メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックして処理を終了し、ファイルが破壊されていないかまたは、ドライブに異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

メッセージファイルのオープンに失敗しました。

[メッセージの意味]

メッセージファイルのオープンに失敗しました。

[利用者の処置]

レジストリエディタで「HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Fujitsu¥SIMPLIA¥PF·EXSPEC\_32」キーの「Product\_Directory」にEXSPECをインストールしたフォルダ名が設定されているかどうか確認してください。

[メッセージ区分]

U

メッセージファイルの読み込みに失敗しました。

[メッセージの意味]

メッセージファイルの読み込みに失敗しました。

[利用者の処置]

レジストリエディタで「HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Fujitsu¥SIMPLIA¥PF・EXSPEC\_32」キーの「Product\_Directory」にEXSPECをインストールしたフォルダ名が設定されているかどうか確認してください。

[メッセージ区分]

U

メッセージファイルの書き込みに失敗しました。

[メッセージの意味]

メッセージファイルの書き込みに失敗しました。

[利用者の処置]

「エラーファイル出力フォルダ」で指定したドライブの容量がいっぱいでないか、または、異常がないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

指定されたフォルダが存在しません。

[メッセージの意味]

指定されたフォルダが存在しません。

[利用者の処置]

指定したフォルダが存在するか、削除されていないか、または、名称変更されていないか調べてください。

[メッセージ区分]

U

指定されたフォルダは既に登録されています。

[メッセージの意味]

追加指定したフォルダは既に登録されています。

[利用者の処置]

参照画面で他のフォルダを選択して「追加」をクリックするか、または「キャンセル」をクリックして画面を閉じてください。

[メッセージ区分]

I

指定されたフォルダに空白が含まれています。空白を含まないフォルダを指定してください。

[メッセージの意味]

指定されたフォルダに空白が含まれています。

[利用者の処置]

空白を含まないフォルダを指定してください。

[メッセージ区分]

W

## 診断メッセージ(コマンドライン使用)

ここでは、コマンドライン使用時の初期段階に発生するメッセージのみを記載しています。従って、資産解析等で出力される診断メッセージについては、診断メッセージ(通常使用)を参照してください。

指定されたドキュメント環境ファイルは、存在しません。ドキュメント環境ファイルの設定を行ってください。

### [メッセージの意味]

コマンドライン実行時は、あらかじめEXSPEC本体を起動し、ドキュメント環境ファイルを作成しておく必要があります。

### [利用者の処置]

EXSPEC本体をスタートメニューより起動し、ドキュメント環境ファイルを作成してください。その後、コマンドラインで実行してください。

### [メッセージ区分]

U

指定されたドキュメント環境ファイルの拡張子がDCEではありません。ドキュメント環境ファイルの設定を行ってください。

### [メッセージの意味]

何らかの原因により、レジストリ情報に書き込まれたドキュメント環境ファイルの拡張子が「DCE」ではなくなっています。

### [利用者の処置]

EXSPEC本体をスタートメニューより起動し、ドキュメント環境ファイルを再作成してください。その後、コマンドラインで実行してください。

### [メッセージ区分]

U

指定されたYPS仕様書は存在しません。ファイル名：\*\*\*\*\*

### [メッセージの意味]

指定されたYPS仕様書が存在しません。

### [利用者の処置]

指定したフォルダが存在するか、削除されていないか、または、名称変更されていないか調べてください。

### [メッセージ区分]

U

YPS仕様書が指定されていません。

[メッセージの意味]

コマンドライン実行時のパラメタに、YPS仕様書が指定されていません。

[利用者の処置]

パラメタにYPS仕様書名をフルパスで指定し、再度実行してください。

[メッセージ区分]

U

\*\*\*\*\*はYPS仕様書ではありません。

[メッセージの意味]

\*\*\*\*\*はYPS仕様書ではありません。\*\*\*\*\*は指定されたYPS仕様書名を示します。

[利用者の処置]

指定したYPS仕様書の拡張子が「YAC」又は「YCB」になっているか調べてください。

[メッセージ区分]

U



## 注意事項

EXSPECを使用するにあたっての注意事項を以下に示します。

- YPS/COBOLが正しくインストールされていなければなりません。

EXSPECを使用するにあたっての制限事項を以下に示します。

### 対象言語について

YPS/COBOLのみを対象とし、YPS/C はサポートしません。

### YPS仕様書における記述について

・モジュール本体に複数のプログラム単位あるいは、二次入口が存在するYPS仕様書を入力対象とした場合、出力結果は保証されません。

・EXSPECで出力されるドキュメントは、EXSPEC用のコメント及びYPS仕様書中に記述されている標準的な日本語名標や構文を解析して情報を取得しています。そのため、一定の規則に沿ってYPS仕様書が記述されている必要があります。EXSPEC用のコメントの記述についてはコメント記述規約を、YPS仕様書の記述についてはYPS仕様書記述規約を参照してください。それぞれの規約を遵守していないYPS仕様書については、出力結果は保証されません。

・YPS/COBOL コンパイラで重度のエラー（Sレベル以上）が発生するYPS仕様書を入力対象とした場合、出力結果は保証されません。

・文字列リテラル内に を記述する場合には、次の制限があります。

1 文内に出現するリテラルは2つで、同じ文字でなければなりません。

全角・半角の混在及び単（'）複（"）の混在は許されません。

・EXSPECで解析できるYPS仕様書の1行に記述できる最大文字数は、YPSエディタで入力可能な文字数（半角文字で120桁、全角文字で60文字まで）とします。それを超える場合は、出力結果は保証されません。特にYPS仕様書出力において、途中までしか出力されないことがあります。

### UNC形式のファイル名指定について

・EXSPECは、UNC形式のファイル名をサポートしていません。必ず、ネットワークドライブを割り当ててから、ネットワーク上のファイルをアクセスするようにしてください。

### ドキュメントの保管運用について

・YPS仕様書については、ドキュメントの保管はできません。

・EXSPECをコマンドラインで使用する場合は、全てのドキュメントの保管はできません。

## 保管帳票ファイルについて

・V03L01以前のバージョンレベルで作成した保管帳票ファイルは、表示できません。また、他のSIMPLIA製品で作成した保管帳票ファイルは、表示できません。

・EXSPECをコマンドラインで使用する場合は、ドキュメントを保管することはできません。また、既存の保管帳票ファイルの表示、削除もできません。

## EXSPECをコマンドラインで使用する場合について

・EXSPECをコマンドラインで使用する場合、以下の機能は使用できません。

### 「ファイル」メニュー

「新規作成(N)」

「開く(O)」配下の「保管帳票ファイル」

「名前を付けて保存(A)」配下の「保管帳票ファイル」

「削除(D)」

### 「ツールバー」

新規作成 (モジュール設計書)

新規作成 (YPS仕様書)

開く (保管帳票ファイル)

名前を付けて保存 (保管帳票ファイル)

削除

・解析可能なYPS仕様書は、1ファイルのみです。複数ファイルの解析はできません。

・事前にEXSPEC本体を起動し、環境設定ファイルを作成しておく必要があります。

・セクション構造図を出力する場合は、YPS / COBOLの環境設定にて、事前にコンパイル可能な環境を整えておく必要があります。

・EXSPEC本体とコマンドラインは、同時に起動することはできません。

・ Y P S アプリケーションバーからの起動はできません。

## A C P I 対応について

・ E X S P E C は A C P I (Advanced Configuration and Power Interface) に対応していません。そのため、E X S P E C が動作中に電源休止状態となった場合、復旧後の動作は保証できません。

## 使用可能なパスの長さについて

・ E X S P E C は、使用できるパス名の長さに制限があります。以下に指定可能なパス名の長さを記述します。各パス名の最大長を超える場合、動作は保証されません。

パス名	パス名の最大長
YPS仕様書フォルダ	200バイト
インクルード仕様書 フォルダ	200バイト
コピー句フォルダ	200バイト
ドキュメント保管 フォルダ	230バイト
エラーファイル出力 フォルダ	230バイト
保管帳票ファイル	260バイト (注1)
ドキュメント保管 ファイル	260バイト
Y P S 仕様書フォル ダ	256バイト
インクルード仕様書	256バイト
コピー句	256バイト

注1) 保管帳票ファイル格納先フォルダには、保管帳票ファイルと合わせてドキュメント情報が格納されます。このため、保管帳票ファイル格納先フォルダは230バイト以下でなければ、作成できません。

### ・作業用フォルダ

モジュール設計書を出力する場合、YPS仕様書フォルダに十分な空き容量が必要です。各ドキュメントの1ページ単位の内訳を以下に示します。

モジュール設計書表紙	9 KB
変更履歴一覧表	6 4 KB
モジュール概要	6 0 K B
セクション構造図	1 5 0 K B
セクション機能概要	7 0 K B
YPS仕様書	2 5 5 K B

各ドキュメントを保管する場合も、ドキュメント保管フォルダに同様の空き容量が必要になります。

## 欧文

DD名	YPS 仕様書中の入出力節のASSIGN句で指定されたデータセットを定義する名前です。
YPSインクルード仕様書	プログラムの一部が記述されたYPS仕様書。取込み表記により取り込むことができます。
YPSインクルード仕様書格納フォルダ	YPSインクルード仕様書が格納されているフォルダです。
YPS WorkBench	YPSのプログラム開発にまつわる環境の統合化と管理を実現するものです。

## 和文

環境ファイル	YPS開発資源から情報を抽出し、ドキュメントを作成するための環境（資産の格納場所及び解析オプション）が登録されたファイルです。拡張子が「DCE」として作成されます。
キーワード	コメント中で、抽出しようとする情報の直前に記述されている日本語のことです。
コピー句	データ項目の集まりである。COBOLでいう登録集原文のことです。
コピー句格納フォルダ	コピー句が格納されているフォルダ。
コメント	注釈。
コメント規約	EXSPECの各帳票を出力するためにコメント行作成上で決められた規約。
作成情報	以下の情報を指します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・モジュール名称</li><li>・モジュールID</li><li>・作成者名</li><li>・動作形態</li><li>・作成日付</li></ul>
保管帳票ファイル	作成されたドキュメントが保管されるファイル。拡張子が「KFF」として作成されます。
通常印刷	作成されたドキュメントを画面に表示しないで、直接プリンタに印刷することです。
通常保管	YPS開発資源から抽出を行い、その抽出結果を保管帳票ファイルに直接格納することです。

ドキュメント表示連携印刷	画面に表示したドキュメントを印刷することです。
ドキュメント表示連携保管	画面に表示したドキュメントを保管することです。
バージョンレベル	ソフトウェアの改版または改定回数を示します。
メモリテーブル	YPS仕様書中のコメント行及び実行行から解析し、抽出された情報を格納しているハードディスクのメモリ上に確保されるテーブルのことです。
呼出条件	YPS仕様書中で、1つの節またはサブルーチンを実行するために必要な条件のことです。
予約語	YPS仕様書中のコメント記述中で意味をもった言葉のことです。
履歴情報	以下の情報を指します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・版数</li><li>・変更日付</li><li>・変更者</li><li>・変更内容</li></ul>
レジストリ	EXSPECを実行するための情報を保存しているシステム領域のことです。

1. はじめに
2. 概要
  - 2.1. 背景と目的
  - 2.2. 特長
3. 機能概要とシステム構成
  - 3.1. 機能体系
  - 3.2. 帳票表示機能
  - 3.3. 帳票印刷機能
  - 3.4. 保管帳票機能
  - 3.5. YPS WorkBench連携機能
  - 3.6. 運用方法
  - 3.7. システム構成
4. コメント記述規約
  - 4.1. コメントキーワード
  - 4.2. 前提条件
  - 4.3. モジュール属性記述
  - 4.4. 著作権表示
  - 4.5. モジュール概要定義
  - 4.6. 履歴情報定義
  - 4.7. ファイル情報定義
  - 4.8. セクション機能概要定義
  - 4.9. サブルーチン定義
  - 4.10. 外部画面情報定義
  - 4.11. 外部ファイル情報定義
  - 4.12. R D B 2 情報定義
5. YPS仕様書記述規約
  - 5.1. 前提条件
  - 5.2. プログラム名
  - 5.3. サブスキーマ名記述項
  - 5.4. ファイル管理記述項
  - 5.5. ファイル記述項
  - 5.6. OPEN文

- 5.7. プログラム呼出し
- 5.8. 節及び節呼出し
- 5.9. COPY命令
- 5.10. 取込み
- 6. ドキュメント説明
  - 6.1. モジュール設計書出力
    - 6.1.1. モジュール設計書(表紙)出力
    - 6.1.2. 変更履歴一覧表出力
    - 6.1.3. モジュール設計書出力
      - 6.1.3.1. モジュール概要の出力形式
      - 6.1.3.2. モジュール概要(補助シート1)の出力形式
      - 6.1.3.3. モジュール概要(補助シート2)の出力形式
    - 6.1.4. セクション構造図出力
      - 6.1.4.1. セクション構造図の出力形式
      - 6.1.4.2. 呼出条件一覧の出力形式
    - 6.1.5. セクション機能概要出力
  - 6.2. YPS仕様書出力
- 7. 操作手順
  - 7.1. EXSPEC起動・終了
  - 7.2. 環境ファイルの設定方法
  - 7.3. ドキュメントの表示方法
  - 7.4. ドキュメントの印刷方法
  - 7.5. ドキュメントの保管運用
    - 7.5.1. 作成ドキュメントの保管
    - 7.5.2. 保管ドキュメントからの表示
    - 7.5.3. 保管ドキュメントからの印刷
    - 7.5.4. 保管ドキュメントの削除
    - 7.5.5. ドキュメント情報の設定方法
    - 7.5.6. プリンタの設定方法
- 8. サンプルでの動作確認方法
  - 8.1. サンプルでの動作確認方法(通常使用)
  - 8.2. サンプルでの動作確認方法(コマンドライン使用)
- 9. コマンド
  - 9.1. [ファイル]メニュー

- 9.2. [\[表示\]メニュー](#)
- 9.3. [\[環境\]メニュー](#)
- 9.4. [\[ヘルプ\]メニュー](#)
- 10. ツールバー/ショートカットキー
  - 10.1. [ツールバー](#)
  - 10.2. [ショートカットキー](#)
- 11. [メッセージ](#)
  - 11.1. [メッセージの見方](#)
  - 11.2. [診断メッセージ\(通常使用\)](#)
  - 11.3. [診断メッセージ\(コマンドライン使用\)](#)
  - 11.4. [ドキュメント出力項目の情報取得元マトリクス](#)
- 12. [注意事項と制限事項](#)
  - 12.1. [注意事項](#)
  - 12.2. [制限事項](#)
  - 12.3. [使用ディスク容量](#)
- 13. [用語集](#)

キーワード

[ファイル]メニュー

[ヘルプ]メニュー

[環境]メニュー

[表示]メニュー

COPY命令

EXSPECの起動・終了

OPEN文

R D B 2 情報定義

YPS WorkBench連携機能

YPS仕様書記述規約

YPS仕様書出力

キーワード

キーワード記述規約

コメントキーワード

サブスキーマ名記述項

サブルーチン定義

サンプルでの動作確認方法(コマンドライン使用)

サンプルでの動作確認方法(通常使用)

システム構成

ショートカットキー

セクション機能概要出力

セクション機能概要の注意事項

セクション機能概要定義

セクション構造図の出力形式

セクション構造図の注意事項

ツールバー

ドキュメントの印刷方法

ドキュメントの自動出力

ドキュメントの表示方法

ドキュメント出力項目の情報取得元マトリクス

ドキュメント情報の設定方法

[ドキュメント説明](#)

[ドキュメント表示連携印刷](#)

[ドキュメント表示連携保管](#)

[バージョン情報](#)

[はじめに](#)

[ファイル管理記述項](#)

[ファイル記述項](#)

[ファイル情報定義](#)

[プリンタの設定方法](#)

[プログラム呼出し](#)

[プログラム名](#)

[メッセージの見方](#)

[メニュー](#)

[モジュール概要\(補助シート1\)の出力形式](#)

[モジュール概要\(補助シート2\)の出力形式](#)

[モジュール概要の出力形式](#)

[モジュール概要定義](#)

[モジュール設計書\(表紙\)出力](#)

[モジュール属性記述](#)

[運用方法](#)

[欧文](#)

[外部ファイル情報定義](#)

[外部画面情報定義](#)

[環境ファイルの設定方法](#)

[機能体系](#)

[記述位置](#)

[記述形式](#)

[記述例](#)

[呼出条件一覧の出力形式](#)

[資源の一元管理](#)

[取込み](#)

[情報定義コメント](#)

[情報定義コメント一覧](#)

[診断メッセージ\(通常使用\)](#)

診断メッセージ(コマンドライン使用)

制限事項

節及び節呼出し

前提条件

注意事項

著作権表示

帳票印刷機能

帳票表示機能

保管帳票機能

通常印刷

通常保管

特長

背景

変更履歴一覧票出力

保管ドキュメントからの印刷

保管ドキュメントからの表示

保管ドキュメントの削除

目的

予約語

予約語、キーワードと同じ文字列が記述された場合

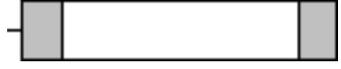
予約語記述規約

用語集

履歴情報定義

和文

プログラム呼出し図記号



出力項目 : 作成日

出力形式 説明

---

YYYY.MM.DD システム日付を出力します。

出力項目 : 作成時刻

出力形式 説明

---

HH:MM:SS システム時刻を出力します。

出力項目 : 担当

出力形式 説明

---

6文字全角 モジュール属性記述行（YPS仕様書）に記述されている作成者を出力します。

出力項目 : ページ

出力形式 説明

---

1番からの連番 処理対象モジュール単位でドキュメントの先頭より出力します。(半角ゼロサプレス)

出力項目 : システム名表題

出力形式 説明

---

12文字全角 「ドキュメント情報設定」ダイアログボックスよりコメントキーワード（「システム名」）を設定することにより、コメントキーワードの変更が可能です。キーワードが変更された場合、モジュール概要定義（コメント）の該当キーワードのコメントからそれぞれ出力します。

出力項目 : サブシステム名表題

出力形式 説明

---

12文字全角 「ドキュメント情報設定」ダイアログボックスよりコメント名表題キーワード（「サブシステム名」）を設定することにより、コメントキーワードの変更が可能です。キーワードが変更された場合、モジュール概要定義（コメント）の該当キーワードのコメントからそれぞれ出力します。

出力項目 : ジョブ名表題

出力形式 説明

---

12文字全角 「ドキュメント情報設定」ダイアログボックスよりコメントキーワード（「ジョブ名」）を設定することにより、コメントキーワードの変更が可能です。キーワードが変更された場合、モジュール概要定義（コメント）の該当キーワードのコメントからそれぞれ出力します。

出力項目 : システム名

出力形式 説明

---

15文字全角 モジュール概要定義のシステム名(コメント)を出力します。

出力項目 : サブシステム名

出力形式 説明

---

15文字全角 モジュール概要定義のサブシステム名(コメント)を出力します。

出力項目 : ジョブ名

出力形式 説明

---

15文字全角 モジュール概要定義のジョブ名(コメント)を出力します。

出力項目 : プログラム名

出力形式 説明

---

15文字全角 モジュール概要定義のプログラム名(コメント)を出力します。モジュール概要定義のプログラム名(コメント)が省略され、プログラムIDが日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、日本語で記述された文字列を出力します。

出力項目 : システムID

出力形式 説明

---

8文字全角 モジュール概要定義のシステムID (コメント) を出力します。

出力項目 : サブシステムID

出力形式 説明

---

8文字全角 モジュール概要定義のサブシステムID(コメント)を出力します。

出力項目 : ジョブID

出力形式 説明

---

8文字全角 モジュール概要定義のジョブID(コメント)を出力します。

出力項目 : プログラムID

出力形式 説明

---

8文字全角 プログラム開始図記号に記述されたプログラムIDを出力します。プログラム開始図記号に記述されたプログラムIDを日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を出力します。

出力項目 : 版数

説明

---

履歴情報定義（コメント）が2つ以内の場合、1行目については、無条件に「初版」と出力します。2行目以降については、履歴情報定義の版数（コメント）を2文字の全角で出力します。履歴情報定義（コメント）が3つ以上の場合、履歴情報定義（コメント）の最新のものから3つの版数を2文字の全角で出力します。

出力項目 : 変更日付

## 説明

---

履歴情報定義（コメント）が2つ以内の場合、1行目については、モジュール属性記述行（YPS仕様書）に記述されている作成日付を‘.’で区切って半角で出力します。2行目以降については、履歴情報定義の変更日付（コメント）を‘.’で区切って半角で出力します（出力形式：YYYY.MM.DD）。履歴情報定義（コメント）が3つ以上の場合、履歴情報定義（コメント）の最新のものから3つの変更日付を‘.’で区切って半角で出力します。

出力項目 : 変更者

説明

---

履歴情報定義（コメント）が2つ以内の場合、1行目については、モジュール属性記述行（YPS仕様書）に記述されている作成者を6文字の全角で出力します。2行目以降については、履歴情報定義の変更者（コメント）を6文字の全角で出力します。履歴情報定義（コメント）が3つ以上の場合、履歴情報定義（コメント）の最新のものから3つの変更者を6文字の全角で出力します。

出力項目 : 変更内容

説明

---

履歴情報定義（コメント）が2つ以内の場合、1行目については空白を出力します。2行目以降については、履歴情報定義の変更内容（25文字×3行）[コメント]を、先頭から44文字編集して全角で出力します。履歴情報定義（コメント）が3つ以上の場合、履歴情報定義（コメント）の最新のものから3つの変更内容（25文字×3行）を、それぞれ先頭から44文字編集して全角で出力します。

出力項目 : 著作権表示

説明

---

YPS仕様書中に著作権表示がある場合、著作権表示行の権利保有者名を32文字の全角、または64文字の半角で出力します。「ドキュメント情報設定」ダイアログボックスで、権利保有者名を設定した場合は、設定した権利保有者名を32文字の全角、または64文字の半角で出力します。

出力項目 : プログラム名表題

出力形式 説明

---

12文字全角「ドキュメント情報設定」ダイアログボックスよりコメント名表題キーワード（「プログラム名」）を設定することにより、コメントキーワードの変更が可能です。キーワードが変更された場合、モジュール概要定義（コメント）の該当キーワードのコメントからそれぞれ出力します。

出力項目 : ドキュメントタイトル

説明

---

各種ドキュメントのタイトル。

出力項目 : 版数

説明

---

1行目については、無条件に「初版」と出力します。2行目以降については、履歴情報定義の版数（コメント）を2文字の全角で出力します。

出力項目 : 変更日付

説明

---

1行目については、モジュール属性記述行（YPS仕様書）または、「初版」が定義される履歴情報定義行（YPS仕様書）に記述されている作成日付をXXXX年XX月XX日と編集して出力します。2行目以降については、履歴情報定義の変更日付（コメント）をXXXX年XX月XX日と編集して出力します。

出力項目 : 変更者

説明

---

1行目については、モジュール属性記述行（YPS仕様書）または、「初版」が定義される履歴情報定義行（YPS仕様書）に記述されている作成者を6文字の全角で出力します。2行目以降については、履歴情報定義の変更者（コメント）を6文字の全角で出力します。

出力項目 : 変更内容

説明

---

1行目については無条件に空白を出力します。2行目以降については、履歴情報定義の変更内容(25文字×3行のコメント)を2行(1行目:39文字、2行目:36文字)に編集して、75文字の全角で出力します。

出力項目 : 概要

説明

---

モジュール概要定義の機能概要 (30文字 × 3行) [コメント] を30文字 × 3行で出力します。

出力項目 : 動作形態

説明

---

モジュール概要定義の動作形態（コメント）を10文字の全角で出力します。

出力項目 : 処理サイクル

説明

---

モジュール概要定義の処理サイクル(コメント)を5文字の全角で出力します。

出力項目 : サブスキーマ

説明

---

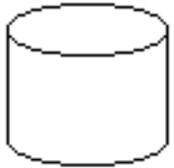
YPS仕様書のシステム環境宣言(YPS記述)内に定義されているサブスキーマ名を8文字の半角で出力します。

## [ブロックダイアグラムの図形]

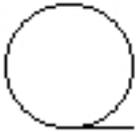
ブロックダイアグラム内の図形は、媒体を作画しています。コメント定義方法をと作画される図形の関係を以下に示します。

作画される図形 コメント定義方法

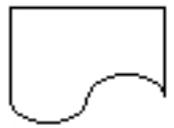
---



媒体にDASD又は空白が設定された場合



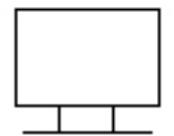
媒体にTAPE、MT、CMTが設定された場合



媒体にLIST、LPが設定された場合



媒体にCARDが設定された場合



媒体にDISPが設定された場合

## [図形の出力位置]

ブロックダイアグラム内の各装置は、入出力区分及び媒体により、出力位置が変わります。以下に出力位置の関係を示します。

入出力区分 : IN

媒体 図形の出力位置

---

DASD ブロックダイヤグラムの上側

TAPE ブロックダイヤグラムの上側

MT 同上

CMT 同上

CARD ブロックダイヤグラムの上側

DISP ブロックダイヤグラムの左側

入出力区分 : OUT

媒体 図形の出力位置

---

DASD ブロックダイヤグラムの下側

TAPE ブロックダイヤグラムの下側

MT 同上

CMT 同上

LIST ブロックダイヤグラムの下側

LP 同上

DISP ブロックダイヤグラムの左側

入出力区分 : I-0

媒体 図形の出力位置

---

DASD ブロックダイヤグラムの右側

DISP ブロックダイヤグラムの左側

入出力区分 : EX

媒体 図形の出力位置

---

DASD ブロックダイヤグラムの下側

TAPE ブロックダイヤグラムの下側

MT 同上

CMT 同上

LIST ブロックダイヤグラムの下側

LP 同上

[DD名]

同一入出力区分及び媒体毎に7個までアクセス名が8文字の全角で出力されます。アクセス名が8個以上存在した場合は、出力されているアクセス名も含め、計n n個と出力されま  
す。

出力項目 : プログラムID

説明

---

プログラム開始図記号に記述されたプログラムIDを8文字の全角で出力します。

プログラム開始図記号に記述されたプログラムIDを日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を8文字の全角で出力します。

出力項目 : プログラム名

説明

---

モジュール概要定義のプログラム名(コメント)を15文字の全角で出力します。

モジュール概要定義のプログラム名(コメント)が省略され、プログラムIDが日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、日本語で記述された文字列を15文字の全角で出力します。

出力項目 : ファイルNo.

説明

---

YPS仕様書に出現した順番にZEROサプレスの2桁で出力します。

出力項目 : ファイル名

説明

---

YPS仕様書内でFD文またはSD文・SELECT文に記述されているファイル名を30文字の全角で出力します。

外部ファイル情報定義のファイル名（コメント）を30文字の全角で出力します。

ファイル名が16文字以上記述されていた場合、2行に分けて出力します。

RDB2情報定義のスキーマ名（コメント）を15文字の全角で上段に出力します。

RDB2情報定義の表名（コメント）を15文字の全角で下段に出力します。

ファイル名が6個以上存在する場合は、ファイル情報の5行目に「継続」が出力され以降の情報はモジュール概要（補助シート1）に出力されます。

出力項目 : アクセス名

説明

---

YPS仕様書内でSELECT文に記述されているアクセス名を12文字の半角で出力します。

外部ファイル情報定義のアクセス名（コメント）を12文字の半角で出力します。

出力項目 : 入出力区分

説明

---

以下の順序で出力される内容( ' IN ' ・ ' OUT ' ・ ' I-0 ' ・ ' EX ' )が設定されます。

・YPS仕様書内でOPEN命令に記述されているオープンモードをもとに上記内容を出力します。

・外部ファイル情報定義の入出力区分(コメント)をもとに上記内容を出力します。

・RDB2情報定義の区分(コメント)をもとに上記内容を出力します。

但し、上記出力内容のうち ' EX ' は除きます。

出力項目 : アクセス方式

説明

---

YPS仕様書のSELECT文に記述されているアクセスモードをもとに「順」「乱」「動」の何れかを出力します。アクセスモードが省略された場合は、「順」を出力します。外部ファイル情報定義のアクセスモード(コメント)をもとに「順」「乱」「動」の何れかを出力します。

出力項目 : 媒体

説明

---

ファイル情報定義の媒体（コメント）を4文字の半角で出力します。

外部ファイル情報定義の媒体（コメント）を4文字の半角で出力します。

R D B 2 情報定義の場合、「DASD」を出力します。

出力項目 : ファイル編成

説明

---

- ファイル情報定義の編成（コメント）を4文字の半角で出力します。
- 外部ファイル情報定義の編成（コメント）を4文字の半角で出力します。
- RDB2情報定義の場合、「RDB」を出力します。

出力項目 : レコード形式

説明

---

ファイル情報定義の形式（コメント）を4文字の半角で出力します。

外部ファイル情報定義の形式（コメント）を4文字の半角で出力します。

出力項目 : レコード長

説明

---

ファイル情報定義のレコード長（コメント）を5文字の半角で出力します。

外部ファイル情報定義のレコード長（コメント）を5文字の半角で出力します。

出力項目 : ブロック長

説明

---

ファイル情報定義のブロック長（コメント）を5文字の半角で出力します。

外部ファイル情報定義のブロック長（コメント）を5文字の半角で出力します。

出力項目 : コピー / YPSインクルード句名

## 説明

---

- ・FD文またはSD文の下に記述されているコピー句及びYPSインクルード仕様書を出力します。（コピー句及びYPSインクルード仕様書内にファイル記述項が存在した場合も含まれます）
- ・COPY命令（COBOL記述）の直後、またはYPS標準構文「を取り込む」の直前の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を8文字の半角で出力します。
- ・COPY命令の直後またはYPS標準構文「を取り込む」の直前の文字列を8文字の半角で出力します。
- ・取込み図記号の直後の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を8文字の半角で出力します。
- ・取込み図記号の直後の文字列を8文字の半角で出力します。
- ・一つのファイルに対して複数のコピー句及びYPSインクルード仕様書が存在した場合、モジュール概要（補助シート1）に出力されます。

出力項目 : 画面No.

説明

---

YPS仕様書に出現した順番にZEROサプレスの2桁で出力します。

出力項目 : 画面名称

説明

---

ファイル情報定義の区分（コメント）が「P」と記述されていた場合、日本語名称（コメント）を15文字の全角で出力します。外部ファイル情報定義の画面名（コメント）を15文字の全角で出力します。画面情報は、1ページに18個出力されます。18個を超える場合、3列目の最下段に「継続」を出力します。

出力項目 : 画面ID

説明

---

ファイル情報定義の区分（コメント）が ' P ' と記述されていた場合、ID（コメント）を8文字の半角で出力します。外部ファイル情報定義の画面ID（コメント）を8文字の半角で出力します。

出力項目 : 帳票No.

説明

---

YPS仕様書に出現した順番にZEROサプレスの2桁で出力します。

出力項目 : 帳票名称

説明

---

ファイル情報定義の区分（コメント）が ' O ' または ' L ' と記述されていた場合、日本語名称（コメント）を15文字の全角で出力します。帳票情報は、1ページに18個出力されます。18個を超える場合、3列目の最下段に「継続」を出力します。

出力項目 : 帳票ID

説明

---

ファイル情報定義の区分（コメント）が ' O ' または ' L ' と記述されていた場合ID（コメント）を8文字の半角で出力します。

出力項目 : ファイルNo

説明

---

YPS 仕様書に出現した順番にZEROサプレスの2桁で出力します。モジュール概要リストに出力されているファイル情報でコピー句が2個以上記述されている場合、モジュール概要リストに出力されているファイルNo.と同じものを出力します。

出力項目 : ファイル名

説明

---

YPS 仕様書内でFD文またはSD文・SELECT文に記述されているファイル名を30文字の全角で出力します。

外部ファイル情報定義のファイル名（コメント）を30文字の全角で出力します。

ファイル名が16文字以上記述されていた場合、2行に分けて出力します。

R D B 2 情報定義のスキーマ名（コメント）を15文字の全角で上段に出力します。

R D B 2 情報定義の表名（コメント）を15文字の全角で下段に出力します。

ファイル情報は、1ページに20個出力される。20個を超える場合、最下段に「継続」を出力します。

出力項目 : アクセス名

説明

---

YPS 仕様書内でSELECT文に記述されているアクセス名を12文字の半角で出力します。

外部ファイル情報定義のアクセス名(コメント)を12文字の半角で出力します。

出力項目 : 入出力区分

説明

---

以下の順序で出力される内容( ' IN ' ・ ' OUT ' ・ ' I-0 ' ・ ' EX ' )が設定されます。

YPS仕様書内でOPEN命令に記述されているオープンモードをもとに上記内容を出力します。

外部ファイル情報定義の入出力区分(コメント)をもとに上記内容を出力します。

R D B 2 情報定義の区分(コメント)をもとに上記内容を出力します。ただし、上記出力内容のうち ' EX ' は除きます。

出力項目 : 媒体

説明

---

ファイル情報定義の媒体（コメント）を4文字の半角で出力します。外部ファイル情報定義の媒体（コメント）を4文字の半角で出力します。RDB2情報定義の場合、「DASD」を出力します。

出力項目 : ファイル編成

説明

---

ファイル情報定義の編成（コメント）を4文字の半角で出力します。外部ファイル情報定義の編成（コメント）を4文字の半角で出力します。RDB2情報定義の場合、「RDB」を出力します。

出力項目 : レコード形式

説明

---

ファイル情報定義の形式（コメント）を4文字の半角で出力します。外部ファイル情報定義の形式（コメント）を4文字の半角で出力します。

出力項目 : レコード長

説明

---

ファイル情報定義のレコード長(コメント)を5文字の半角で出力します。外部ファイル情報定義のレコード長(コメント)を5文字の半角で出力します。

出力項目 : ブロック長

説明

---

ファイル情報定義のブロック長（コメント）を5文字の半角で出力します。外部ファイル情報定義のブロック長（コメント）を5文字の半角で出力します。

出力項目 : コピー / YPSインクルード句名

説明

---

FD文、またはSD文の下に記述されているコピー句及びYPSインクルード仕様書を出力します。(コピー句及びYPSインクルード仕様書内にファイル記述項が存在した場合も含まれます)

COPY命令(COBOL記述)の直後またはYPS標準構文「を取り込む」の直前の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を8文字の半角で出力します。

COPY命令の直後またはYPS標準構文「を取り込む」の直前の文字列を8文字の半角で出力します。

取込み図記号の直後の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を8文字の半角で出力します。

取込み図記号の直後の文字列を8文字の半角で出力します。

一つのファイルに対してサポートしているコピー句及びYPSインクルード仕様書は14個までで、超えた場合は、無視されます。7個目までを1行に出力して、8個目から2行目に出力されます。

出力項目 : 継続

説明

---

モジュール概要リストに出力されているファイル情報でコピー句が2個以上記述されている場合に、そのファイルのファイルNo.と「\*」が出力されます。

出力項目 : サブルーチンNo.

説明

---

YPS仕様書に出現した順番にZEROサプレスの2桁で出力します。

出力項目 : サブルーチン名

## 説明

---

サブルーチン定義のサブルーチン名（コメント）を15文字の全角で出力します。プログラム呼出図記号内またはCALL命令（COBOL記述）の直後の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述され、かつサブルーチン定義のサブルーチン名（コメント）が記述されていなかった場合、その文字列を15文字の全角で出力します。

サブルーチン情報は、1ページに45個出力されます。45個を超える場合、3列目の最下段に「継続」を出力します。

出力項目 : サブルーチンID

説明

---

プログラム呼出図記号またはCALL命令 (COBOL記述) の直後の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を8文字の半角で出力します。プログラム呼出図記号内またはCALL命令 (COBOL記述) の直後の文字列を8文字の半角で出力します。

出力項目 : コピー / YPSインクルード句No.

説明

---

YPS仕様書に出現した順番にZEROサプレスの2桁で出力します。

出力項目 : コピー / YPSインクルード句の展開位置

説明

YPS仕様書内でコピー / YPSインクルード仕様書が定義されている位置を部(DIVISION)単位で出力します。展開位置に出力される内容を以下に示します。

区記号	出力文字列
□   構文定義部	構文定義部
□   環境部	環境部
□   データ部	データ部
□   手続き部	手続き部

出力項目 : YPSインクルード句の展開

説明

---

展開されているメンバがYPSインクルード仕様書の場合、「\*」が出力されます。

出力項目 : コピー / YPSインクルード句メンバ名

説明

---

( 1 ) YPSインクルード仕様書の場合

取込み図記号の直後の文字列を 8 文字の半角で出力します。

( 2 ) コピー句の場合

COPY命令 ( COBOL記述 ) の直後またはYPS標準構文 ‘ を取り込む ’ の直前の文字列が日本語名標宣言機能を使用して記述されていた場合、COBOLの文字列を 8 文字の半角で出力します。

COPY命令 ( COBOL記述 ) の直後またはYPS標準構文 ‘ を取り込む ’ の直前の文字列を 8 文字の半角で出力します。

( 3 ) YPS仕様書内に記述されているコピー句及び、YPSインクルード仕様書のみが出力され  
ます。

( 4 ) コピー / YPSインクルード情報は、1 ページに30個出力されます。

30個を超える場合、最下段に「継続」を出力します。

出力項目 : 注釈欄

## 説明

以下の形式でコメントの内容を60文字の全角、または120文字の半角で出力します。

( 1 ) YPS記述の場合 ( 但し、COPY命令 ( COBOL記述 ) または、YPS標準構文 ‘ を取り込む ’ と同一行に記述されているコメントのみ有効 )

・ ‘ ’ 記号から始まるコメントを出力します。

・同一行に複数のコメントが記述されている場合、1つにまとめて出力します。

複数のコメントが記述されている場合の出力形式を以下に示します。

YPS仕様書の例

⋮				
□	データ部			
├	☆コメント-1☆	COPY001	を取り込む	☆コメント-2☆
⋮				

モジュール概要 ( 補助シート 2 ) の北°-/YPSインクルード 句情報の出力例

NO	展開位置	YPS インクルード	コピ-/YPS インクルード句名	注 釈
1	データ部		COPY001	コメント-1 コメント-2

( 2 ) COBOL記述の場合 ( 但し、COPY命令 ( COBOL記述 ) と同一行に記述されているコメントのみ有効 )

・行内注記に記述されているコメントが出力されます。

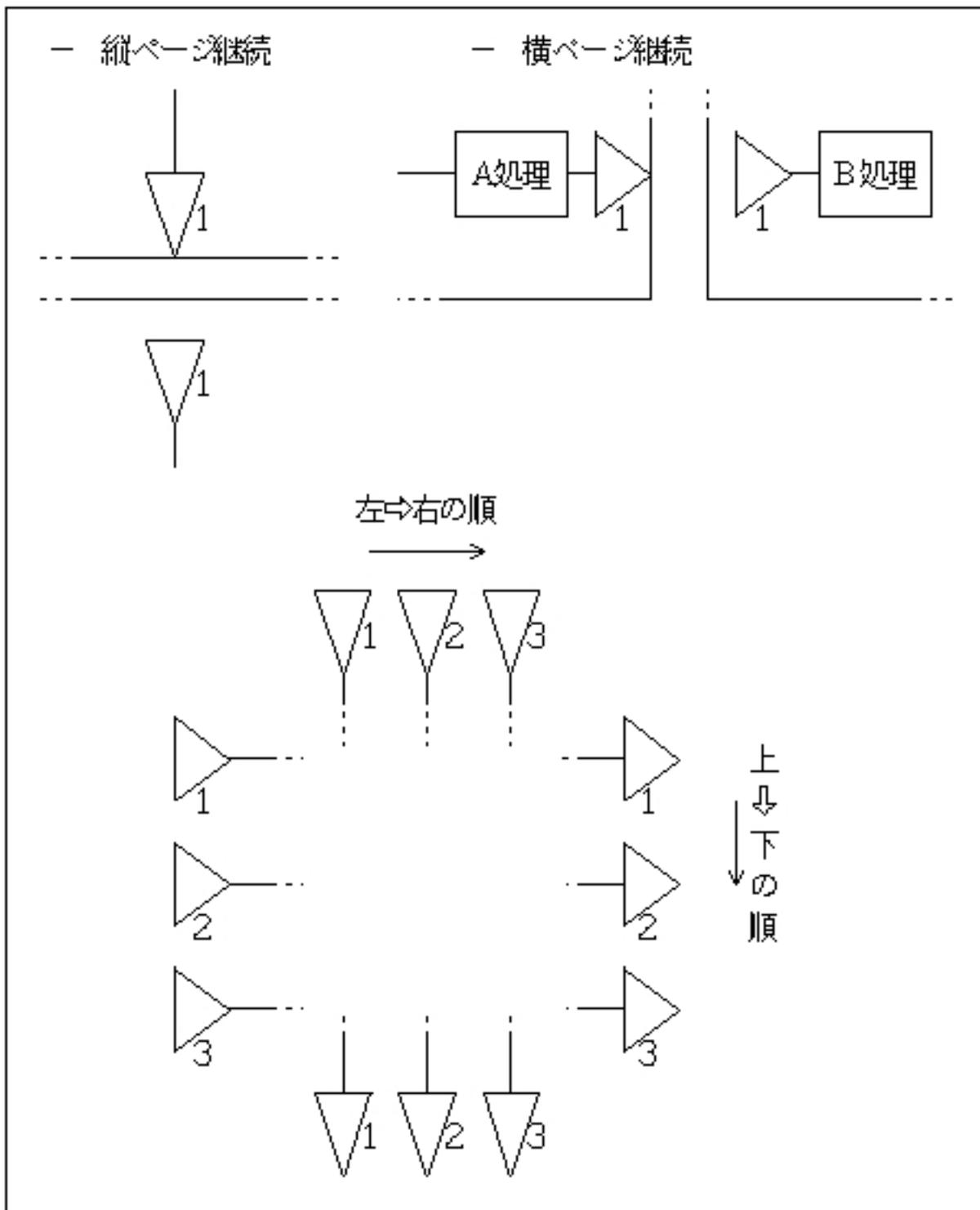
## セクション構造図の注意事項

セクション構造図の注意事項を以下に示します。

1 ページに出力されるセクション構造図の情報は先頭のプログラムを含め、縦16階層、横6階層まで出力されます。

1 ページ内に収まらない場合、縦または横ページ継続記号を用いて出力します。

同一ページ内に複数のページ継続番号が出現する場合、横ページ継続記号は、上・下の順、縦ページ継続記号は、左・右の順に、それぞれ1から連番をふります。以下にページ継続番号の出力形式を示します。



セクション構造図が複数ページにわたる場合は、横継続ページが続く限り出力し、なくなった場合1つ下のページを出力します。

#### 出力順序の例

次のようにページ継続する場合、1~7 順序で出力します。

①	②	③	
④	⑤	⑥	⑦

#### ページ位置の出力形式

ページ位置の出力はZEROサプレスの2桁で出力され、超えた場合は、ZEROから出力されません。

ページ位置：数字2桁-数字2桁<出力ページの横のページ数

↑

出力ページの縦のページ数

1 2 3

1	①	②	③
---	---	---	---

③のページ位置： 1- 3

プログラムIDは、プログラム開始図記号に記述されている文字列がそのまま出力されません。

サブルーチン名の出力は、プログラム呼出図記号に記述されている文字列がそのまま出力されます。また、CALL命令（COBOL記述）はサポートしていないのでセクション構造図に出力されません。

節呼出し図記号で呼び出されないセクションが存在した場合は、そのセクションは単独で出力されません。

節開始図記号及び節終了図記号で記述されたセクションしかサポートしていないので、その他の記述方法で記述した場合は、セクション構造図に出力されません。

PERFORM命令（COBOL記述）はサポートしていないのでセクション構造図に出力されません。

YPSインクルード仕様書内に記述されたセクションは、セクション構造図に出力されません。

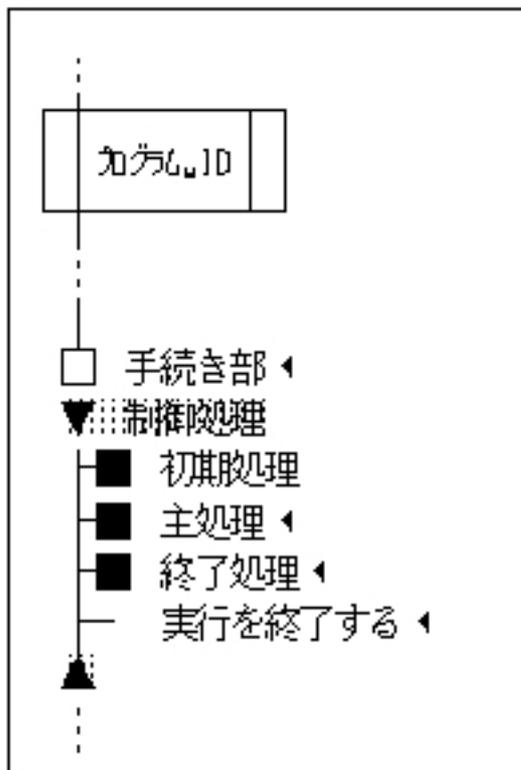
YPS仕様書内に翻訳エラー（Sレベル以上）があった場合はセクション構造図及び呼出条

件一覧は出力されません。

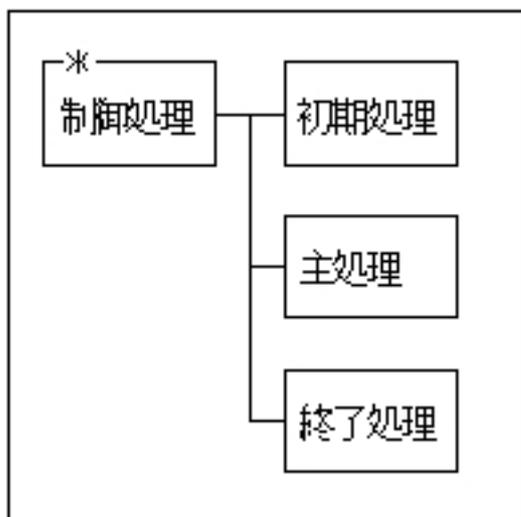
メインセクション（注）があるYPS仕様書の場合、出力形式が異なります。

注）メインセクションとは、YPS仕様書の手続き部の直後にある呼び出されないセクションのことです。

メインセクションがあるYPS仕様書の記述例

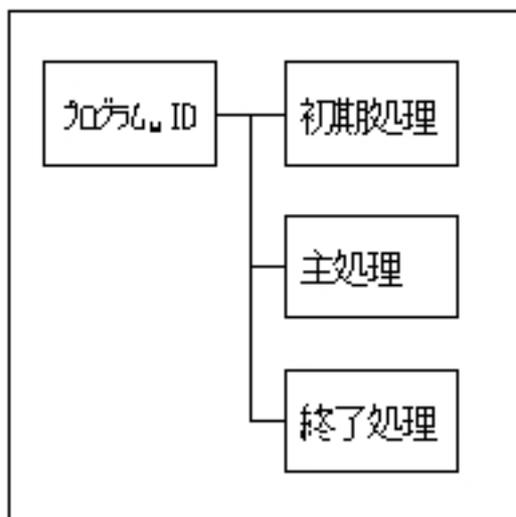


セクション構造図



メインセクションがなかった場合の

セクション構造図



メインセクションがある場合の出力形式の違いを以下に示します。

1) 入力となるYPS仕様書にメインセクションがある場合、1ページ目にプログラムIDのボックスは出力されずに、メインセクションが出力されます。この時、ボックスに「\*」を出力し、プログラムIDとの区別をします。

2) メインセクションは呼出元の節がないが、エラーと認識しません。

出力項目 : プログラムID (第1階層のみ)

説明

---

プログラム開始図記号に記述されているプログラムIDを30文字の全角で出力します。(1段目: 8文字、2段目: 8文字、3段目: 8文字、4段目: 6文字)

出力項目 : セクション名 (第2階層以降)

説明

---

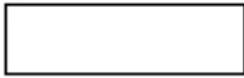
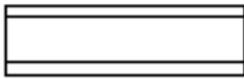
セクション名を30文字の全角で出力します。

(1段目 : 8文字、2段目 : 8文字、3段目 : 8文字、4段目 : 6文字)

出力項目 : サブルーチン名 (第2階層出力以降)

## 説明

サブルーチン呼出図記号に記述されているサブルーチンIDを24文字の全角でします。(1段目: 8文字、2段目: 8文字、3段目: 8文字) セクション構造図は、プログラム及び呼出先セクションと共用セクションとではボックスの形が異なります。以下に各セクションに対するボックスの形を示します。

種別	出力形式	備考
プログラム 呼出先セクション		——
共用セクション		モジュール内で同一セクションを複数呼出している場合の2回目以降に呼出しているセクションの出力方式です。但し、そのセクションの下位の情報は出力されず矢印が出力されます。
サブルーチン		——

出力項目 : 呼出条件記号

説明

---

呼出条件を示します。以下にその出力方法を示します。

呼出条件記号	ケース
◇	呼出条件がある場合
無し	呼出条件が無い場合

出力項目 : 呼出条件番号

説明

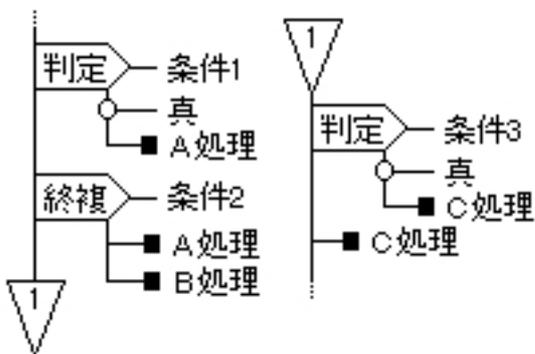
---

セクション及びサブルーチンの呼出条件が出現した順に連番（注）をふり、その番号を出力します。この番号は、呼出条件一覧にも出力し番号を対応させます。

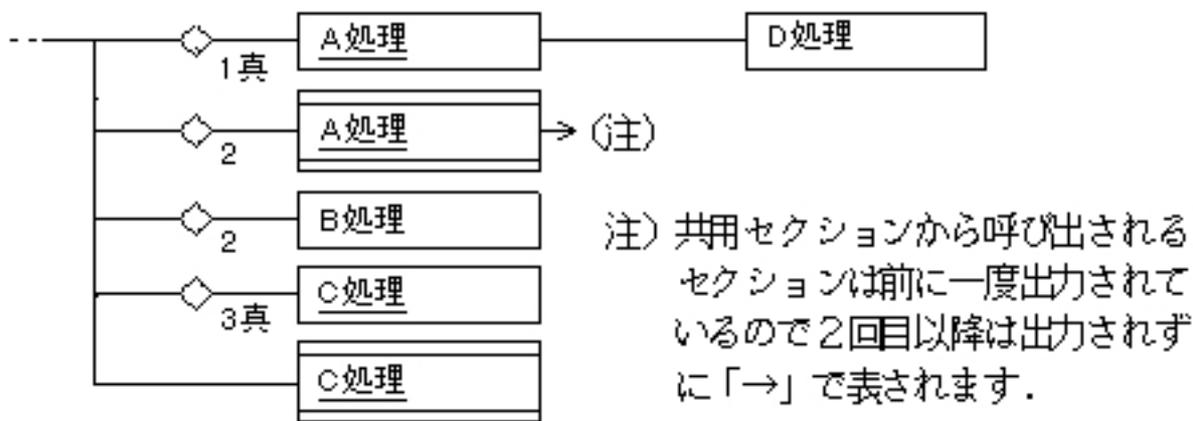
同一の呼出条件が既に出現している場合、呼出条件番号には前回出現したとき設定した呼出条件番号を用います。

この番号は、ZEROサプレスの3桁で出力され、超えた場合はZEROから出力されます。注) これを呼出条件番号といいます。

Y P S 仕様書



セクション構造図



### 呼出条件一覧

条件番号	条件種別	グループNo.	条件内容
1	判定		条件1
2	終復		条件2
3	判定		条件3

出力項目 : 呼出条件真偽

### 説明

セクション及びサブルーチンの呼出条件真偽を示します。その出力方法を以下に示します。

呼出条件真偽	ケース
真	呼出条件を満たす場合
偽	呼出条件に反する場合

出力項目 : 呼出条件番号

説明

---

YPS仕様書内にセクション及びサブルーチンが呼び出される時の条件が出現した順に連番をふり、その番号をZEROサプレスの3桁で出力します。超えた場合は、ZEROから出力します。

セクション構造図の'呼出条件番号'に対応しているが、呼出条件の階層は意識していません。

出力項目 : 呼出条件種別

説明

---

YPS仕様書内のセクション及びサブルーチンが呼び出される時の条件を4文字の全角で出力します。呼出条件種別として出力される内容を以下に示します。

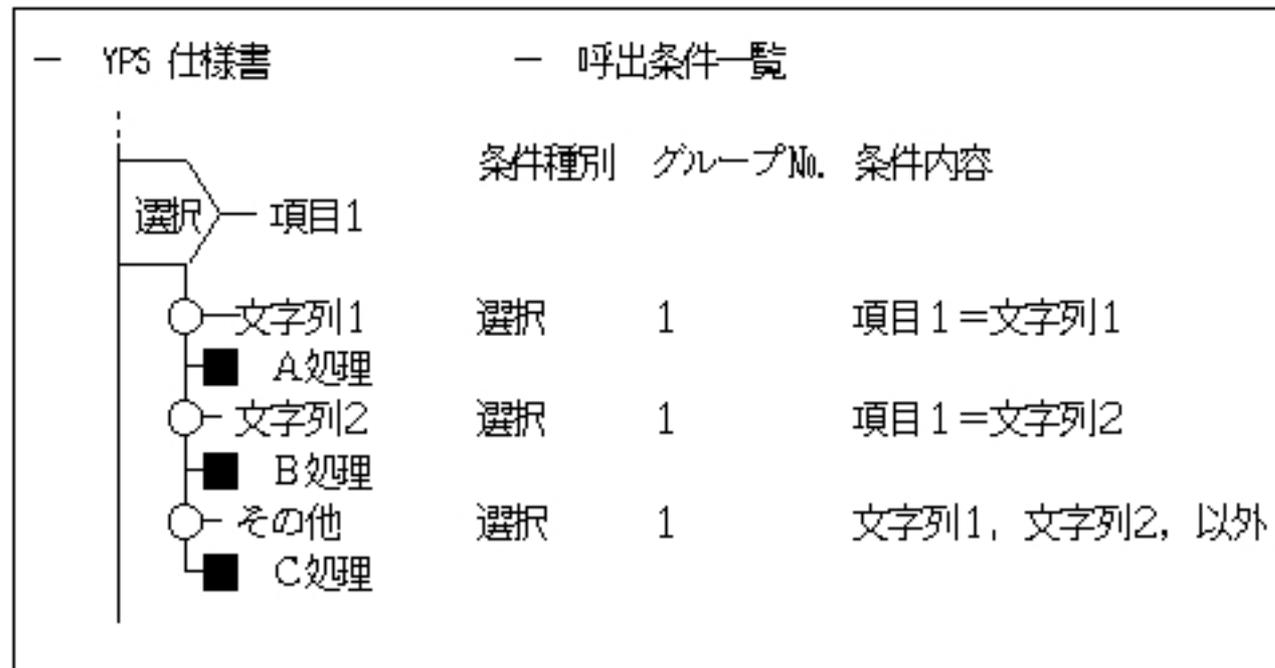
一前復	一選択	一組合反復
一後復	一複選	一組合更復
一終復	一評価	一組合前復
一反復	一切換	一組合後復
一更復	一翻訳判定	一例外
一判定	一翻訳選択	一組合終復

出力項目 : 呼出グループNo.

## 説明

ZEROサプレスの3桁で出力され、超えた場合はZEROから出力されます

セクション及びサブルーチンの呼出条件が選択、評価または複選の場合、セクションの呼出条件としては複数出力されますが、命令としては1つです。そこで1つの命令から発生する複数の呼出条件を1つのグループと考え、呼出条件にグループNo.をつけて表現します。出力例を以下に示します。



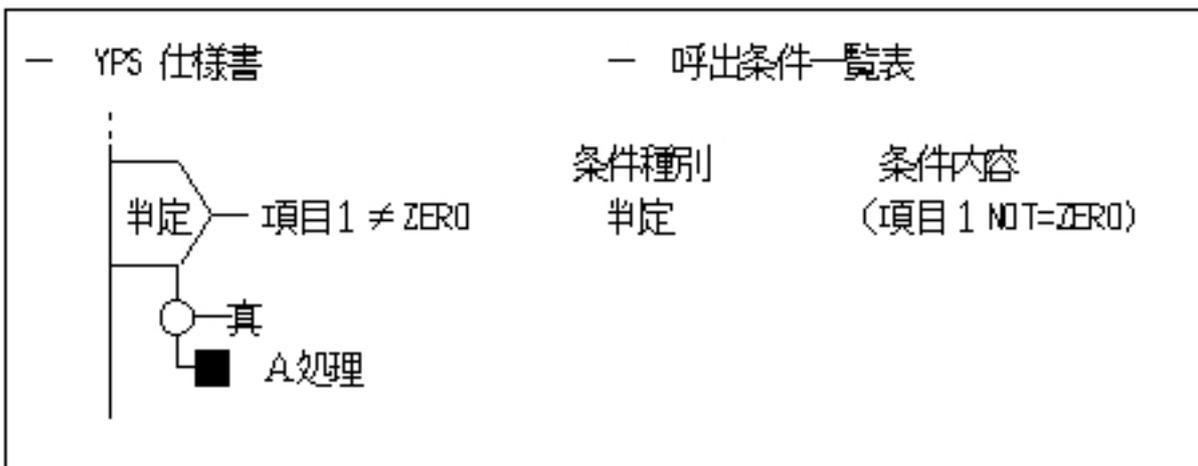
出力項目 : 呼出条件内容

## 説明

YPS仕様書内に記述されている呼出条件が複数行に分けて記述されている場合、その行の最後の文字と次行の先頭の文字はつながって出力されます。(空白は入りません)

全角で46文字、半角で92文字まで出力され、超えた場合は次行へ出力されます。但し、項目名の途中等で改行しないように1行の最大出力文字数に近いところを空白、不等号、'または'、'かつ'、'OR'、'AND' 区切ることにより、その直前までの文字列が1行に出力されます。

外部構文定義書に定義している文字列が呼出条件内容に存在した場合、COBOLの文字列に変換され、前後にカッコが付与されて出力されます。出力例を以下に示します。



## セクション機能概要の注意事項

セクション機能概要の注意事項を以下に示します。

・要約図記号内に以下に示す予約語またはキーワードが記述されている場合、その要約は出力されません。

予約語及びキーワード		
・ファイル情報定義	・ファイル名	・アクセス名
・アクセスモード	・入出力区分	・サブルーチン名
・画面名		

・ユーザ固有の利用者定義構文及び、抽象化構文内で記述されたPERFORM命令はサポートしていません。

・PERFORM命令（COBOL記述）はサポートしていません。

・ラベルを使用してセクションが記述してある場合は出力されません。

・内部プログラム及び2次入口点（ENTRY）はサポートしていません。

・セクション内に予約語「セクション機能概要」、要約図記号、節呼出し図記号のいずれも存在しない場合、セクション機能概要リストにセクション名は出力されません。

・セクション外に要約図記号、節呼出し図記号が存在した場合、記述した前のセクションの最後に出力されます。（シーケンス番号は前のセクションから連番で出力されます）

知りたい個所をクリックしてください。

シーケンス番号

1. S100 - 初期処理を行う
2. S200 - 主処理を行う
3. S300 - 終了処理を行う

S100 - 初期処理 セクション名

作業領域の初期化及び、ファイルのOPENを行う。

セクション機能概要

1. ファイルのオープン処理をする。 要約

1.1 S110 - ファイルオープン処理を行う 段階的詳細処理

S110 - ファイルオープン処理

在庫マスタファイル及び、在庫一覧表出力ファイルをオープンする。

出力項目 : YPS仕様書の内容

説明

---

YPS仕様書の内容がYACII形式で出力されます。YPSドキュメントと同等の機能を有するが、継続記号は出力されません。改ページマーク' 'が現れた時点で改ページを行います。1ページに最大86行出力します。

## 通常印刷

通常印刷とは、作成したドキュメントを画面に表示しないで、直接プリンタに印刷することをいいます。通常印刷は、以下の手順で行います。

「[ドキュメントの表示方法](#)」の ~ の操作を行います。

「ドキュメント出力」ダイアログボックスの「印刷(P)...」ボタンを押下します。

「[ドキュメントの表示方法](#)」の ~ の操作を行います。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「[ファイル\(F\)](#)」を選択します。

プルダウンメニュー内の、「印刷(P)...」を選択します。

「印刷」ダイアログボックスがオープンされるので、必要な設定を行った後、「OK」ボタンを押下します。印刷をキャンセルしたい場合は「キャンセル」ボタンを押下します。

## 通常保管

通常保管とは、YPS開発資源から抽出を行い、抽出結果を保管帳票ファイルに直接格納することをいいます。通常保管は、以下の手順で行います。

「[ドキュメントの表示方法](#)」の ~ の操作を行います。

「ドキュメント出力」ダイアログボックスの「保管(S)...」ボタンを押下します。

「名前を付けて保存」ダイアログボックスがオープンされるので、格納先のフォルダと保管帳票ファイル名を指定し、「OK」ボタンを押下します。ドキュメントを保管しない場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。

保管帳票ファイルは、拡張子が「KFF」として指定されたフォルダ上に作成されます。ただし、YPS仕様書については、ドキュメントの保管はできません。

以下に、「保管帳票」ダイアログボックスを示します。



「[ドキュメントの表示方法](#)」の - の操作を行います。

「メインウィンドウ」のメニューバーから、「[ファイル\(F\)](#)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「名前を付けて保存(A)」を選択し、ポップアップメニューから「保管帳票ファイル(H) ...」を選択します。

「名前を付けて保存」ダイアログボックスがオープンされるので、格納先のフォルダと保管帳票ファイル名を指定し、「OK」ボタンを押下します。ドキュメントを保管しない場合は、「キャンセル」ボタンを押下します。

保管帳票ファイルは、拡張子が「KFF」として指定されたフォルダ上に作成されます。ただし、YPS仕様書については、ドキュメントの保管はできません。

以下に、「保管帳票」ダイアログボックスを示します。



[R D B 2 情報定義注意事項](#)

[R D B 2 情報定義記述形式](#)

[R D B 2 情報定義記述例](#)

[R D B 2 情報定義記述位置](#)

[プログラム呼出し](#)

[サブスキーマ名記述項](#)

[ファイル管理記述項](#)

[ファイル記述項](#)

[OPEN文](#)

[前提条件](#)

[節及び節呼出し](#)

[プログラム名](#)

[取込み](#)

[COPY命令](#)

[サブルーチン定義記述位置](#)

[サブルーチン定義記述形式](#)

[サブルーチン定義記述例](#)

[サブルーチン定義注意事項](#)

[セクション機能概要定義注意事項](#)

[セクション機能概要定義記述位置](#)

[セクション機能概要定義記述形式](#)

[セクション機能概要定義記述例](#)

[ドキュメント表示連携印刷](#)

[ドキュメントの印刷方法](#)

[通常印刷](#)

[モジュール設計書（表紙）出力](#)

[セクション機能概要の出力形式](#)

[呼出条件一覧の出力形式](#)

[変更履歴一覧票出力](#)

[モジュール概要\(補助シート2\)の出力形式](#)

[セクション構造図の出力形式](#)

[モジュール概要\(補助シート1\)の出力形式](#)

[モジュール概要の出力形式](#)

[YPS仕様書出力](#)

EXSPECのバージョン情報は以下の手順で参照できます。

「メインウインドウ」のメニューバーから、「ヘルプ(H)」を選択します。

プルダウンメニュー内の「バージョン情報(A)...」を選択します。

バージョン情報が表示されます。

バージョン情報の「OK」ボタンを押下して終了すると、「メインウインドウ」に戻ります。

[ファイル情報定義注意事項](#)

[ファイル情報定義記述形式](#)

[ファイル情報定義記述例](#)

[ファイル情報定義記述位置](#)

[\[表示\]メニュー](#)

[\[環境\]メニュー](#)

[\[ファイル\]メニュー](#)

[\[ヘルプ\]メニュー](#)

[モジュール概要定義注意事項](#)

[モジュール概要定義記述位置](#)

[モジュール概要定義記述例](#)

[モジュール概要定義記述形式](#)

[モジュール属性記述形式](#)

[モジュール属性記述例](#)

[モジュール属性記述位置](#)

[モジュール属性記述注意事項](#)

[外部ファイル情報定義記述例](#)

[外部ファイル情報定義記述形式](#)

[外部ファイル情報定義注意事項](#)

[外部ファイル情報定義記述位置](#)

[外部画面情報定義記述形式](#)

[外部画面情報定義注意事項](#)

[外部画面情報定義記述位置](#)

[外部画面情報定義記述例](#)

[セクション機能概要定義記述位置](#)

[R D B 2 情報定義記述位置](#)

[外部ファイル情報定義記述位置](#)

[モジュール概要定義記述位置](#)

[履歴情報定義記述位置](#)

[ファイル情報定義記述位置](#)

[モジュール属性記述位置](#)

[サブルーチン定義記述位置](#)

[外部画面情報定義記述位置](#)

[著作権表示記述位置](#)

[セクション機能概要定義記述形式](#)

[外部ファイル情報定義記述形式](#)

[著作権表示記述形式](#)

[履歴情報定義記述形式](#)

[モジュール概要定義記述形式](#)

[サブルーチン定義記述形式](#)

[モジュール属性記述形式](#)

[ファイル情報定義記述形式](#)

[R D B 2 情報定義記述形式](#)

[外部画面情報定義記述形式](#)

[セクション機能概要定義記述例](#)

[著作権表示記述例](#)

[サブルーチン定義記述例](#)

[ファイル情報定義記述例](#)

[モジュール属性記述例](#)

[モジュール概要定義記述例](#)

[外部ファイル情報定義記述例](#)

[履歴情報定義記述例](#)

[外部画面情報定義記述例](#)

[R D B 2 情報定義記述例](#)

[情報定義コメントのキーワード](#)

[情報定義コメントの予約語](#)

[制限事項](#)

[前提条件制限事項](#)

[モジュール属性記述注意事項](#)

[著作権表示注意事項](#)

[ファイル情報定義注意事項](#)

[R D B 2 情報定義注意事項](#)

[外部ファイル情報定義注意事項](#)

[履歴情報定義注意事項](#)

[セクション機能概要定義注意事項](#)

[注意事項](#)

[モジュール概要定義注意事項](#)

[サブルーチン定義注意事項](#)

[外部画面情報定義注意事項](#)

[著作權表示記述形式](#)

[著作權表示注意事項](#)

[著作權表示記述例](#)

[著作權表示記述位置](#)

[通常保管](#)

[保管ドキュメントからの表示](#)

[ドキュメント表示連携保管](#)

[保管ドキュメントからの表示](#)

[履歷情報定義記述形式](#)

[履歷情報定義注意事項](#)

[履歷情報定義記述位置](#)

[履歷情報定義記述例](#)

出力項目 : シーケンス番号

説明

---

YPS仕様書の節内で、要約図記号、節呼出し図記号（‘セクション機能概要’の文字列よりも先に要約図記号、または節呼出し図記号が記述されてある場合はセクション機能概要も該当する）が記述されてある順番にシーケンス番号が出力されます。

出力項目 : セクション名

説明

---

YPS仕様書の節開始図記号に記述されてある文字列をセクション名として出力します。YPS仕様書の節開始図記号に記述されてある文字列を30文字の全角、または60文字の半角で出力します。

出力項目 : セクション機能概要

説明

---

セクション機能概要（コメント）からセクション機能概要を出力します 1 行につき、60文字の全角、または120文字の半角で出力します。

出力項目 : 要約

説明

---

YPS様書の要約図記号で記述してある文字列を出力します。1行につき、60文字の全角、または120文字の半角で出力します。1つの要約図記号に対して最大30行まで出力します。

出力項目 : 段階的詳細処理

説明

---

YPS仕様書の節呼出し図記号に記述されてある文字列に‘を行う’を付与して出力します。  
YPS仕様書の節呼出し図記号に記述されてある文字列を55文字の全角、60文字の半角で出力  
します。（‘を行う’を除きます）